

ひ の で ちょう 2
日の出町Ⅱ遺跡

－災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2018.3

岩手県宮古市教育委員会

ひ の で ちょう 2
日の出町Ⅱ遺跡

－災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2018.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には現在のところ 680 か所の遺跡が確認されています。私たちは先人が残した遺跡を保護することが市民へ課せられた責務であると考えております。

一方で住宅や道路を始めとする土地開発は現代において快適な生活を送るためには不可欠な行為であります。その中で遺跡における開発行為については協議、調整を重ねることにより遺跡の保存と土地開発が調和できるよう努めておりますが、やむを得ず失われる遺跡については記録保存を目的とする発掘調査を行っているところであります。

本書は宮古市が事業主体者としている災害公営住宅整備事業に伴い実施された発掘調査の報告です。東日本大震災大津波により建設されることになった日の出地区の災害公営住宅地において縄文時代から平安時代の遺構・遺物が多数発掘されました。中でも今から 12,000 年前に遡る縄文時代草創期の土器や 6 世紀の須恵器といった当地方の空白期間を埋める資料、「寺」と墨書された土師器が出土したことなど大きな成果を得ることが出来ました。


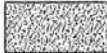
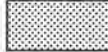
本書が広く活用され、地域の歴史解明に寄与し、文化財への理解と関心が高まる事を切に希望いたします。

最後となりましたが、今回の発掘調査と報告書作成に御協力賜りました派遣職員の方々、関係機関の皆様に衷心より感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

宮古市教育委員会
教育長 伊 藤 晃 二

例言

1. 本書は宮古市日の出町地区に所在した日の出町Ⅱ遺跡についての発掘調査報告書である。
2. この調査は、宮古市を事業主体とする災害公営住宅整備事業に伴う記録保存を目的とした緊急事前調査として実施されたものである。
3. 調査主体は宮古市教育委員会である。発掘調査は似内(盛岡市派遣職員)、村木(名古屋市派遣職員)、竹内(名古屋市派遣職員)、千葉が担当した。本書の執筆・編集は江口が担当し、文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標は公共座標 X 系を基準としたものである。座標値は $X = -38,000\text{m}$ 、 $Y = 96,000\text{m}$ を原点とした。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するために R を冠した。レベル数値は標高値である。
5. 土層観察及び文中の色調表記にあたっては『新版標準土色帖』(小山正忠、竹原秀雄編著1990年度版)を使用した。
6. 図版中の記号・略号の表記およびスクリーントーンを表示は以下のとおりである。
P…土器 S…石 …焼土 …繊維混入の縄文土器
…磨石の使用面
8. 遺物の観察は全て目視観察によるものである。
9. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目次

序

例言

目次 図版目次 表目次 写真図版目次

1 調査経過	1
(1) 調査に至る経過	1
(2) 調査概要	1
(3) 調査体制	1
(4) 宮古市の位置と環境	2
(5) 日の出町Ⅱ遺跡と周辺の遺跡	3
2 調査内容	5
(1) 基本土層	5
(2) 遺構と遺物	5
(3) 調査のまとめ	81
参考文献	
写真図版	83
報告書抄録	104

図版目次

第1図	日の出町Ⅱ遺跡位置図	2	第38図	土坑跡出土石器	44
第2図	遺跡周辺地形図	3	第39図	1次調査区遺構外出土土器(1)	45
第3図	周辺の遺跡分布図	4	第40図	1次調査区遺構外出土土器(2)	46
第4図	調査区模式図	6	第41図	1次調査区遺構外出土土器(3)	47
第5図	調査全体図	7	第42図	1次調査区遺構外出土土器(4)	48
第6図	1次調査区全体図・断面図	9	第43図	1次調査区遺構外出土土器(5)	49
第7図	3次調査区全体図	11	第44図	1次調査区遺構外出土土器(6)	50
第8図	3次調査区断面図	13	第45図	1次調査区遺構外出土土器(7)	51
第9図	1号竪穴住居跡平面図・断面図	15	第46図	1次調査区遺構外出土土器(8)	52
第10図	2号竪穴跡平面図・断面図	16	第47図	1次調査区遺構外出土土器(9)	53
第11図	3号竪穴跡、6号土坑、17号焼土遺構 ピット115平面図	17	第48図	1次調査区遺構外出土土器(10)	54
第12図	3号竪穴跡、6号土坑、17号焼土遺構 ピット115断面図	18	第49図	1次調査区遺構外出土土器(11)	55
第13図	1号竪穴住居跡、2号、3号竪穴跡出土遺物	18	第50図	1次調査区遺構外出土土器(12)	56
第14図	4号竪穴住居跡平面図・断面図	19	第51図	1次調査区遺構外出土土器(13)	57
第15図	5号竪穴住居跡平面図・断面図	20	第52図	1次調査区遺構外出土土器(14)	58
第16図	5号竪穴住居跡断面図	21	第53図	1次調査区遺構外出土土器(15)	59
第17図	6号竪穴住居跡平面図・断面図	23	第54図	1次調査区遺構外出土土器(16)	60
第18図	6号竪穴住居跡掘り方平面図	24	第55図	1次調査区遺構外出土土器(17)	61
第19図	1次調査区遺構平面図(1)	25	第56図	1次調査区遺構外出土石器(1)	62
第20図	1次調査区遺構断面図(1)	26	第57図	1次調査区遺構外出土石器(2)	63
第21図	1次調査区遺構平面図(2)	27	第58図	1次調査区遺構外出土石器(3)	64
第22図	1次調査区遺構断面図(2)	28	第59図	1次調査区遺構外出土石器(4)	65
第23図	1次調査区遺構平面図(3)	29	第60図	1次調査区遺構外出土石器(5)	66
第24図	1次調査区遺構断面図(3)	30	第61図	1次調査区遺構外出土石器(6)	67
第25図	1次調査区遺構平面図(4)	31	第62図	1次調査区遺構外出土石器(7)	68
第26図	1次調査区遺構断面図(4)	32	第63図	1次調査区遺構外出土石器(8)	69
第27図	1次調査区遺構平面図(5)・断面図(5)・	33	第64図	1次調査区遺構外出土土製品	70
第28図	1次調査区遺構平面図(6)・断面図(6)・	34	第65図	3次調査区遺構外出土土器(1)	71
第29図	3次調査区遺構平面図(1)	35	第66図	3次調査区遺構外出土土器(2)	72
第30図	3次調査区遺構断面図(1)	36	第67図	3次調査区遺構外出土土器(3)	73
第31図	3次調査区遺構平面図(2)・断面図(2)・	37	第68図	3次調査区遺構外出土土器(4)	74
第32図	3次調査区遺構平面図(3)・断面図(3)・	38	第69図	3次調査区遺構外出土土器(5)	75
第33図	4号、5号竪穴住居跡出土遺物	39	第70図	1次・3次調査区遺構外出土土器	76
第34図	5号竪穴住居跡出土遺物	40	第71図	3次調査区遺構外出土石器(1)	77
第35図	6号竪穴住居跡出土遺物	41	第72図	3次調査区遺構外出土石器(2)	78
第36図	土坑出土遺物	42	第73図	3次調査区遺構外出土石器(3)	79
第37図	土坑、焼土遺構出土遺物	43			

表目次

第1表	土坑、焼土遺構、ピット計測表(1) ……	30	第3表	土坑、焼土遺構、ピット計測表(3) ……	34
第2表	土坑、焼土遺構、ピット計測表(2) ……	32	第4表	土坑、焼土遺構、ピット計測表(4) ……	38

写真図版目次

写真1	日の出地区航空写真 ……	85	写真35	6号土坑完掘 ……	94
写真2	1次調査区全景(1) ……	86	写真36	7号土坑完掘 ……	94
写真3	1次調査区全景(2) ……	86	写真37	ピット114完掘 ……	94
写真4	1次調査区南部近景(1) ……	87	写真38	2号焼土完掘 ……	95
写真5	1次調査区南部近景(2) ……	87	写真39	3号・4号焼土完掘 ……	95
写真6	1号竪穴住居跡完掘(1) ……	88	写真40	3号焼土土層断面 ……	95
写真7	1号竪穴住居跡全景(2) ……	88	写真41	4号焼土土層断面 ……	95
写真8	1号竪穴住居跡土層断面(1) ……	88	写真42	7～11号焼土検出状況 ……	95
写真9	1号竪穴住居跡土層断面(2) ……	88	写真43	18号焼土検出面 ……	95
写真10	1号竪穴住居跡内ピット土層断面 ……	88	写真44	19号焼土検出面 ……	95
写真11	2号竪穴跡完掘 ……	89	写真45	1次調査区南西部ピット完掘(1) ……	95
写真12	2号竪穴跡土層断面 ……	89	写真46	1次調査区南西部ピット完掘(2) ……	96
写真13	3号竪穴跡完掘 ……	90	写真47	1次調査区土層断面 ……	96
写真14	3号竪穴跡土層断面 ……	90	写真48	3次調査区土層断面 ……	96
写真15	4号竪穴住居跡完掘 ……	91	写真49	1次調査区遺物出土状況(1) ……	96
写真16	4号竪穴住居跡土層断面 ……	91	写真50	1次調査区遺物出土状況(2) ……	96
写真17	4号竪穴住居跡カマド完掘 ……	91	写真51	作業状況 ……	96
写真18	4号竪穴住居跡煙道土層断面 ……	91	写真52	2次調査区調査完了状況 ……	96
写真19	4号竪穴住居跡床面遺物出土状況 ……	91	写真53	4次調査区調査完了状況 ……	96
写真20	5号竪穴住居跡完掘 ……	92	写真54	出土遺物(1) ……	97
写真21	5号竪穴住居跡土層断面 ……	92	写真55	出土遺物(2) ……	97
写真22	5号竪穴住居跡東カマド煙道土層断面 ……	92	写真56	出土遺物(3) ……	98
写真23	5号竪穴住居跡北カマド煙道土層断面 ……	92	写真57	出土遺物(4) ……	98
写真24	5号竪穴住居跡北カマド完掘 ……	92	写真58	出土遺物(5) ……	99
写真25	6号竪穴住居跡完掘(1) ……	93	写真59	出土遺物(6) ……	99
写真26	6号竪穴住居跡完掘(2) ……	93	写真60	出土遺物(7) ……	100
写真27	6号竪穴住居跡カマド完掘 ……	93	写真61	出土遺物(8) ……	100
写真28	6号竪穴住居跡カマド袖土層断面 ……	93	写真62	出土遺物(9) ……	101
写真29	6号竪穴住居跡カマド袖土層断面 ……	93	写真63	出土遺物(10) ……	101
写真30	1号・2号土坑完掘 ……	94	写真64	出土遺物(11) ……	102
写真31	3号・4号土坑完掘 ……	94	写真65	出土遺物(12) ……	102
写真32	3号土坑土層断面 ……	94	写真66	出土遺物(13) ……	103
写真33	4号土坑土層断面 ……	94	写真67	出土遺物(14) ……	103
写真34	5号土坑完掘 ……	94			

1 調査経過

(1) 調査に至る経過

日の出町Ⅱ遺跡発掘調査は宮古市日の出町において実施した災害公営住宅建設事業に伴う緊急の発掘調査である。宮古市教育委員会（以下、市教委）は平成25年1月、東日本大震災大津波により被災した方々を対象とする宮古北地区災害公営住宅の計画地である当該地の現地踏査を行い、事前に試掘調査が必要であることを開発主体者である宮古市都市整備部建築住宅課に伝えた。双方の協議の結果、試掘調査を実施することとなり、翌平成25年6月に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡、縄文時代に堆積した遺物包含層を確認したことから埋蔵文化財の保護措置についての協議を建築住宅課と行ったが、建設地が変更できないことから発掘調査を実施することとなり、7月4日から本調査に着手した。

市教委には平成25年1月29日付けで担当課である建築住宅課から文化財保護法第94条第1項の規定による埋蔵文化財発掘通知書が提出され、市教委は同日付けで岩手県教育委員会に進達している。これに対し、岩手県教育委員会からは建築住宅課に発掘調査を行う旨の通知があり、市教委はこれを建築住宅課に伝達している。なお、市教委は平成25年7月17日付けで文化財保護法第99条第1項の規定により埋蔵文化財発掘調査の実施を報告している。

(2) 調査概要

発掘調査地点	宮古市日の出町22番8、82番地内
調査原因	災害公営住宅整備事業（宮古北地区）
発掘調査面積	1,676㎡（対象面積5,568㎡）
発掘調査期間	平成25年7月4日～平成26年1月10日
資料整理期間	平成25年12月24日～平成26年3月28日 平成28年4月7日～平成30年3月30日

(3) 調査体制

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二
調査統括	竹下将男	宮古市教育委員会	文化課長（平成25年度・26年度） 高橋憲太郎 // //（平成27年度～）
事務担当	高橋憲太郎	//	文化課副主幹（平成25年度・26年度） 鎌田祐二 // 文化課副主幹（平成27年度～）
調査員	似内啓邦	//	文化課主査（平成25年度）調査担当
	村木 誠	//	文化課主査（平成25年度）調査担当
	竹内宇哲	//	文化課主任文化財調査員（平成25年度）調査担当
	安原 誠	//	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	//	文化課主任文化財調査員（平成25年度～27年度）
	江口邦泰	//	文化課主任文化財調査員（資料整理担当）
	千葉剛史	//	文化課文化財調査員（平成25年度～27年度） （調査・資料整理担当）
	阿部 豊	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	前川友宏	//	文化課埋蔵文化財調査員

発掘調査作業員 石崎衛司、一関順子、伊藤勝夫、上野律子、及川正志、大程保見、大森 修、加藤有次、菊池駿寛、小林功行、小松義一、坂下吉郎、坂本 晃、佐々木孝一、佐々木剛、佐々木勉、佐々木壽郎、佐々木則義、佐々木みさ子、佐藤重信、澤田榮夫、島越幸子、鈴木祥一、鈴木正広、館崎禮子、鳥居義文、中屋敷正富、野崎秀人、平野定明、前川政博、三上武一、三河 明、三河義郎、山口道義、山崎英男、山崎日日雄、山田誠一、山根清美、山根正夫、山根保行、山屋秋英、

資料整理作業員 上野律子、大森 修、加藤有次、坂下吉郎、佐々木孝一、中村明子、沼里 桜、三浦純子、山根保行、

(4) 宮古市の位置と環境 (第1図、第2図)

岩手県宮古市は三陸沿岸中部に位置し、北は岩泉町、西は盛岡市に隣接している。市の東端部に位置する鮭ヶ崎は本州最東端として知られている。平成17年には旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併し、平成22年には旧川井村が編入している。平成23年3月には東日本大震災大津波で甚大な被害を受け、現在は復興事業がすすめられている。

宮古市の沿岸部は隆起海岸が続き、海食により形成された自然景観は観光地として優れ、浄土ヶ浜は国の名勝に、三王岩は県の天然記念物に指定されている。市内を流れる河川は市の中央部を流れる閉伊川、宮古湾最奥部へ流れる津軽石川などがあり、河川流域の樹皮状に開析された丘陵地には数多くの遺跡が立地している。市内の地形は山地と丘陵地で占められている。山地は川井地区で



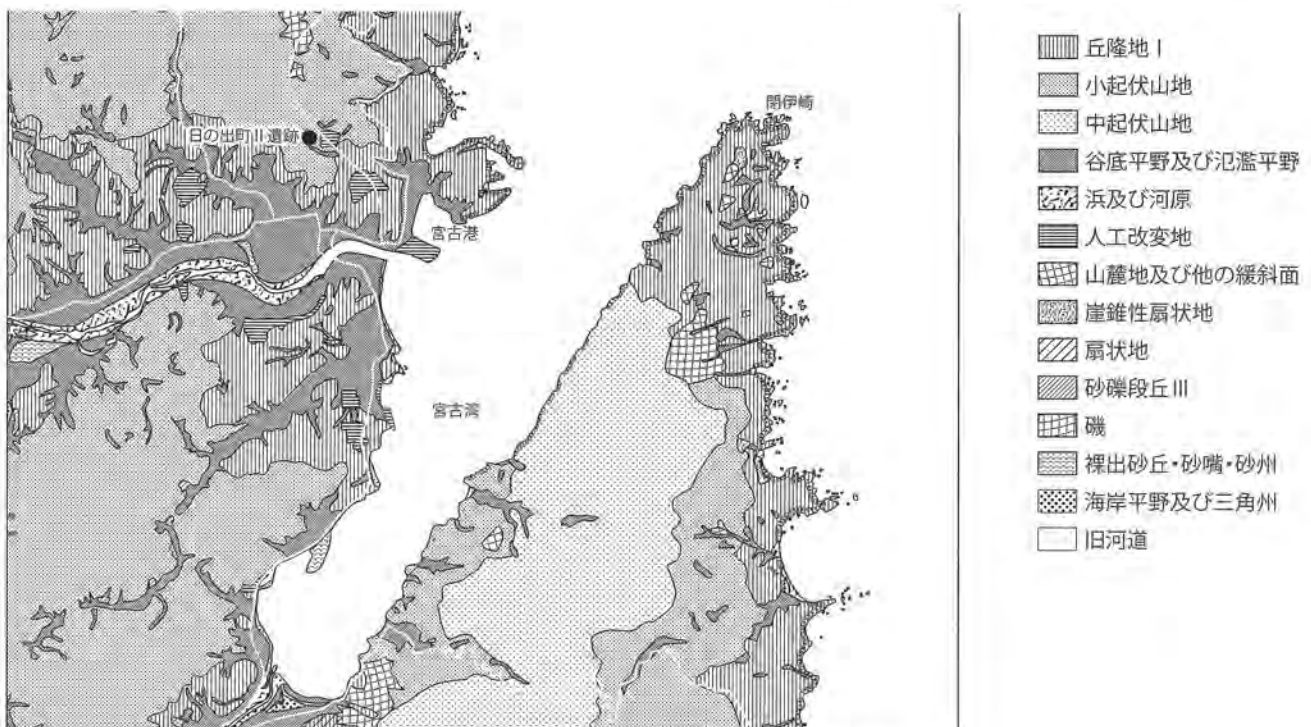
第1図 日の出町II遺跡位置図 (S = 1 : 50,000)

は標高1,000m級の大起伏山地が広がっているものの、山地帯の多くは重茂半島にある月山（455m）や十二神山（731m）を代表とする小起伏山地からなる。丘陵地は閉伊川流域の千徳丘陵や八木沢丘陵、津軽石川流域の豊間根丘陵、隆起海岸により形成され、小河川が流れて開析された小本丘陵などがある。小本丘陵は市の北部に位置し、国の史跡である崎山貝塚を代表とする大中規模の遺跡が多数所在している。

(5) 日の出町Ⅱ遺跡と周辺の遺跡（第3図）

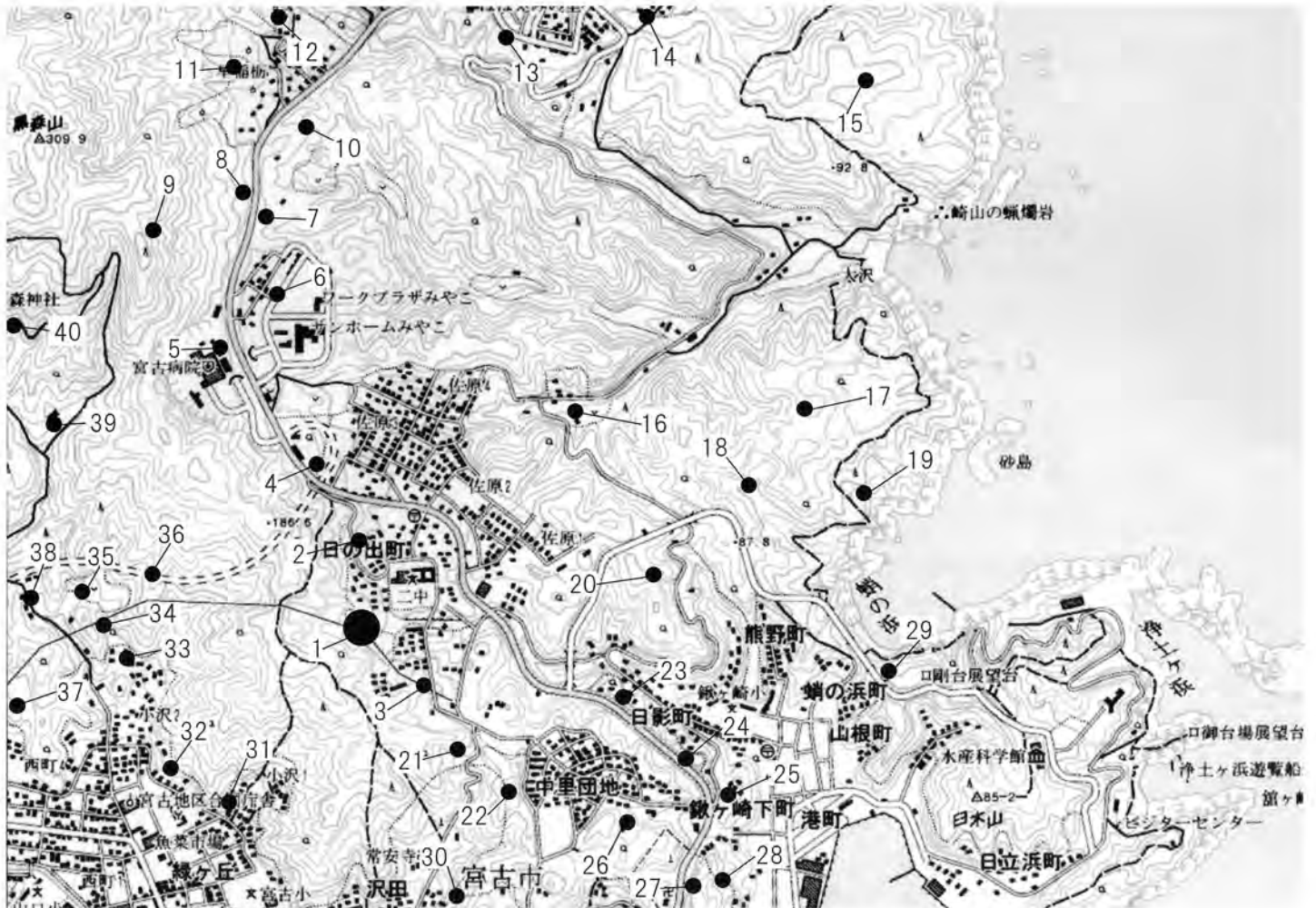
日の出町Ⅱ遺跡は県立宮古病院から南に0.9km離れた日の出町に所在する遺跡である。日の出地区には標高309mの黒森山から東に延びる小本丘陵上の緩斜面及び沢沿いに遺跡が立地している。当遺跡における発掘調査は今回が初めてになるが、昭和59年に刊行された『宮古市遺跡分布調査報告書2』では当遺跡の範囲内から採集された縄文時代前期・中期、弥生時代の遺物が報告されている。周辺においては尾根もしくは緩斜面に遺跡が点在している。当遺跡に隣接する日の出町Ⅰ遺跡では平成10年に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを調査主体とする国道事務所の官舎建設に伴う発掘調査が実施され、縄文時代中期の竪穴住居跡が1棟、縄文時代の土坑などを検出し、縄文時代早期～中期の土器、石器、石製垂飾品、時期不明の羽口などが出土している。北西に400m離れた佐原Ⅱ遺跡では市道北部環状線道路建設に伴い発掘調査が実施され、弥生時代の竪穴住居跡2棟などを検出し、縄文時代前期～後期の土器と石器、土師器、時期不明の陶磁器、鉄滓が出土している。

さらに北へ離れると、寒風遺跡、早稲栃Ⅵ遺跡、早稲栃Ⅲ遺跡で発掘調査が実施されている。寒風遺跡では古代の竪穴住居跡が3棟、早稲栃Ⅵ遺跡では縄文時代中期の竪穴住居跡が1棟を検出している。早稲栃Ⅲ遺跡では尾根上に縄文時代前期・中期後半、平安時代の竪穴住居跡を検出している。また、当遺跡の南東約900m離れた熊野町遺跡と約1.2km離れた鍬ヶ崎館山遺跡は小本丘陵の末端に位置する遺跡で、熊野町遺跡は16世紀の竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟などを検出し、青磁、



第2図 遺跡周辺地形図 (S = 1 : 50,000)

染付、天目茶碗、茶臼などが出土している。鍬ヶ崎館山遺跡は古くは、明治42年に当時の東京帝国大学が発掘調査を実施した著名な遺跡で、平成元年の宮古測候所（現宮古海上保安署）建物建て替えに伴う発掘調査では縄文時代中期・後期の貯蔵穴が22基、貝層が残された1棟を含む平安時代の竪穴住居跡2棟を検出し、縄文時代においては早期～後期の土器が、平安時代の竪穴住居跡からは製塩土器、鉄製の穂摘具、イガイなどの岩礁性の貝やアイナメ、カサゴ科の魚骨、穀類の種子が出土している。



- 1、日の出町Ⅱ 2、日の出町Ⅰ 3、日の出町Ⅲ 4、佐原Ⅱ 5、寒風 6、早稲栃Ⅵ
 7、早稲栃Ⅴ 8、南沢Ⅰ 9、黒森 10、早稲栃Ⅳ 11、早稲栃Ⅲ 12、早稲栃糠森
 13、大石 14、塚場 15、長磯 16、佐原 17、平松Ⅰ 18、平松Ⅱ 19、平松Ⅲ
 20、熊野町 21、沢田Ⅰ 22、沢田Ⅱ 23、日影町Ⅰ 24、日影町Ⅱ 25、鍬ヶ崎館山
 26、小山根 27、夏保 28、鍬ヶ崎仲町 29、井戸ヶ洞 30、黒田館 31、小沢Ⅱ大上
 32、小沢貝塚 33、小沢Ⅲ石倉平 34、小沢Ⅳ人形鼻 35、小沢Ⅴ神籠石 36、小沢Ⅵ
 37、拝殿ヶ沢 38、拝殿峠 39、黒森マギ沢 40、黒森山（太文字は発掘調査が刊行された遺跡）

第3図 周辺の遺跡分布図 (S = 1 : 25,000)

2 調査内容

(1) 基本土層 (第4図～第8図)

調査区は4ヶ所に分かれ、各々を1次調査区～4次調査区と呼称する。2次調査区と4次調査区は試掘調査を実施したが遺構・遺物は検出されなかったため、以降の記述については1次調査区と3次調査区から確認された遺構及び遺物である。基本土層は以下の通りである。

表土層 黒褐色土で、2層に分層される。縄文時代～近世の遺物が出土している。

I層 黒褐色土を主体とする。縄文時代～古代の遺物が出土している。

II層 暗褐色土、暗灰褐色土を主体とする。縄文時代前期～後期の遺物が出土している。

III層 暗褐色土、褐色土を主体とする。縄文時代前期に噴出した十和田一中振テフラ (To-Cu) が混入している。縄文時代草創期～前期の遺物が出土している。

IV層 褐色土を主体土とする。漸移層である。石器が出土している。

(2) 遺構と遺物

検出された遺構は竪穴住居跡・竪穴跡6棟、土坑9基、焼土遺構19基、ピット131基である。1次調査区では縄文時代の竪穴住居跡・竪穴跡2棟、古代の竪穴住居跡3棟、土坑2基、焼土遺構16基、ピット113基である。3次調査区では縄文時代の竪穴跡1棟、土坑7基、焼土遺構3基、ピット18基である。

・竪穴住居跡 (SI-01～06)

1号竪穴住居跡 (SI-01 第9図、第13図)

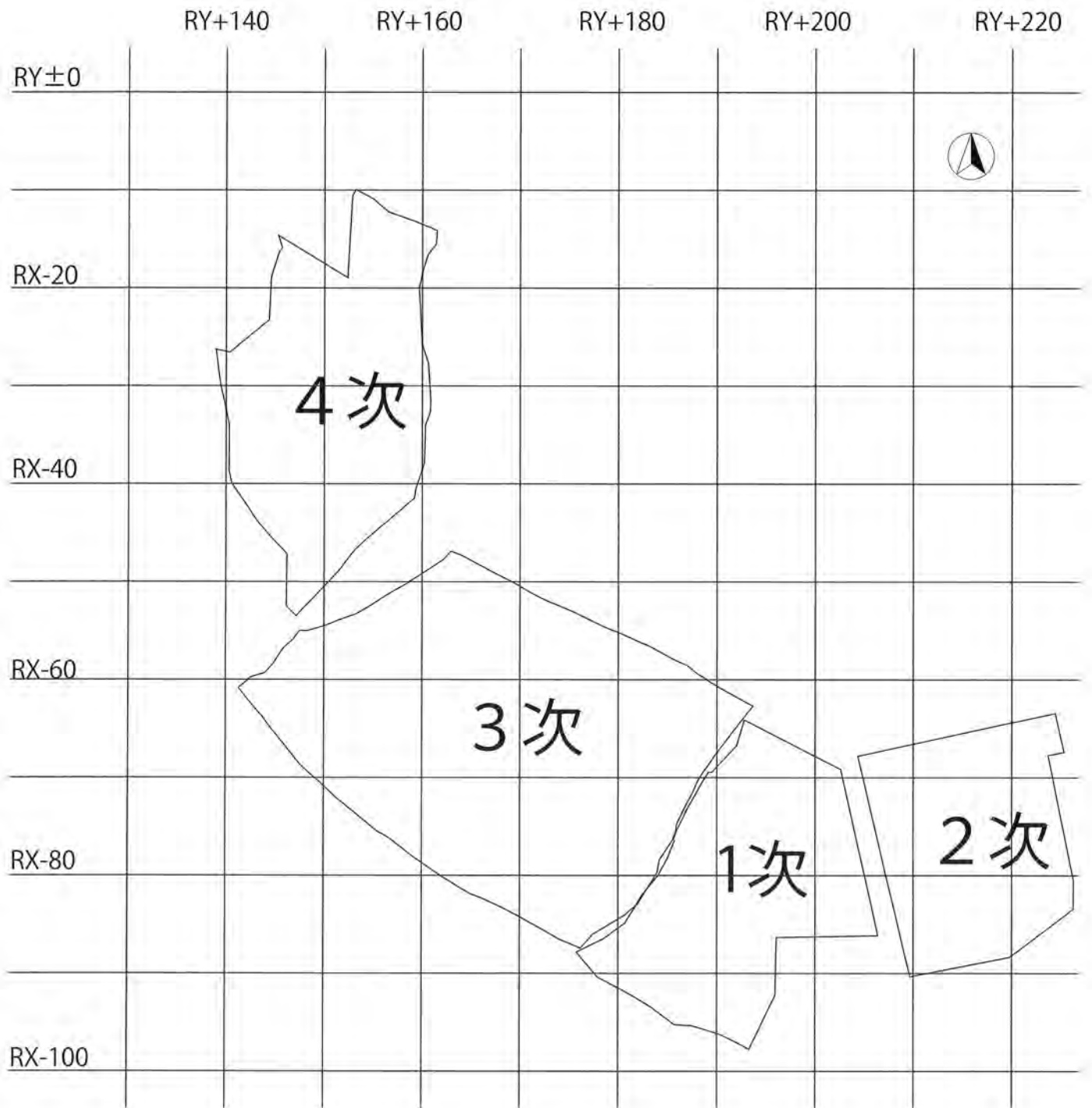
1次調査区北東、RX -76、RY +200周辺で検出された。等高線が密の傾斜地に楕円状に掘り込まれている。規模は長軸3 m10cm、短軸2 m50cmを測り、検出面から床面までの深さは32cmである。埋土はA層とB層の2層に大別され、自然堆積である。床面は概ね平坦である。床面の壁際には柱穴と考えられるピットが11基検出された。ピットの埋土については不詳である。なお、炉跡は検出されなかった。出土遺物は少量で、図示できる大きさのものはほとんどなかったが、押型文土器の破片が1点出土している (第13図1)。時期については縄文時代早期と考えられる。

2号竪穴跡 (SI-02 第10図、第13図)

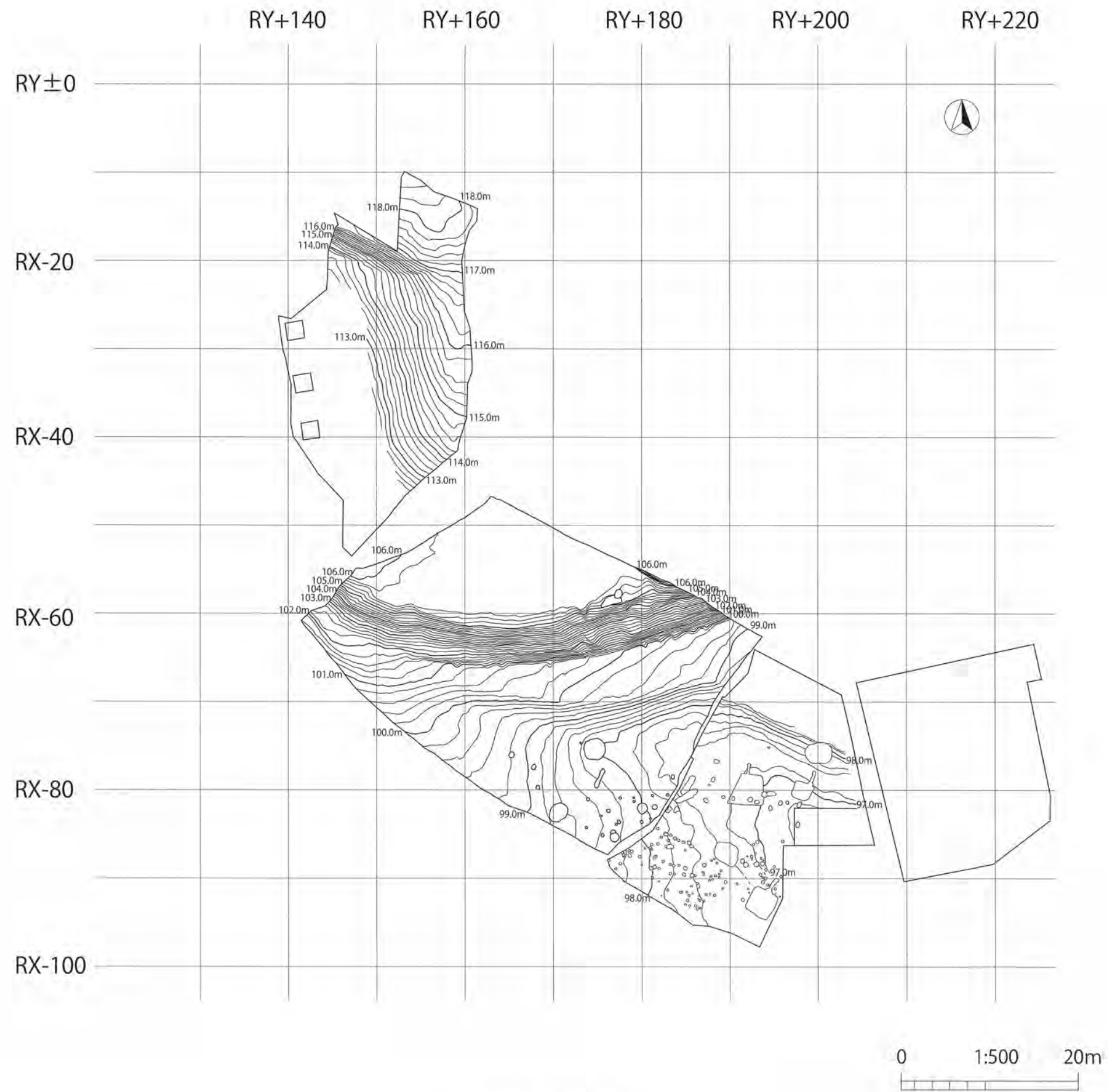
1次調査区南部、RX -63、RY +190周辺で検出された。緩斜面上に不整楕円状に掘り込まれている。規模は長軸2 m90cm、短軸2 m30cmを測り、検出面から床面までの深さは12cmである。埋土はA層とB層の2層に大別される。床面は概ね平坦である。床面から柱穴や炉跡は検出されなかった。出土遺物は少量で、図示できる大きさのものはほとんどなかった。出土遺物は少量で、図示できる大きさのものはほとんどなかったが、押型文土器の破片が1点出土している (第13図5)。時期については縄文時代早期と考えられる。

3号竪穴跡 (SI-03 第11図、第12図、第13図)

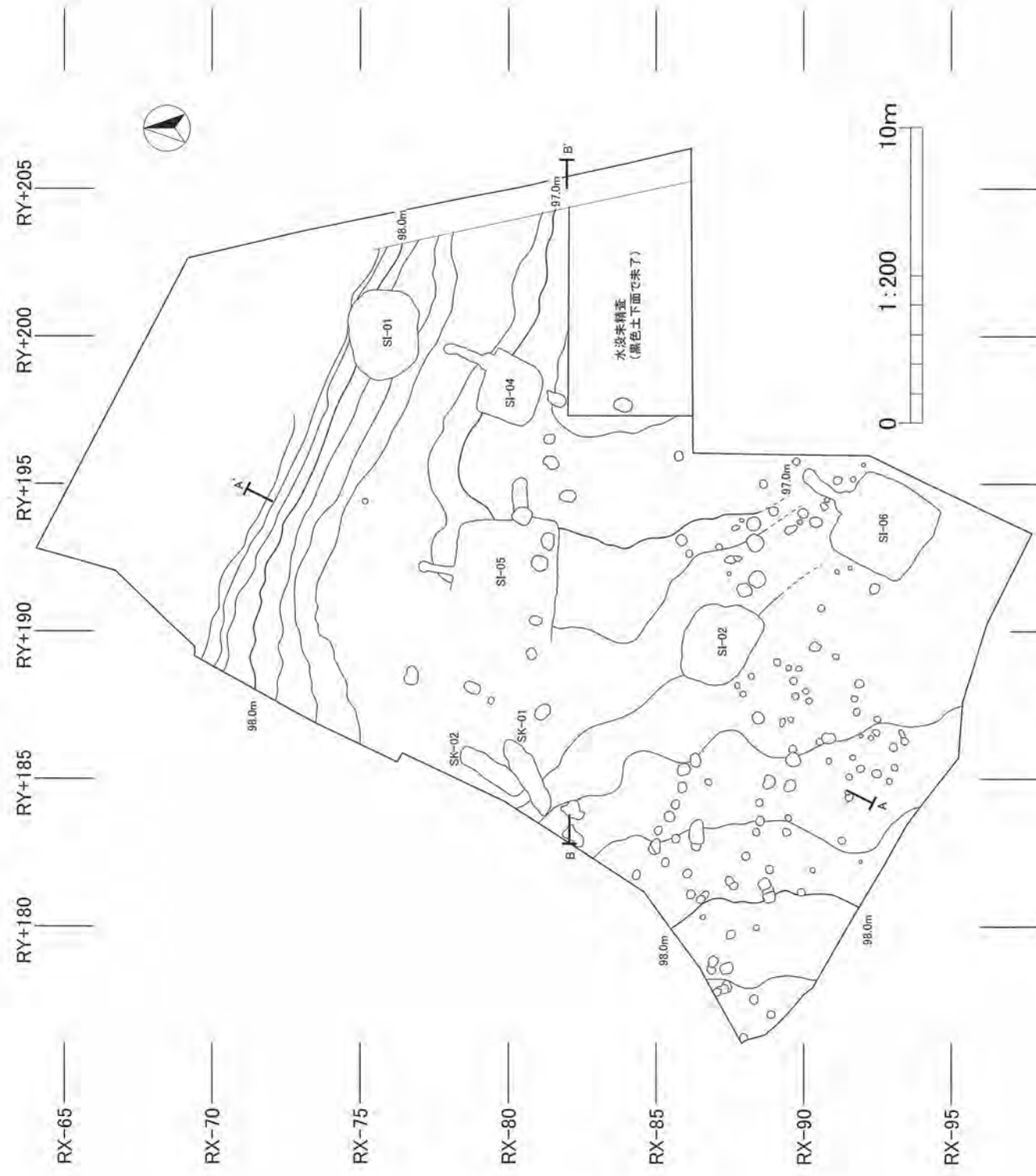
3次調査区南部、RX -75、RY +174周辺で検出された。緩斜面上を楕円状に掘り込まれている。規模は長軸2 m45cm、短軸2 m30cmを測り、検出面から床面までの深さは30cmである。埋土はA層とB層の2層に大別され、自然堆積である。床面は概ね平坦である。床面から柱穴や炉跡は検出されなかった。出土遺物は少量で、図示できる大きさのものはほとんどなかったが、縄文時代早期～



第4図 調査区模式図



第5図 調査全体図



A 98.600m

調査区南北断面図



調査区東西断面図

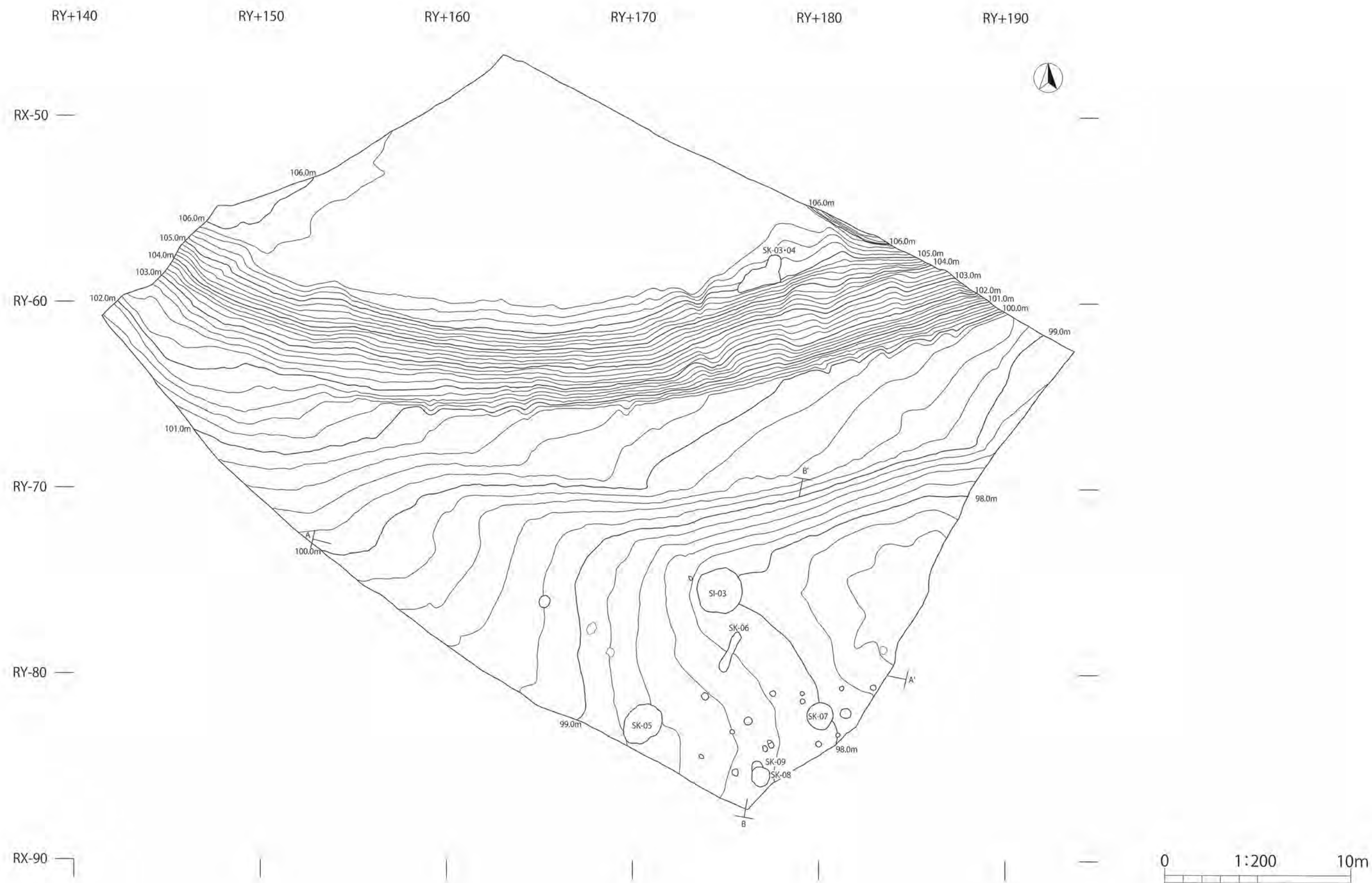
- Ia 2.5Y2/1 黒褐色土 微小な白色砂粒を多く含む
- Ib 5Y4/1 灰色土 10cm以下の焼土粒、炭化物少量、1~2cmの白色砂粒多い
- Ic 5Y3/2 オリーブ黒色土 10cm以下の白い砂粒やや多い
- Id 5Y3/1 オリーブ黒色土 1a層よりは、黒味が強い 砂粒やや多く含む 10cmの炭化物片0.5cmの焼土粒を含む
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 砂粒多く細りなし、焼土、炭化物粒少量含む
- 7.5Y2/1 黒色土 暗褐色土を含む 細りなし。炭化物粒を多く含む
- Ie 5Y2/2 オリーブ黒色土 黒味強い 砂粒やや多い、焼土粒 炭化物粒多く含む
- If 観察なし
- IIa 5Y4/3 暗オリーブ色土 1~3cm中セリ火山灰粒を少量含む 褐色粘質土塊も少し含む
- 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 砂質土 白色砂粒多い、3cmの褐色土塊含む 長く締っている
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色地山土塊少量含む、焼土粒あり 締りが強い 白色砂粒を多く含む
- IIb 2.5Y4/2 暗灰黄色土 2~5cmの黄色中セリ火山灰塊を多く含む、 やや粘質 締りあり
- IIc 2.5Y4/2 暗灰黄色土 やや明るい色の砂質土 斜面下を中心に褐色粘土塊 を多く含む、焼土粒、炭化物を含む
- II d 5YR4/2 灰オリーブ色土 IIa層よりは、黒味が強い砂質土 白色砂粒多い 0.5cmの炭化物粒目立つ
- 10YR2/3 暗褐色土 下位を中心に褐色地山土塊少量含む、焼土粒あり

- 炭化物・焼土粒
- 炭化物片
- 炭化物片・焼土粒
- 細り軟 焼土粒・炭化物粒
- 細り軟 炭化物粒
- 焼土粒・炭化物粒
- 火山灰粒
- 細り硬
- 細り硬 焼土粒
- 粘性中 細り硬 火山灰粒
- 細り硬 焼土粒・炭化物粒
- 炭化物粒
- 焼土粒

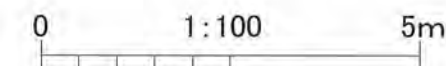
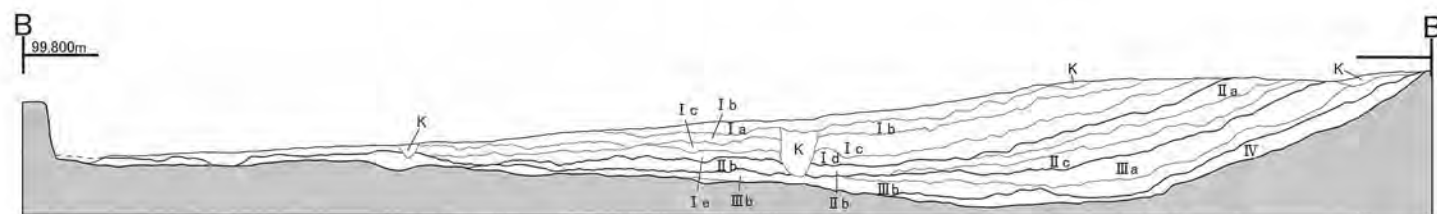
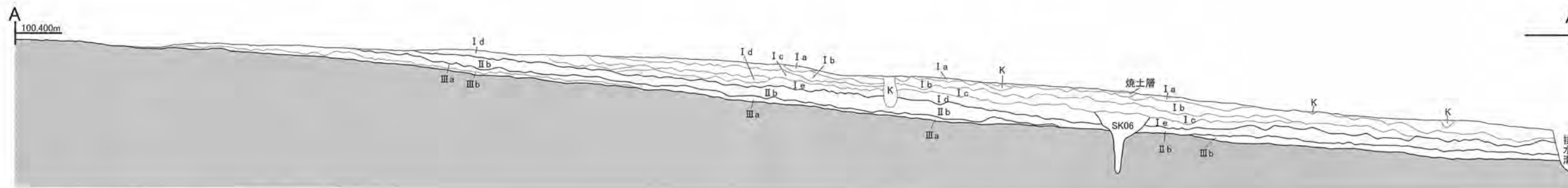
- IIe 観察なし
- II f 2.5Y4/2 暗灰黄色土 砂質土 黒色土塊を多く含む
- II g 観察なし
- IIIa 10YR3/1 黒褐色土 黒色含層の工中に暗褐色土塊多く含む
- IIIb 砂質塊状土 10YR3/3 暗褐色土 重埋土~砂埋土10YR3/4~4/4 小塊~粒
- IIIc 砂質塊状土 10YR3/3 暗褐色土 重埋土~砂埋土10YR4/4 褐色土 粒

粘性密 締り硬
粘性密 締り硬

第6図 1次調査区全体図・断面図

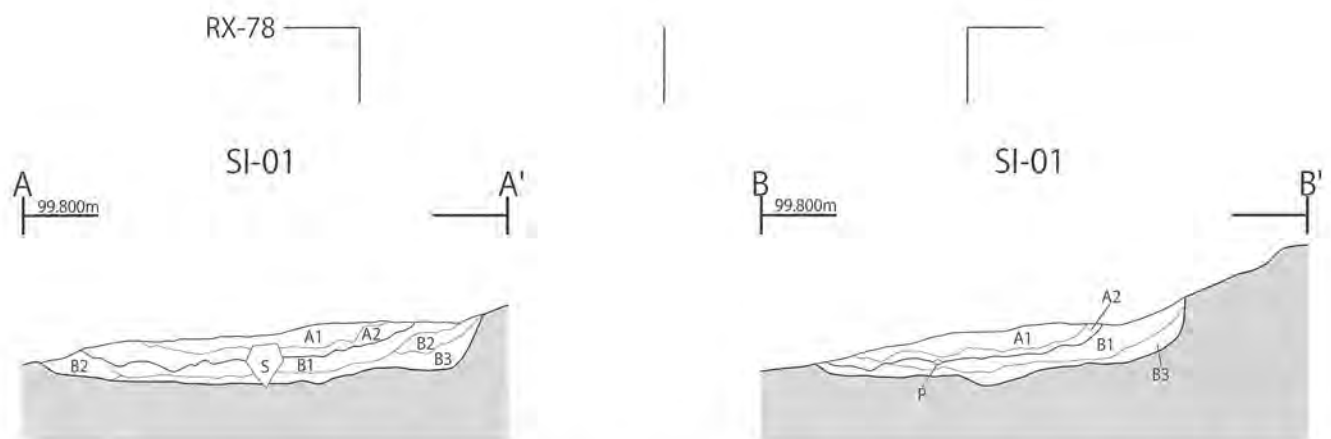
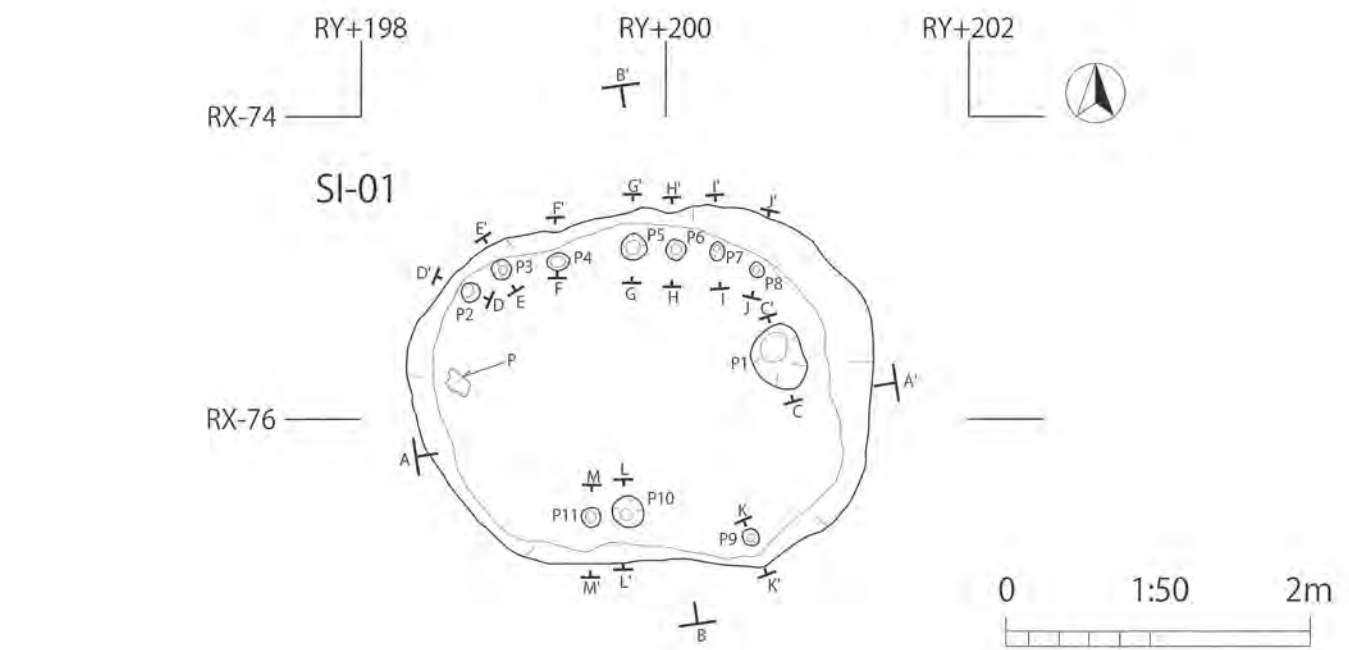


第7図 3次調査区全体図

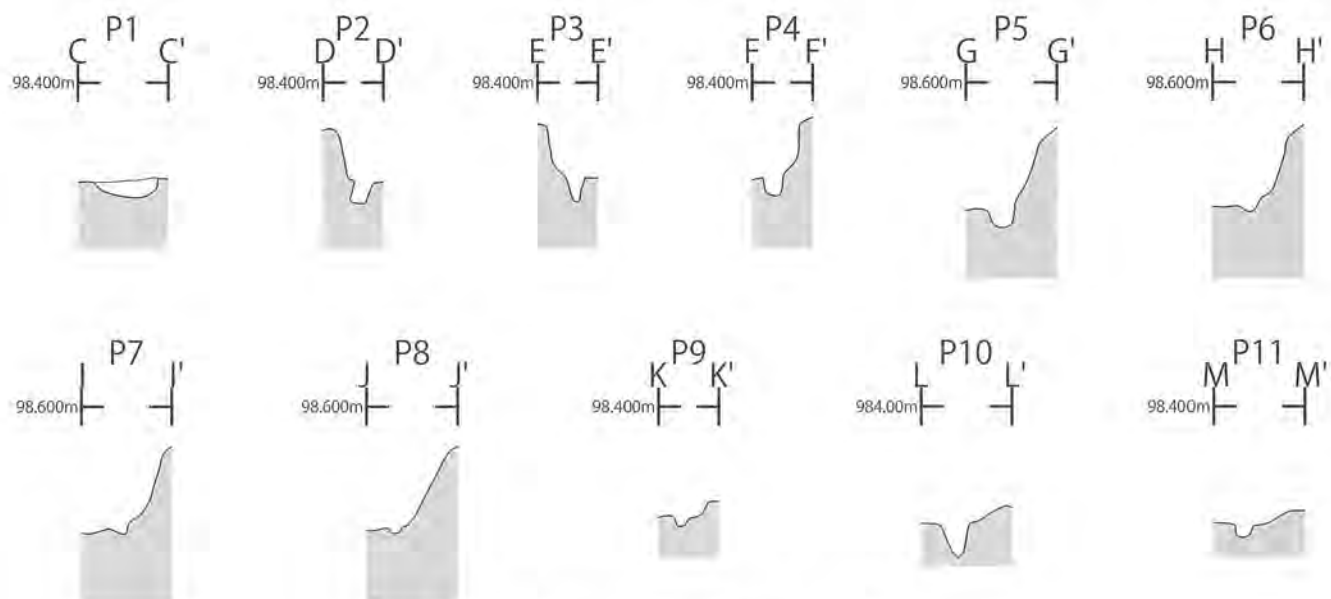


I a	シルト質埴壤土 10YR2/3~2/2 黒褐色土	砂壤土 10YR3/4~3/6 暗褐色土	15% 粒状~塊 黒色~暗褐色土主体 遺物ほとんど無し	粘性中 締り中 土器
I b	シルト質埴壤土 10YR2/1 黒褐色土	砂壤土 10YR2/3 黒褐色土	5%以下 粒状 縄文後期~中期の土器多し(特に東側)	粘性密 締り中 土器
I c	シルト質埴壤土 10YR3/2 黒褐色土	砂壤土 10YR3/2~3/3 黒褐色~暗褐色土	20% 粒状 黒暗褐色土 縄文中期から前期の遺物入る	粘性密 締り中 土器
I d	観察もれ			
I e	砂質埴壤土 10YR2/3 黒褐色土	砂壤土10YR4/4 褐色土	30% 粒状 暗褐色土 縄文前期遺物入る	粘性密 締り中 土器
II a	砂壤土 10YR3/4 暗褐色土	砂質埴壤土 10YR4/4 褐色土	10% 粒~少塊状 強い暗褐色土~褐色土 縄文前期遺物多い(東側)	粘性密 締り硬 土器
II b	砂壤土 10YR3/4 暗褐色土	砂質埴壤土 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色土	20% 粒~小塊状 黒っぽい暗褐色土 縄文前期遺物が多い(東側)	粘性密 締り硬 土器
II c	砂壤土 10YR2/3 黒褐色土	砂質埴壤土 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色土	30% 小塊~層状 粘性強い カーボン多し 縄文前期~早期の遺物入る 北側だけに堆積する	粘性密 締り硬 土器
III a	砂壤土 10YR4/4~4/6 褐色土	砂質埴壤土 10YR3/4~4/6 暗褐色~褐色土	20% 粒~層状(暗褐色土) 粘土性 無紋土器若干	粘性密 締り硬 土器
III b	砂壤土 10YR4/4 褐色土	砂質埴壤土 10YR4/6 褐色土	5%以下 粘性土 無文土器やや多い C1層より明るい褐色土	粘性密 締り硬 土器
IV	10YR3/4 暗褐色土	7.5YR4/6 褐色土	塊状50% 地山粘質土とC2層の混合土	粘性密 締り硬

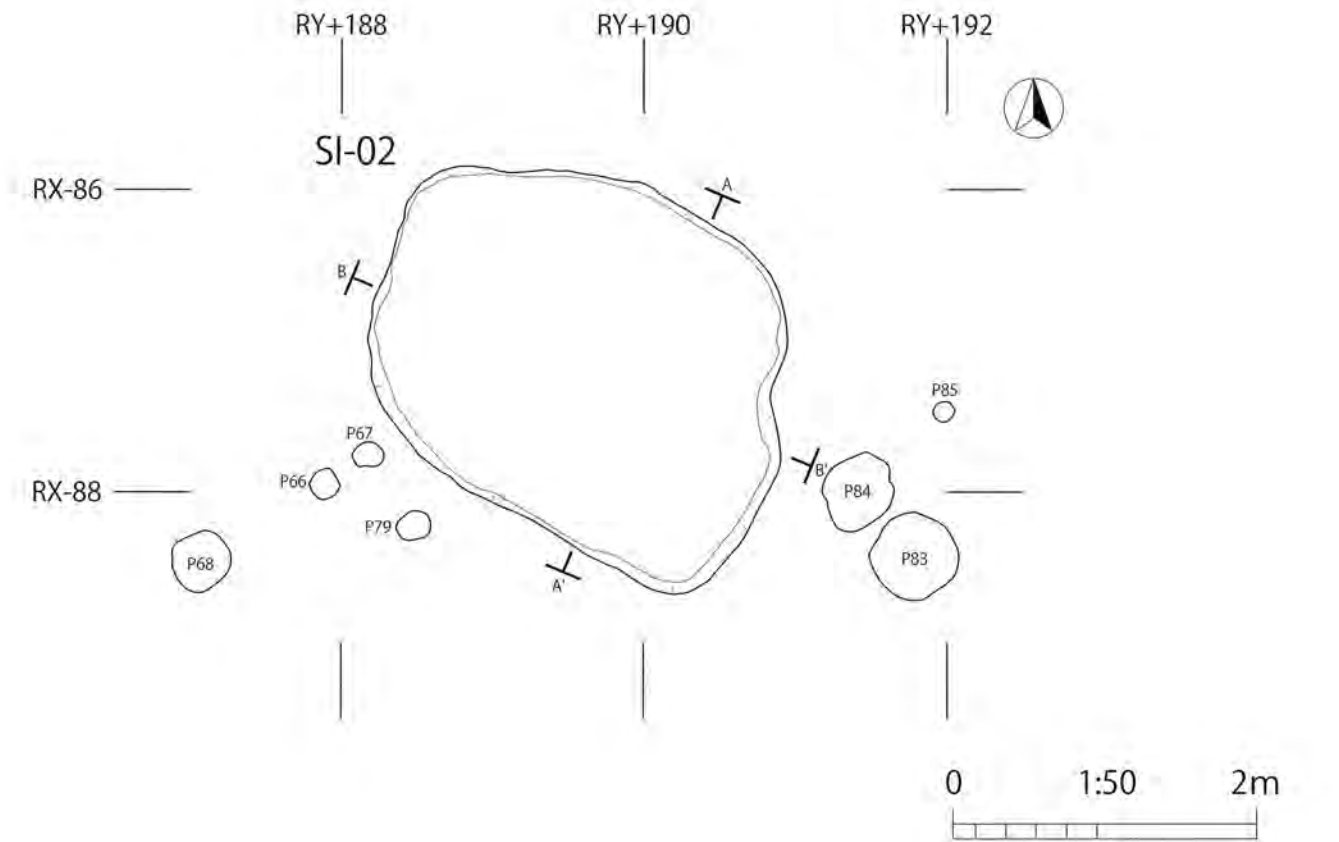
第8図 3次調査区断面図



SI-01	A1	シルト質埴壤土	10YR3/4	暗褐色土	砂壤土~重埴土	10YR4/6	褐色土	粒 カーボン10~20%	暗褐色土主体	10%	締り硬	遺物
	A2	シルト質埴壤土	10YR2/3	黒褐色土	砂壤土	10YR3/4	暗褐色土	粒 カーボン10%	暗褐色土主体	20%	締り硬	遺物
	B1	シルト質埴壤土	10YR3/4	暗褐色土	砂壤土	10YR4/4	褐色土	暗褐色土~褐色	15%	遺物若干	粘性中	締り硬 遺物
	B2	シルト質埴壤土	10YR3/4	暗褐色土	砂壤土	10Y R 4/4~4/5	褐色土	暗褐色	15~20%	遺物若干	締り硬	遺物
	B3	シルト質埴壤土	10YR4/6	褐色土	砂壤土	10YR3/4~4/4		褐色	10%	遺物若干	粘性中	締り硬 遺物



第9図 1号竪穴住居跡平面図・断面図



SI-02 A1 シルト質埴壤土 10YR3/4 暗褐色土 カーボン粒多量 最終面で検出20%塊状 粘質密 締り中 炭化物



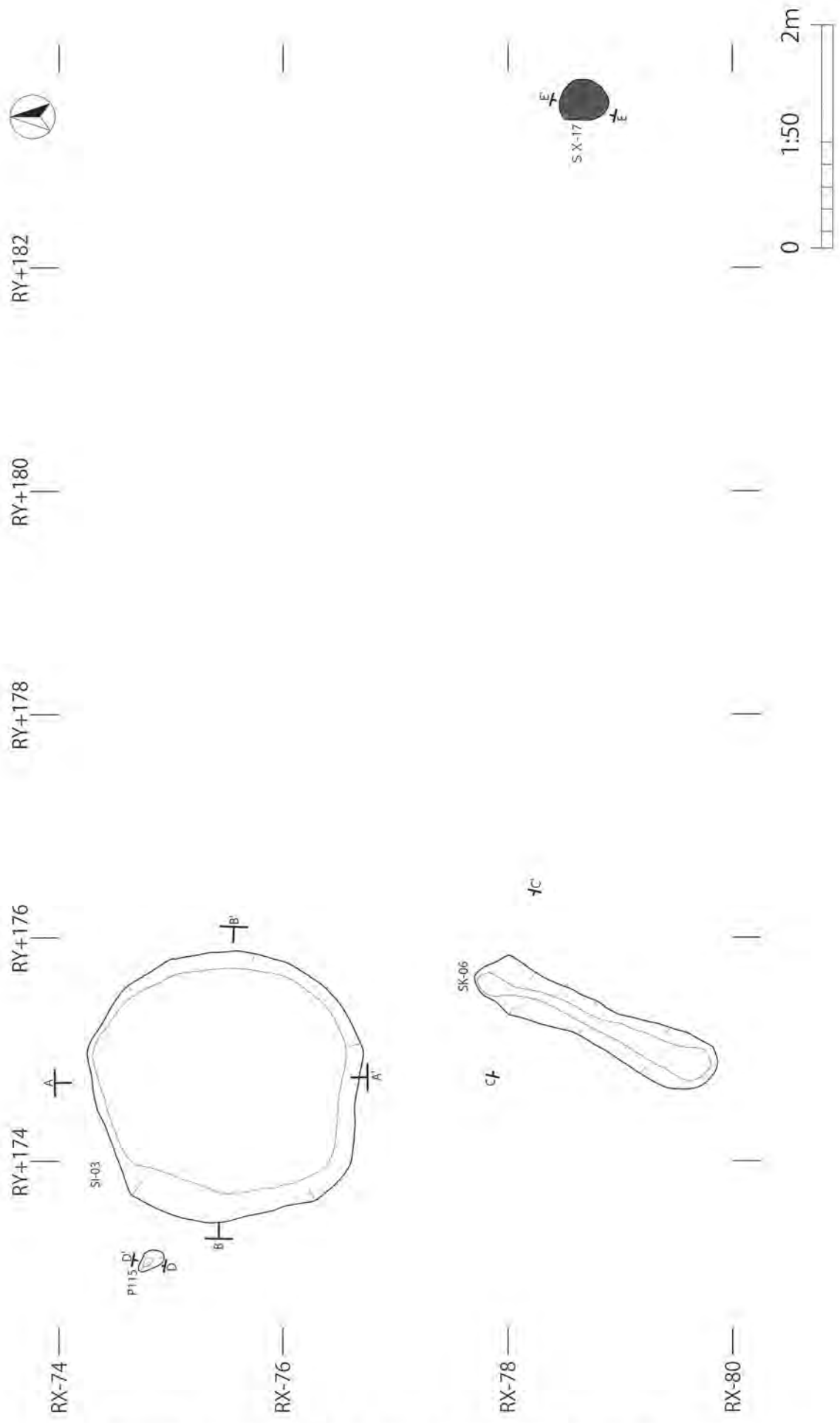
第10図 2号竪穴跡平面図・断面図

前期前葉に見られる尖底の破片が出土している（第13図9）。時期は縄文時代早期あるいは前期である。

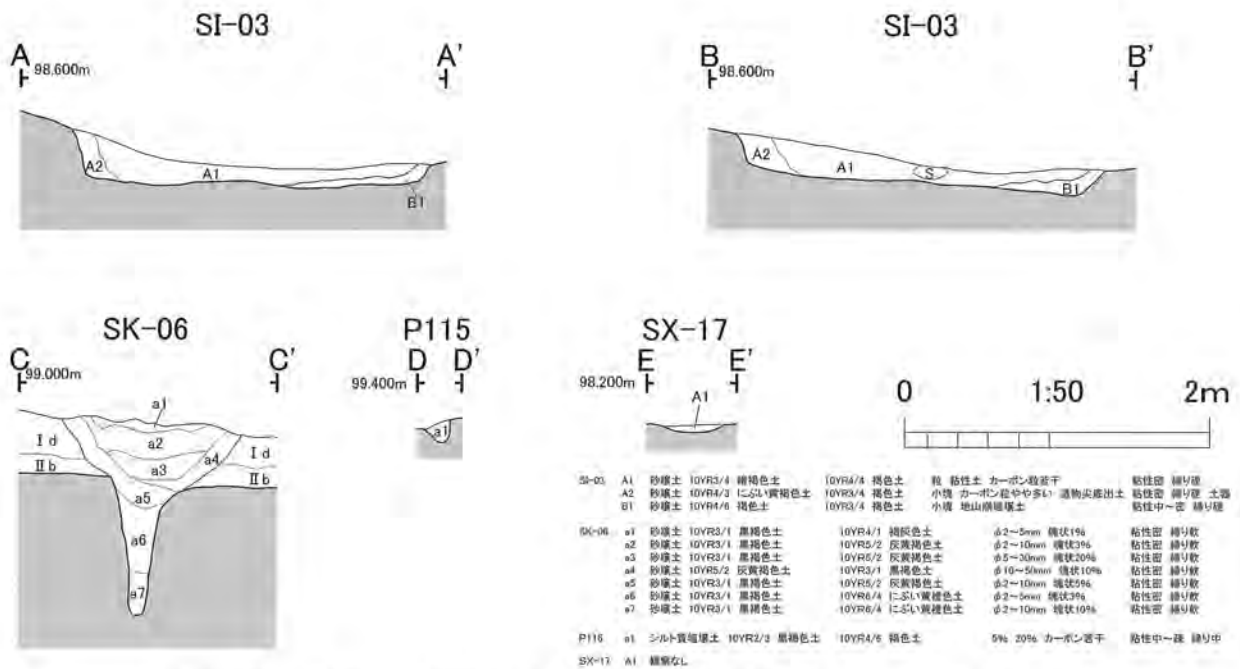
4号竪穴住居跡 (SI-04 第14図、第33図)

1次調査区北東、RX-80、RY+198周辺で検出した。基本土層Ⅱ層を掘り込んで構築している。カマドを付帯する住居跡で、湧水が溜まる低地に住居の居住域を方形に、北壁に長楕円状の煙道が掘り込まれている。方形の部分の規模は長軸2.15m、短軸2mを測り、検出面から床面までの深さは0.2mである。煙道部分の規模は長軸1.15m、短軸0.4mを測り、底面は傾斜し先端の下部にはピット状の円形の掘り込みが確認された。検出面から底面までの深さは0.2m、ピット状の掘り込みの深さは底面から0.12mである。埋土はA層、B層およびカマド内部のJ層の3層に大別され、自然堆積である。床面は平坦で、中央やや南寄りとかマドの右袖付近にピットが検出されている。カマドは崩落した状態で検出され、袖を構築していると考えられる礫が散乱していた。焼土は不整形に確認され、長軸0.4m、短軸0.3mを測り、焼土の厚さは0.12mを測る。

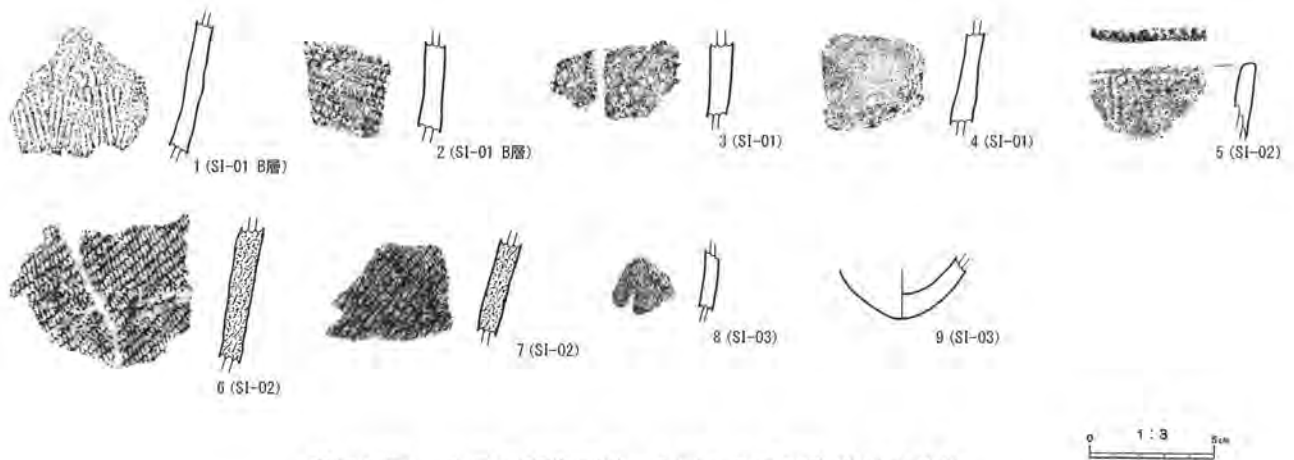
出土遺物はあかやき土器、須恵器である（第33図1～5）。1と2は床面の中央部に重なった状態で出土した。1は土師器の坏である。口径13.3cm、底径7.3cm、器高4.3cmを測る。内面は黒色処理



第11図 3号豎穴跡、6号土坑、17号焼土遺構、ビット115平面図



第12図 3号竪穴住居跡、6号土坑、18号焼土遺構、ピット115断面図



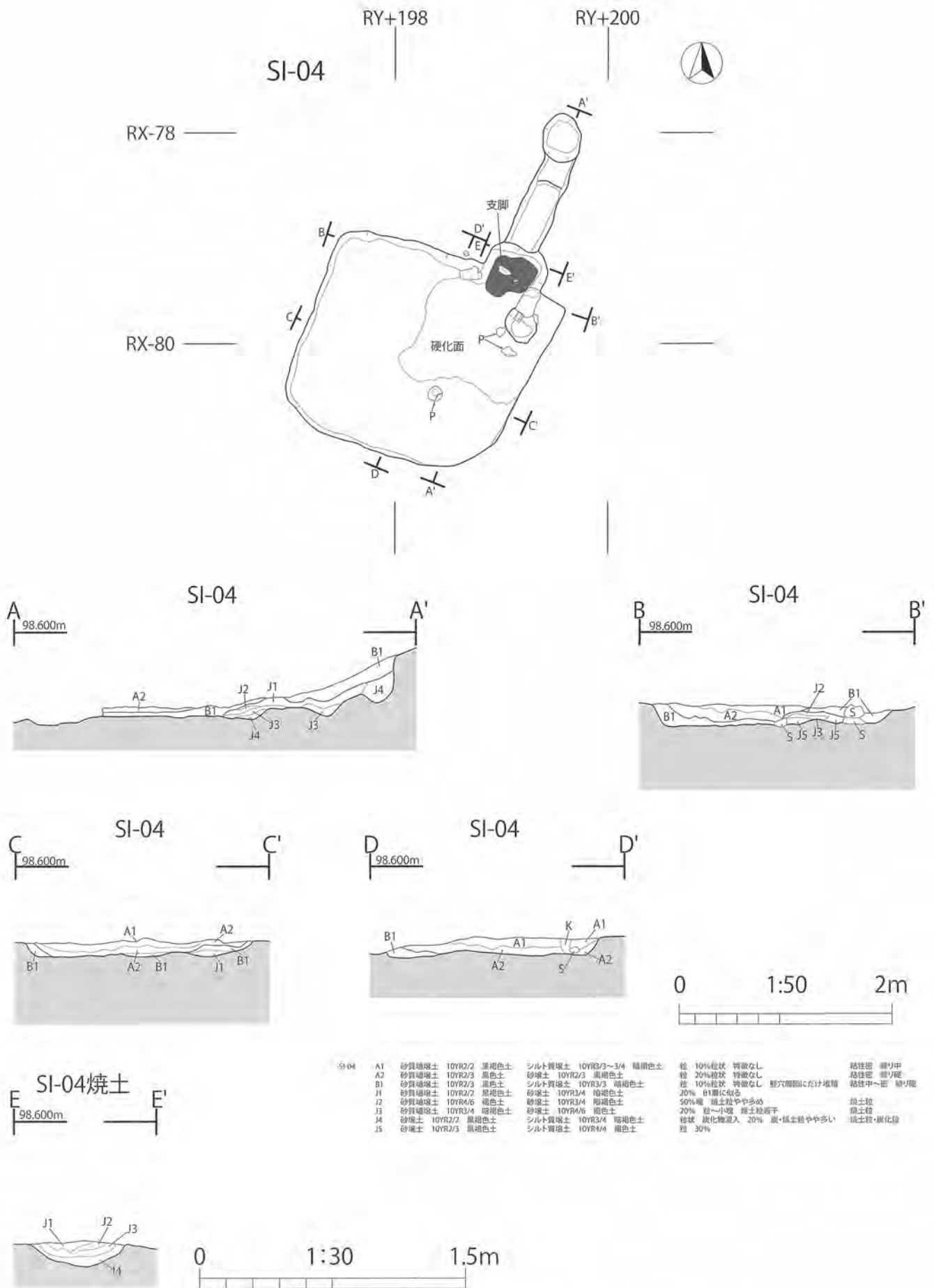
第13図 1号竪穴住居跡、2号・3号竪穴跡出土遺物

されている。内面は口縁部、胴部が横位のヘラミガキ、底部が放射状のヘラミガキで整形されている。2は須恵器の坏である。口径13.8cm、底径5.5cm、器高4.5cmを測る。ロクロ挽きである。3は須恵器高台付坏でカマドから出土している。口径13.9cm、底径5.9cm、高台の高さ1.1cm、器高4.5cmを測る。4、5は須恵器の甕である。外面にタタキ平行文、内面に当て具が施されている。

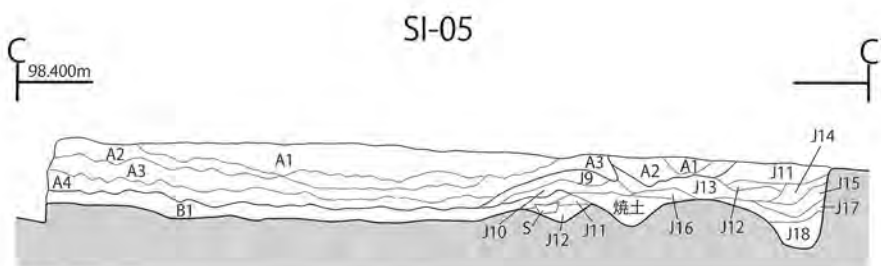
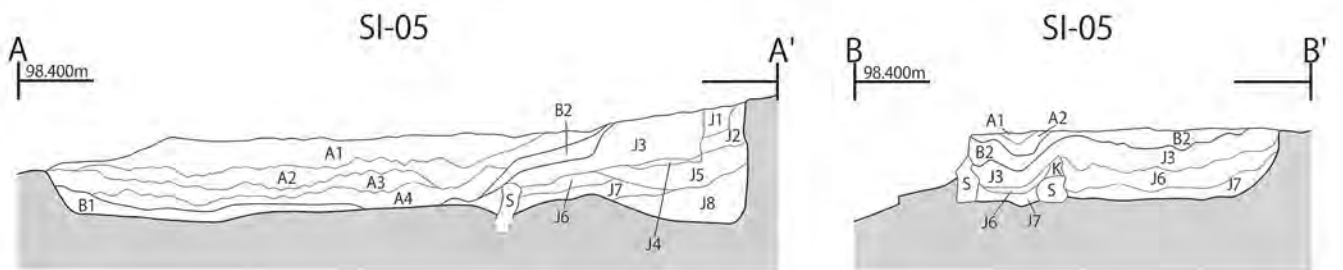
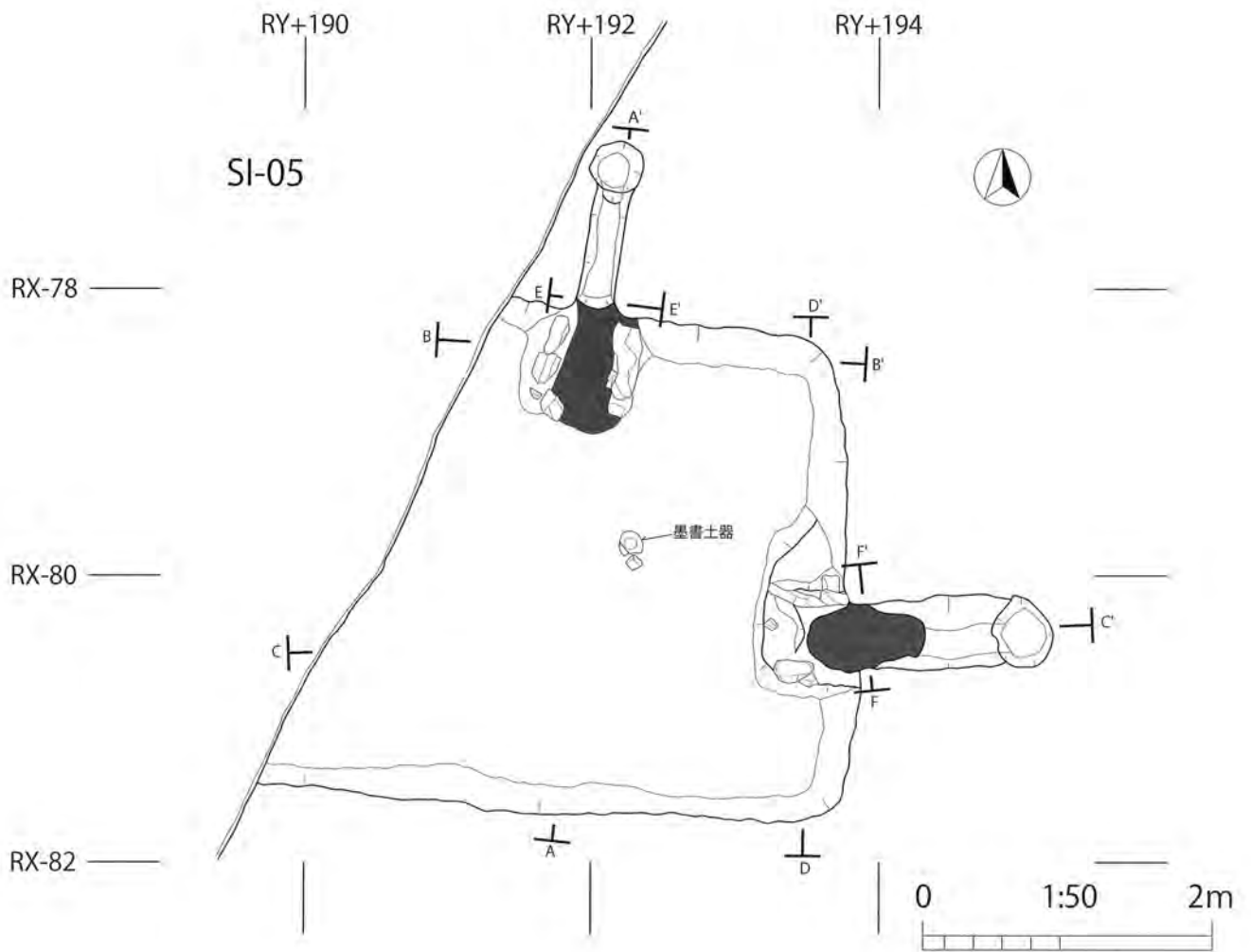
帰属時期は出土遺物から平安時代、9世紀前葉～中葉である。

5号竪穴住居跡 (SI-05 第15図、第16図、第33図、第34図)

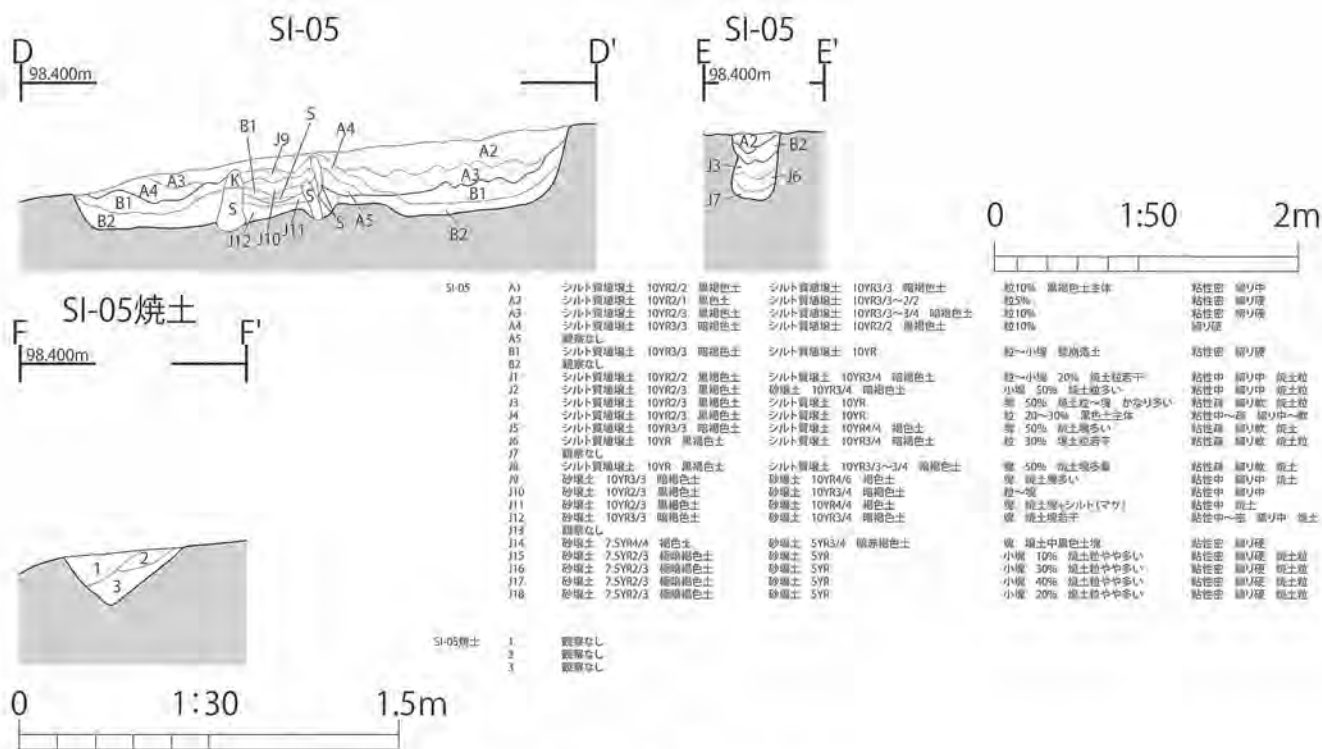
1次調査区中央、RX-80、RY+192周辺で検出された。北西部は試掘トレンチにより欠失している。4号竪穴住居跡の3m西に位置する。基本土層II層を掘り込んで構築している。カマドを付帯する住居跡で住居の居住域を方形に、北壁と東壁に長楕円状の煙道が掘り込まれ壁際にはカマドが確認された。方形の部分の規模は長軸4.05m、短軸3.4mを測り、検出面から床面までの深さは0.55mである。北壁に掘り込まれた煙道の規模は長軸1.45m、短軸0.25mを測り、底面は煙出しへ緩やかに傾斜しながら壁は直に立ち上がる。検出面から底面までの深さは0.75mである。東壁に掘り込まれた



第14図 4号竪穴住居跡平面図・断面図



第 15 图 5 号竖穴住居跡平面図・断面図



第16図 5号竪穴住居跡断面図

煙道の規模は長軸1.4m、短軸0.5mを測り、底面は傾斜し先端の下部にはピット状の円形の掘り込みが確認された。検出面から底面までの深さは0.5m、ピット状の掘り込みの深さは0.3mである。埋土はA層、B層およびカマド内部のJ層の3層に大別され、自然堆積である。床面は平坦で柱穴は検出されなかった。カマドは東カマドから北カマドへ変遷している。ともに左右に袖石が残存しているが、天井は崩落している。東カマド焼土の規模は長軸0.6m、短軸0.4m、厚さ最大0.2mを測り、北カマド焼土の規模は長軸0.8m、短軸0.4m、厚さ0.1mを測る。

出土遺物は土師器、あかやき土器、須恵器である(第33図6~8、第34図)。6は床の中央で出土した外面底部に「寺」と墨書されたあかやき土器の坏である。口径14.5cm、底径6.5cm、器高5.1cmを測る。7は須恵器の坏である。口径13.6cm、底径6.5cm、器高3.5cmを測る。8は土師器の甕である。底径8cm、現存する器高4.4cmを測る。内面は横位のヘラミガキで整形されている。第34図9は土師器の長胴甕である。口径21.3cm、底径8.4cm、器高25.6cmを測る。外面の胴部はヘラケズリ、内面はヨコナデ、ヘラナデによる整形が施されている。10は土師器の甕である。口径14.4cmを測る。外面はヨコナデとヘラケズリ、内面はヨコナデによる整形が施されている。11は須恵器壺肩部から胴部の部位である。12~14は須恵器の甕である。12は内外面にタタキ平行文、13、14は外面にタタキ平行文が施されている。

時期は出土遺物から平安時代、9世紀前葉~中葉である。

6号竪穴住居跡 (SI-06 第17図、第18図、第35図)

1次調査区南東、RX-92、RY+194周辺で検出された。4号竪穴住居跡の10m南に、5号竪穴住居跡の10m南東に位置する。基本土層II層を掘り込んで構築している。カマドを付帯する住居跡で住居の居住域を方形に、北壁に長楕円状の煙道が掘り込まれている。方形の部分の規模は長軸3.1m、短軸3.1mを測り、検出面から床面までの深さは0.25mである。煙道部分の規模は長軸1.6m、短軸0.45mを測り、底面は煙出しへ緩やかに傾斜しながら壁は直に立ち上がる。検出面から底面ま

での深さは0.25mである。埋土はA層、B層およびカマド内部のJ層の3層に大別され、自然堆積である。床面はC層を埋土とする構築土により平坦に床を貼っている。東壁にピットが、北東隅には深さ0.15mを測る円形の土坑が検出されている。カマドは天井が崩落しているが、左右に袖組みの石が残り焼土が確認された。焼土は不整円形に確認され、長軸0.4m、短軸0.3mを測り、焼土の厚さは5cmを測る。

出土遺物は土師器、あかやき土器、須恵器、砥石である（第35図）。15はあかやき土器の坏である。推定の口径15.1cm、底径5.9cm、器高5.5cmを測る。内面は黒色処理されている。内面は口縁部、胴部が横位・従位のミガキ、底部が放射状のミガキで調整されている。16はあかやき土器の坏で体部に墨書されている。口径13.9cm、底径5.8cm、器高4.6cmを測る。体部に判読不明の墨痕が認められる。17はあかやき土器の坏である。底径6.9cmを測る。18は土師器の坏の口縁部である。内面は横位のミガキで調整されている。19は土師器の坏の底部である。内外面は放射状のヘラミガキで整形されている。20は須恵器の鉢である。内外面にヘラケズリが施されている。21は須恵器の甕の胴部である。外面はタタキ平行文を、内面はタタキ蓮華文を施している。22は須恵器の坏の口縁部である。23は須恵器の坏である。推定の口径15cm、推定の底径7.2cm、器高7.2cmを測る。24は砥石である。欠損後も砥石として使用している。

時期は出土遺物から平安時代、9世紀前葉～中葉である。

・土坑（SK-01～09）

1号土坑（SK-01）、2号土坑（SK-02）（第25図、第36図、第37図）

1次調査区西、RX-79、RY+185周辺で検出された。重複しており、1号土坑のほうが新しい。平面形は共に長楕円形で、規模は1号土坑が長軸2.8m、短軸0.8m、検出面から床面までの最大の深さは56cm、2号土坑が長軸2.4m、短軸0.7m、検出面から床面までの深さは0.5mである。埋土は1号土坑が5層に、2号土坑が2層に分層され自然堆積である。平面形から落とし穴であるが、削平されていることもあり別の性格を有する土坑の可能性も考えられる。

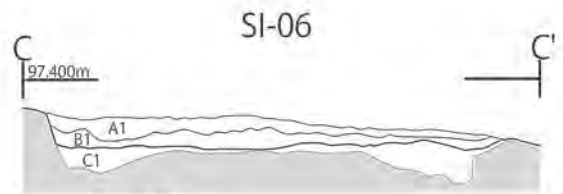
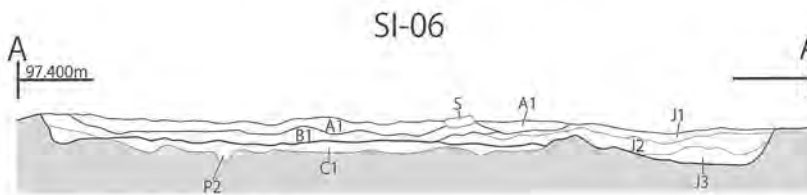
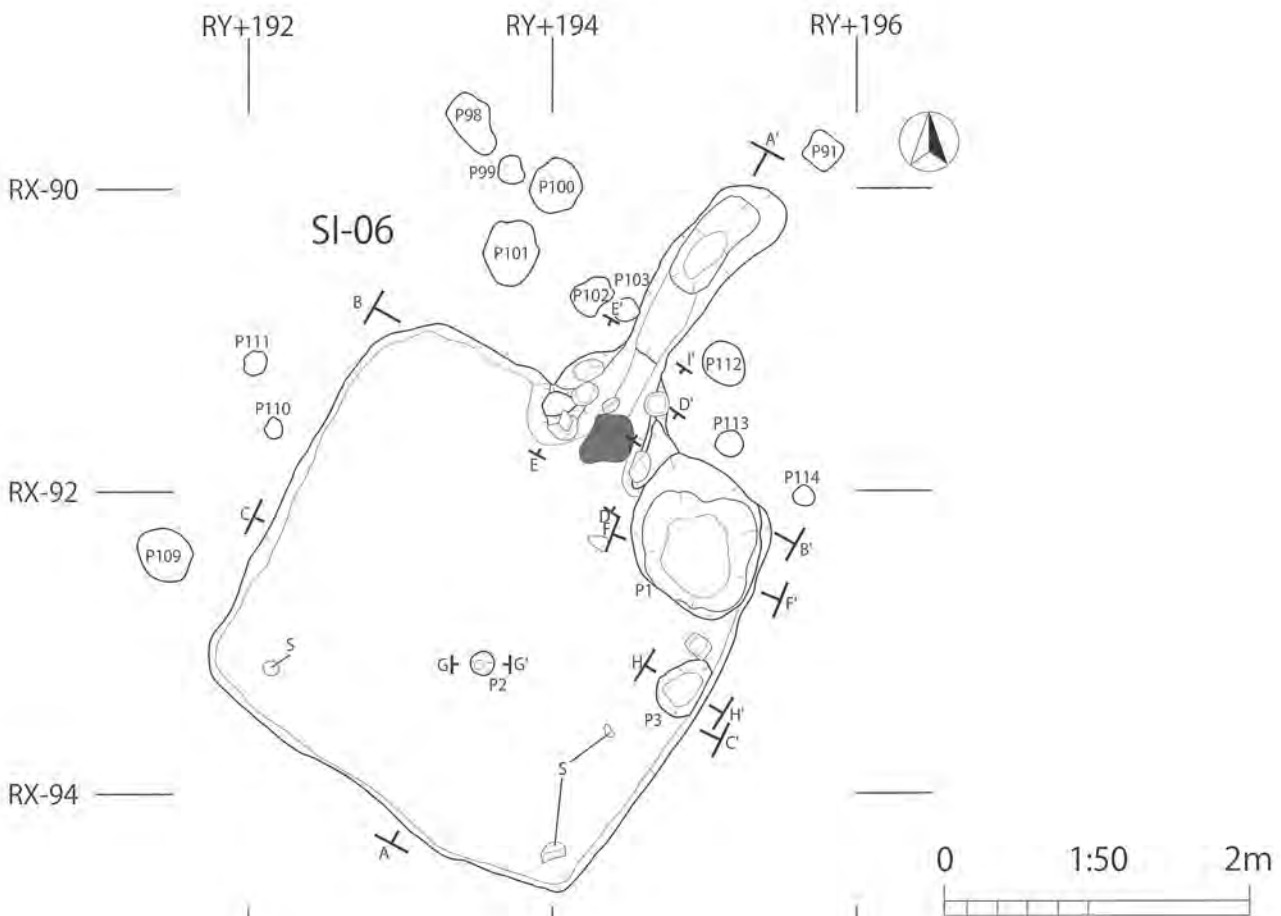
出土遺物は埋土上面で縄文土器が出土している（第36図、第37図21～24）。第36図1は前期の土器で胎土に繊維を含み付加縄文を施している。2～7は大木8a式の土器である。2～6は同一個体で口縁部に2列の円形刺突文とS字状の隆帯を貼り付けている。8、9は大木8b式、10は大木10式の土器である。11～第37図23は後期の土器である。以上から、両土坑の帰属時期は縄文時代中期～後期と考えられる。

3号土坑（SK-03）、4号土坑（SK-04）第31図、第37図、第38図

3次調査区北東、RX-59、RY+177周辺で検出された。重複しており、3号土坑のほうが新しい。4号土坑は南部が欠失し半円状に検出されている。平面形は共に円形と考えられる。規模は3号土坑が長軸0.8m、短軸0.7m、検出面から床面までの深さは0.42mで、4号土坑が径2.2m、検出面から床面までの深さは0.45mである。埋土は3号土坑が8層に、4号土坑が9層に分層され自然堆積である。底面は平坦である。3号土坑で縄文早期の土器破片が（第37図25）、4号土坑で縄文後期の土器破片（第37図26、27）と敲打痕のある石皿が出土している（第38図）。共にフラスコ形土坑であるが時期は出土した土器から縄文時代と考えられる。

5号土坑（SK-05）第32図、第37図

3次調査区南部、RX-82、RY+170周辺で検出された。平面形は楕円形で規模は長軸2.4m、短軸1.8



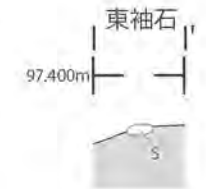
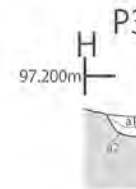
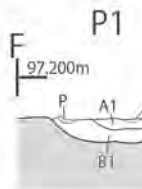
SI-524	A1	シルト質壤土 10YR2/2	黄褐色土	シルト質壤土 10YR4/4	褐色土
	A2	シルト質壤土 10YR2/3	黄褐色土	シルト質壤土 10YR3/4	暗褐色土
	B1	シルト質壤土 10YR2/1	黒色土	シルト質壤土 10YR3/4	暗褐色土
	B2	観察なし			
	C1	砂壤土 10YR3/4	暗褐色土	砂壤土 10YR5/6	暗褐色~黄褐色土
	J1	シルト質壤土 10YR3/4	暗褐色土	砂壤土 5YR3/4~3/6	暗赤褐色土
	J2	7.5YR3/4	暗褐色土	シルト質壤土 10YR4/6	褐色土
	J3	シルト質壤土 10YR3/3	暗褐色土	砂壤土 5YR3/4	暗赤褐色土

グライ化土 やや砂質土 粒状
グライ化土 細カーボン
10%粒状

腐植土 塊状 地山の粘土塊 40~50%
炭土塊多量 塊状 30%
カーボン・粘土粒や多い 粒~塊状
炭土塊~塊 小枝遺存石

粘性中~強 膠り軟
粘性中 膠り中 炭化物
粘性中~弱 膠り中

粘性中 膠り中
粘性中 膠り中
粘性中 膠り中
粘性中 炭土粒

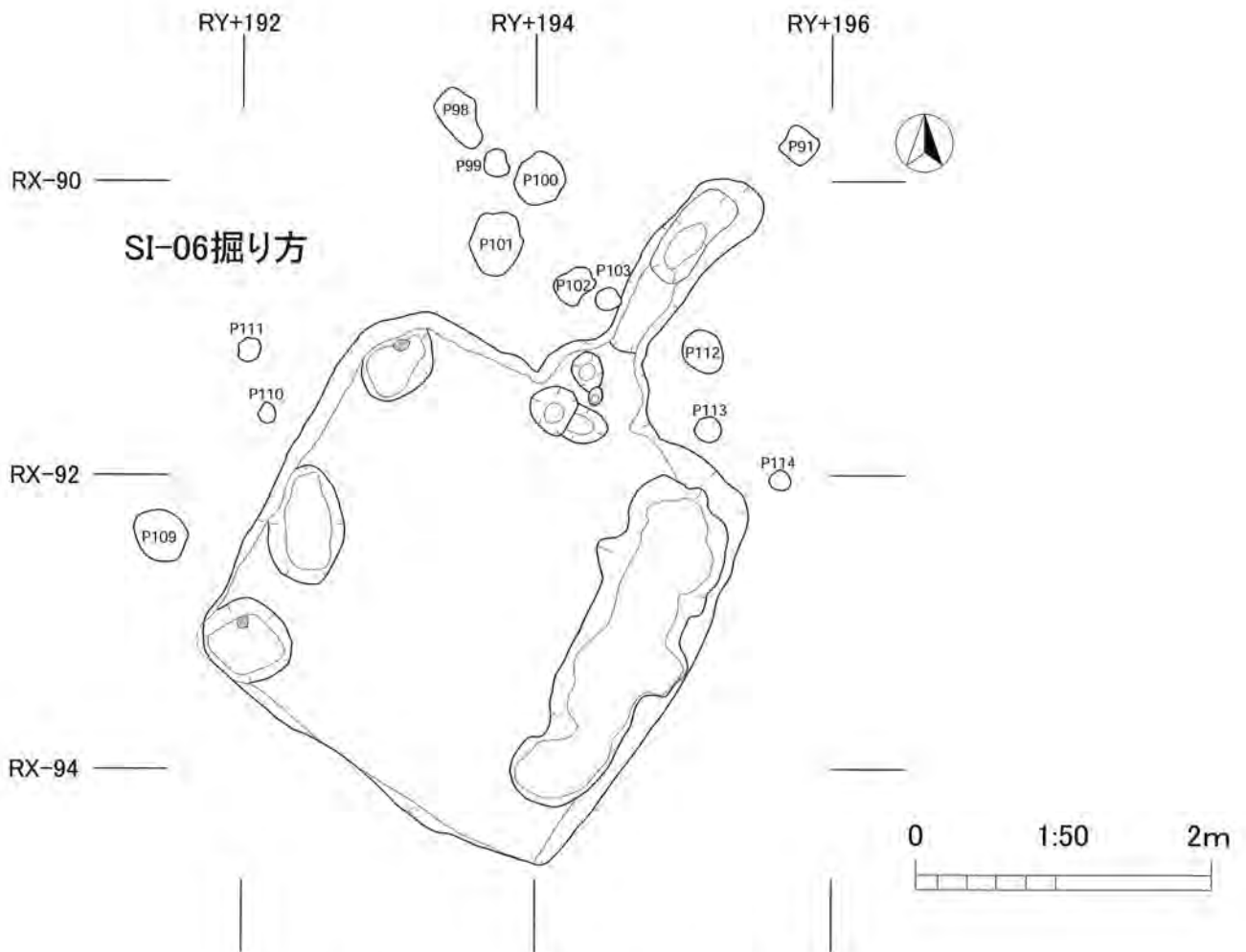


東袖・西袖
a1 炭土多し
a2 粘土+黒色土 40%層状
a3 粘土層 層状
a4 炭土層 層状 60% 粘性中 膠り軟
a5 黒色土層 20%

P1
A1 観察なし
A' 観察なし
B1 観察なし

P3
a1 観察なし
a2 観察なし

第 17 図 6号竪穴住居跡平面図・断面図



第18図 6号竪穴住居跡掘り方平面図

m、検出面から床面までの深さは0.15mである。2層に大別され自然堆積である。遺物は胎土に繊維が混入された縄文前期前葉の土器破片が出土した(第37図28、29)。時期は縄文時代と考えられる。

6号土坑 (SK-06) 第11図、第12図、第37図

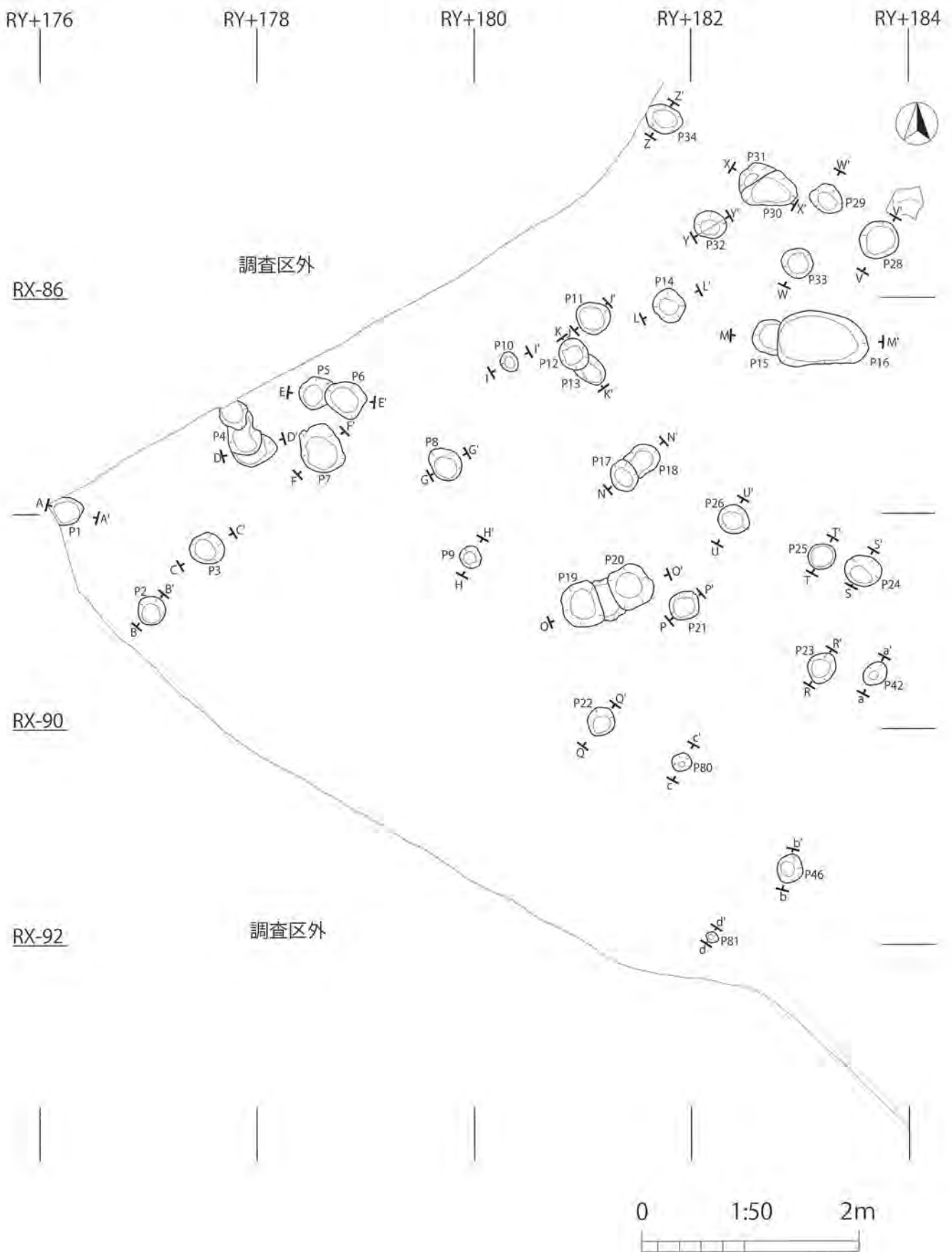
3次調査区南部、RX -79、RY +175周辺で検出された。平面形は楕円形で規模は長軸2.3m、短軸0.5m、検出面から床面までの深さは0.89mである。7層に分層され自然堆積である。陥とし穴状の土坑である。遺物は時期不明の縄文土器が出土している(第37図30、31)。

7号土坑 (SK-07) 第29図

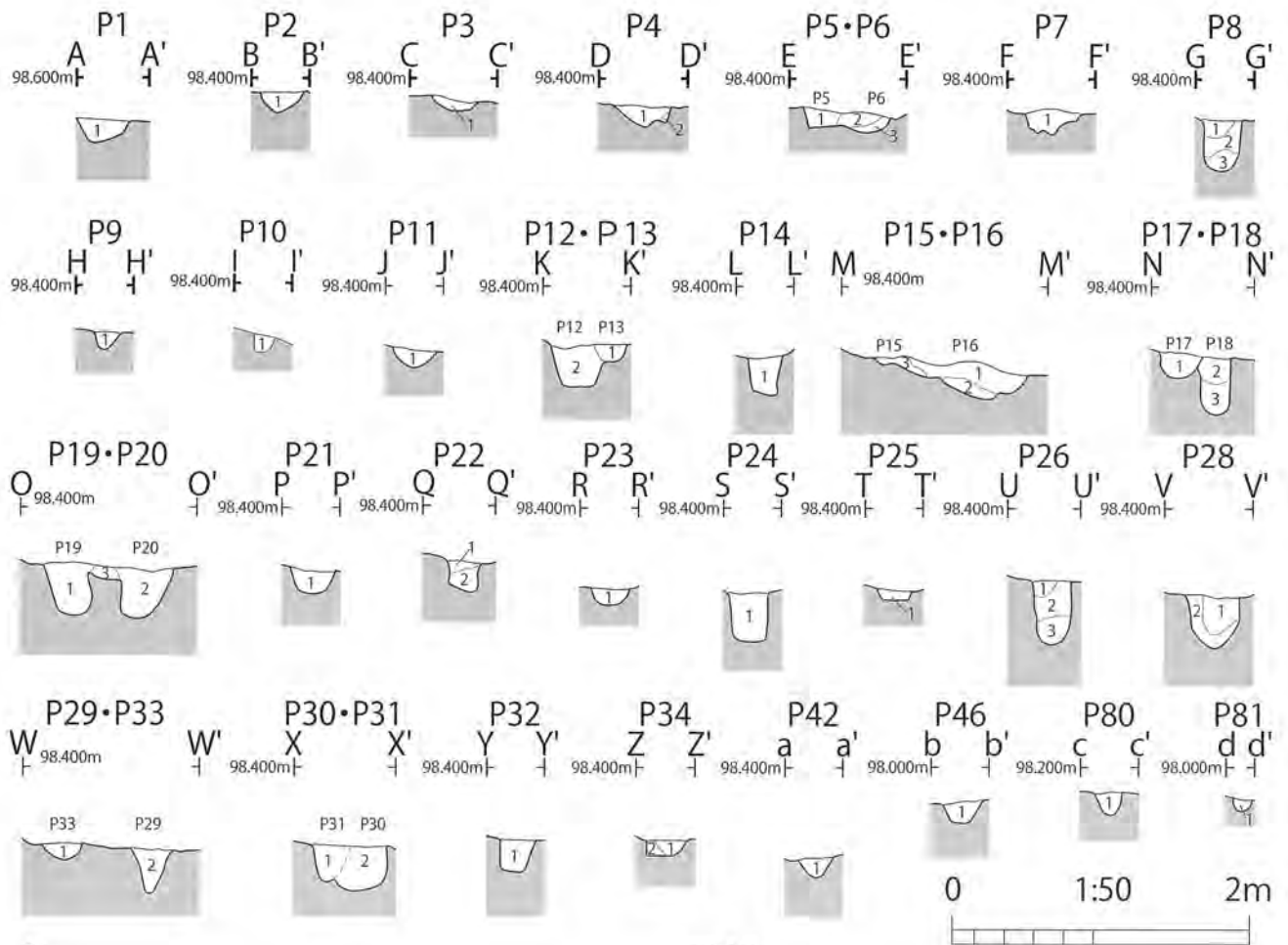
3次調査区南部、RX -82、RY +180周辺で検出された。平面形は円形で規模は径1.4m、検出面から床面までの深さは1.02mである。埋土の堆積状況は不明である。フラスコ形土坑と考えられる。遺物は出土していない。

8号土坑 (SK-08)、9号土坑 (SK-09) 第29図、第37図

3次調査区北東、RX -85、RY +177周辺で検出された。重複しており、8号土坑が新しい。8号土坑の平面形は円形である。規模は8号土坑が径1m、検出面から床面までの深さは0.53mで、9号土坑が残存する径が0.55m、検出面から床面までの深さは0.32mである。埋土は8号土坑が6層

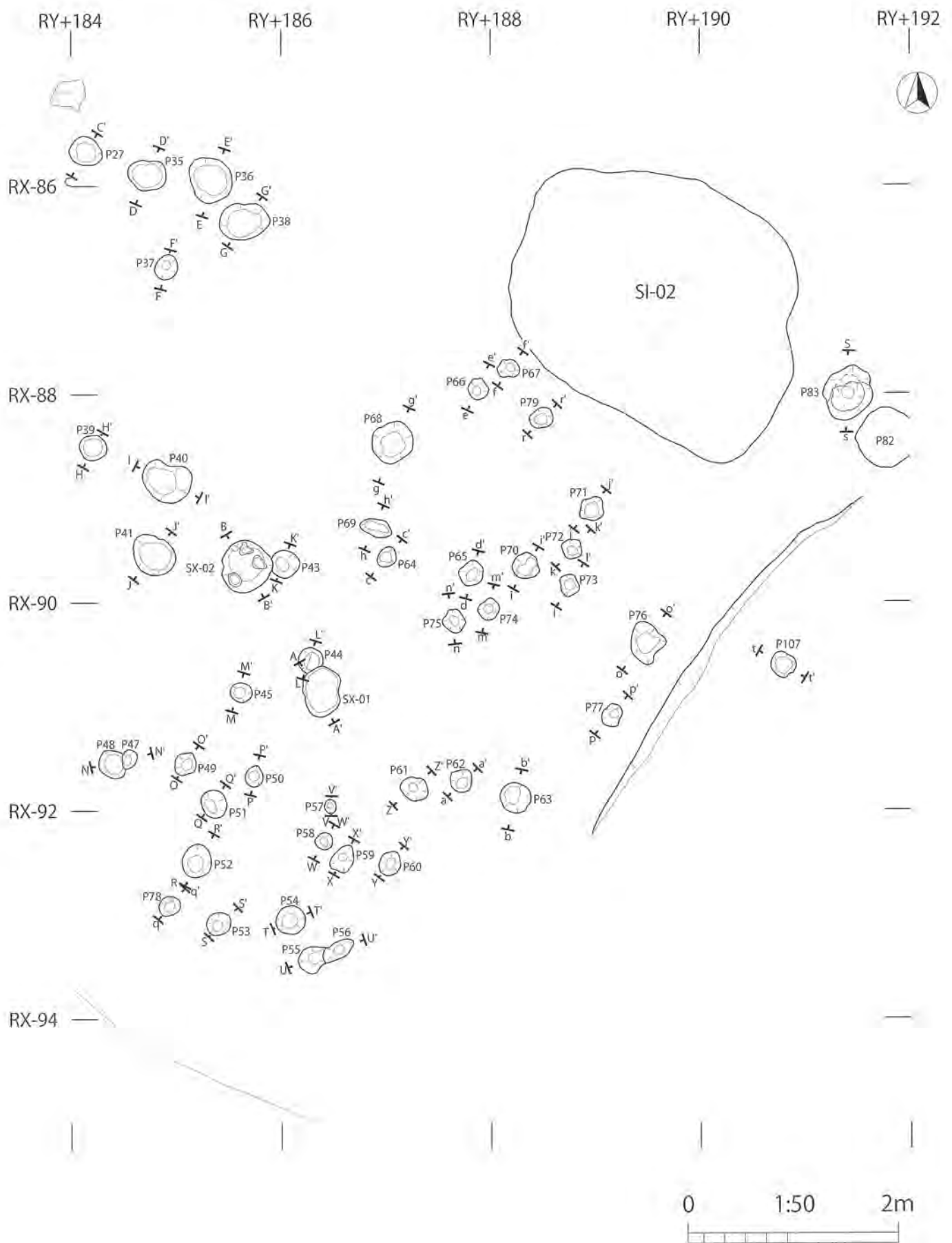


第 19 図 1 次調査区遺構平面図 (1)

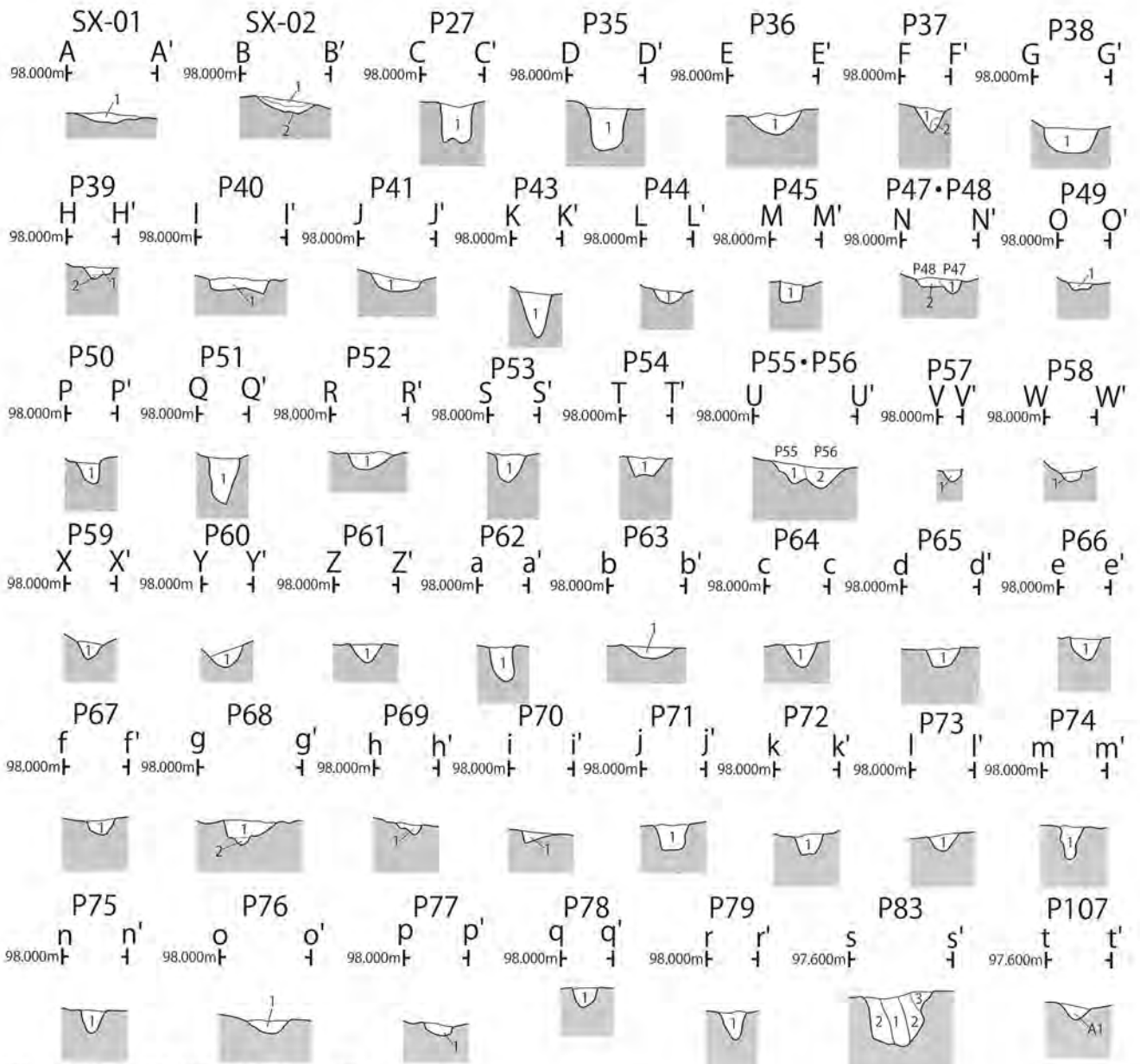


P1 1	2.5Y4/2 暗灰黄色土 5cmの黄褐色地山土境を少量含む		
P2 1	2.5Y3/1 黒褐色土 2cm次の褐色地山土境を含む	粘性中 罫り散	
P3 1	2.5Y4/1 黄灰色土 3~5cmの地山土境多い 白色砂粒多い		
P4 1	2.5Y4/1 黄灰色土 小さな黄色地山粒多い		
2	2.5Y5/2 暗灰黄色土 1cmの黄色地山土境含む	粘性密	
P5・P6 1	10YR3/3 暗褐色土 10cm次の黄褐色地山土境含む 砂粒多い	罫り散	
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 0.5cm以下の黄褐色地山土粒を多く含む	粘性中	
3	2.5Y4/1 黄灰色土 1cm次の黄褐色地山土境を極めて多く含む 砂粒多い		
P7 1	2.5Y4/2 暗灰黄色土 2cmの黄褐色地山粒 1cmの黒色土粒を少し含む やや砂質		
P8 1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 砂質 0.5cmの黄褐色地山土を少し含む	罫り散	
2	2.5Y5/3 黄褐色土 2~3cmの黄褐色地山土境極めて多い 砂質		
3	2.5Y4/2 暗灰黄色土 2層と同様に地山土境多いが黒味強い	粘性中	
P9 1	5Y3/1 オリーブ黒色土 1~2cmの褐色地山土境少量含む 砂粒多い	粘性中	
P10 1	10YR3/1 黒褐色土 1cm以下の黄色地山粒やや多い 砂質	罫り散	
P11 1	10YR4/3 にぶい黄褐色土 1cm次の褐色地山粒を含む 砂粒ややある	粘性中	
P12・P13 1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 5cm次の褐色地山土境含む		
2	2.5Y3/2 黒褐色土 黒味はあまり強くない 下位に黄褐色砂質地山土含む		
P14 1	2.5Y4/2 暗灰黄色土 3cm次の褐色地山土境含む		
P15・P16 1	10YR3/2 黒褐色土 黄褐色砂質地山土少量含む 5cm次の褐色地山土境あり	炭化物	
2	10YR3/2 黒褐色土 1cm次の黄褐色地山土粒多い		
3	10YR4/2 灰黄褐色土 3cmの黄褐色砂質を含む	粘性中 罫り散	
P17・P18 1	10YR3/3 暗褐色土 1~5cmの黄褐色・褐色地山土や多い白色砂粒多い炭化物		
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 地山土あまり含まず 1cmの黒土粒がやや多量土粒		
3	10YR3/4 暗褐色土5cmの黄褐色地山土多い		
P19・P20 1	10YR4/2 灰黄褐色土 1~3cmの黄褐色地山土境極めて多く含む	罫り散 炭化物	
2	10YR4/2 灰黄褐色土 3~5cmの黄褐色・褐色地山土境極めて多く含む	炭化物片	
3	10YR3/4 暗褐色土 小さな地山粒わずかにあり	粘性中 罫り中	
P21 1	10YR3/3 1cm以下の褐色地山土粒を少し含む	黒土粒	
P22 1	10YR3/3 暗褐色土 2~3cmの褐色地山土境極めて多い 炭化物	炭化物	
2	10YR3/3 暗褐色土 地山土境あまり含まない	炭化物片	
P23 1	10YR3/4 暗褐色土 1~2cmの褐色地山土境少し含む 黒土粒やや多量炭化物・黒土粒		
P24 1	2.5Y4/2 暗灰黄色土 黄褐色地山土境を極めて多く含む		
P25 1	2.5Y5/2 暗灰黄色土 小さな地山土粒少し 炭化物少	炭化物	
P26 1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 緑かな黄褐色地山土粒含む 黒土粒少	黒土粒・炭化物	
2	10YR4/2 灰黄褐色土 5cm次の黄褐色砂質地山土境極めて多く含む	罫り散	
3	10YR4/1 暗褐色土 地山土をあまり含まない	粘性中	
P28 1	10YR4/4 褐色土 褐色砂の中に暗褐色土境がわずかに混ざる	炭化物片	
2	10YR3/4 暗褐色土 3cmの褐色地山土境含む	粘性中	
P29・P33 1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 1~2cmの褐色・黄褐色地山土境多い 白色砂粒目立つ		
2	2.5Y4/3 5cm次の褐色地山土境多い	粘性中	
P30・P31 1	10YR3/3 暗褐色土 褐色地山土を含む	炭化物	
2	10YR4/4 褐色土 黄褐色地山土境含む 炭化物少	炭化物	
P32 1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 下位に2cm次の黄褐色地山土粒含む やや砂質		
P34 1	2.5Y4/1 黄灰色土 2cm次の黄褐色地山土境多い	粘性中	
2	2.5Y5/3 黄褐色土 2cm次の黄褐色地山土境多い	粘性中	
P42 1	2.5Y3/1 黒褐色土 地山ほとんど含まず砂粒多い		
P46 1	2.5Y4/1 黄灰色土 3cmの黄褐色地山土境かなり多い		
P80 1	観察もれ		
P81 1	10YR3/1 黒色土		

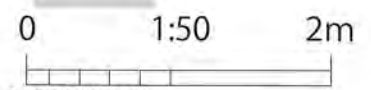
第 20 図 1 次調査区遺構断面図 (1)



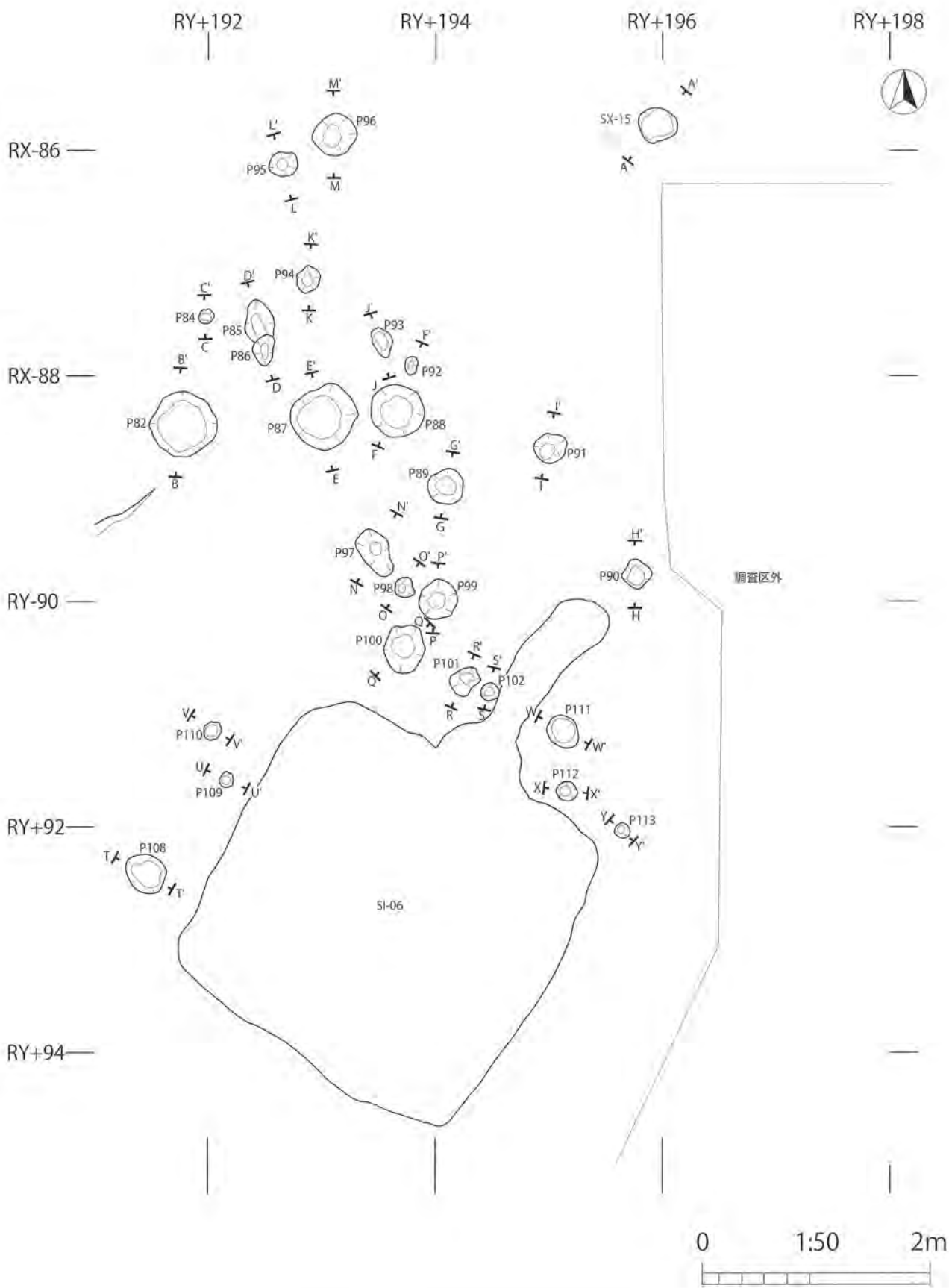
第 21 図 1 次調査区遺構平面図 (2)



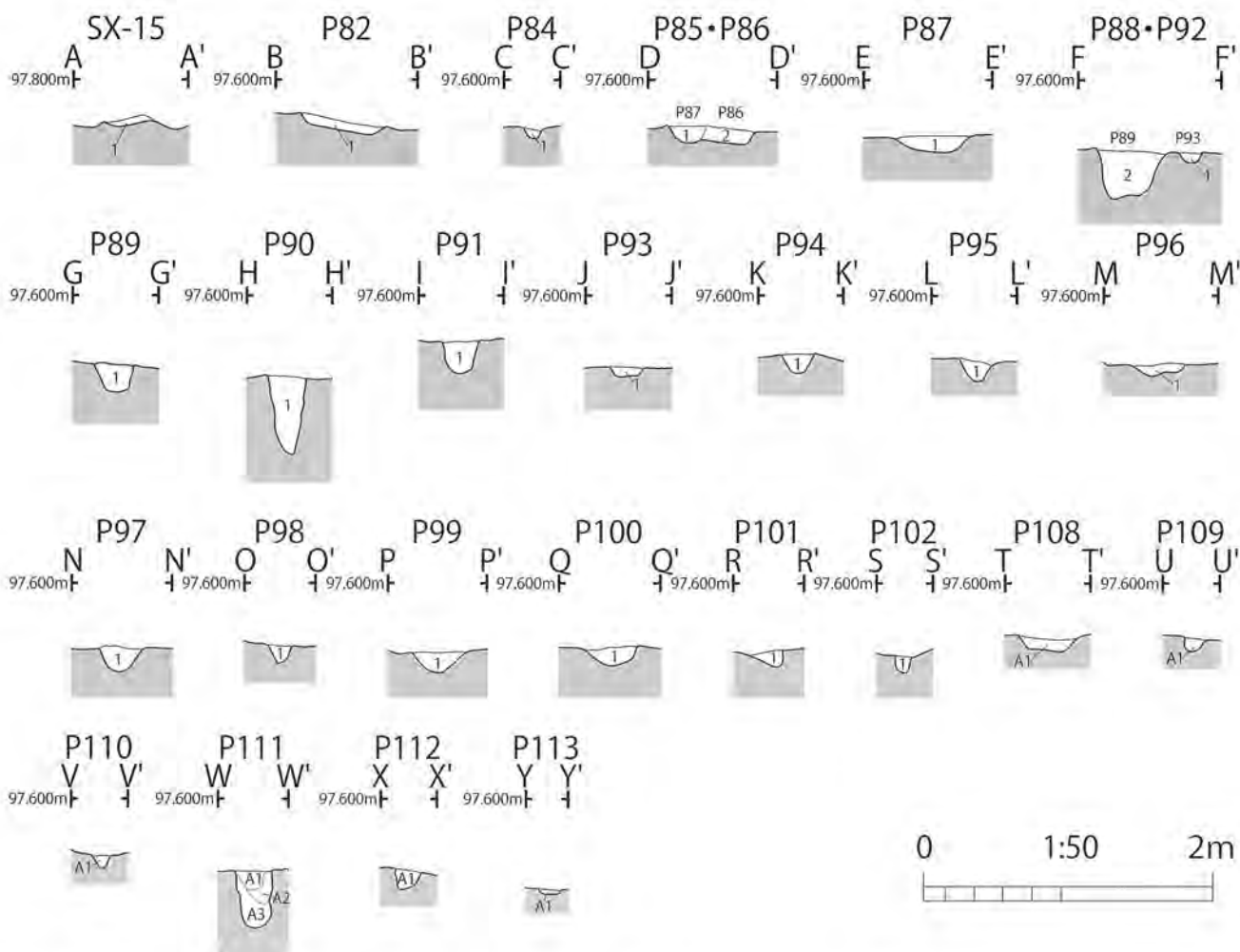
SX-01	1 シルト質礫層土 10YR~5Y R2/3	浸透層 上面が原土 火床面			
SX-02	1 シルト質礫層土 5YR2/2 黒褐色土 2 観察なし	炭小片混入物多い	炭化物		
P27	1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土	白色砂粒目立つ 砂質土 黒土粒少量	黒土粒		
P35	1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土	焼土粒・炭化粒をやや多く含む 黄褐色地山土粒少量	焼土粒・炭化粒		
P36	1 2.5Y4/2 暗灰黄色土	黄色地山土塊少し 粘土質			
P37	1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 2 10YR3/1 黒褐色土	褐色地山土塊やや多い 粘質土	粘液中		
P38	1 10YR3/3 暗褐色土	褐色地山土塊少量含む 砂質 炭化物少	粘性強 締り軟 炭化物		
P39	1 10YR3/1 黒褐色土 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土	褐色地山土粒少量 褐色地山土粒多い	粘液中		
P40	1 2.5Y3/2 黒褐色土	3~5cmの地山塊を少し含む	炭化物		
P41	1 10YR3/1 黒褐色土	風味強くない 1cm以下の黄褐色地山土粒含む			
P43	1 10YR3/1 黒褐色土	1cmの黄褐色地山土粒多い			
P44	1 10YR4/2 灰黄褐色土	1~2cmの黄褐色地山土塊多い			
P45	1 10YR3/2 黒褐色土	5cm大の褐色土塊を含む			
P47・P48	1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土	褐色地山土塊をきわめて多い 黄褐色 褐色の地山土塊多い			
P49	1 10YR3/2 黒褐色土	風味は強い 褐色地山土少し含む			
P50	1 10YR3/1 黒褐色土	3cm大の褐色地山土塊少し含む			
P51	1 10YR3/1 黒褐色土	1~2cmの褐色地山土少し含む			
P52	1 灰黄褐色土	1~3cmの黄褐色地山土塊多く含む			
P53	1 暗褐色土	2~3cmの褐色地山土が多い	炭化物小片		
P54	1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土	1cm以下の黄褐色地山土粒多い			
P55・P56	1 2.5Y3/1 黒褐色土 2 2.5Y4/1 黄灰色土	褐色土塊やや多く含む 褐色地山土塊を少量含む	粘液中 炭化物片		
P57	1 10YR3/1 黒褐色土				
P58	1 10YR3/1 黒褐色土				
P59	1 2.5Y4/1 黄灰色土	5cmの黄褐色土塊含む			
P60	1 10YR3/1 黒褐色土				
P61	1 10YR3/1 黒褐色土				
P62	1 10YR3/1 黒褐色土				
P63	1 2.5Y4/1 黄灰色土				
P64	1 10YR3/1 黒褐色土				
P65	1 10YR3/1 黒褐色土				
P66	1 10YR2/1 黒色土				
P67	1 2.5Y4/2 暗灰黄色土				
P68	1 10YR3/3 暗褐色土 2 2.5YR3/2 黒褐色土	地山土塊あり 地山土ほとんど無い	焼土・炭化物 締り軟		
P69	1 2.5Y3/1 黒褐色土	地山土粒	焼土粒・炭化物粒		
P70	1 10YR3/4 暗褐色土	黄褐色地山土塊含む	炭化物		
P71	1 2.5Y3/1 黄褐色土	黄褐色地山土粒多い 炭化物多い	炭化物		
P72	1 2.5Y2/1 黒色土	1cmの黄褐色地山土粒含む			
P73	1 10YR3/3 暗褐色土	2cmの地山土塊あり	炭化物		
P74	1 2.5Y4/2 暗灰黄色土	5cmの黄褐色地山土塊 塊状炭化物目立つ	塊状炭化物		
P75	1 2.5Y4/2 暗灰黄色土	5cmの黄褐色地山土塊	焼土炭化物		
P76	1 10YR3/1 黒褐色土	黄褐色地山土塊あり 炭化物多め	炭化物		
P77	1 10YR3/1 黒褐色土	褐色地山土粒含む	炭化物		
P78	1 暗褐色土	黄褐色地山土粒多い			
P79	1 10YR2/1 黒褐色土	黄褐色地山土粒少し	炭化物		
P83	1 10YR3/1 黒褐色土 2 10YR3/1 黒褐色土 3 2.5Y3/1 黒褐色土	黄褐色土をやや多く含む砂質 1層に広がる黄褐色土がかなり多い 地山土粒こぼれず 1,2層よりも深い	締り軟 炭化物 炭化物		
P107	A1 シルト質礫層土 10YR2/3	黒褐色土シルト質礫土 10YR3/4 暗褐色土	小塊 20%	粘液中 締り硬	



第 22 図 1 次調査区遺構断面図 (2)



第 23 図 1 次調査区遺構平面図 (3)

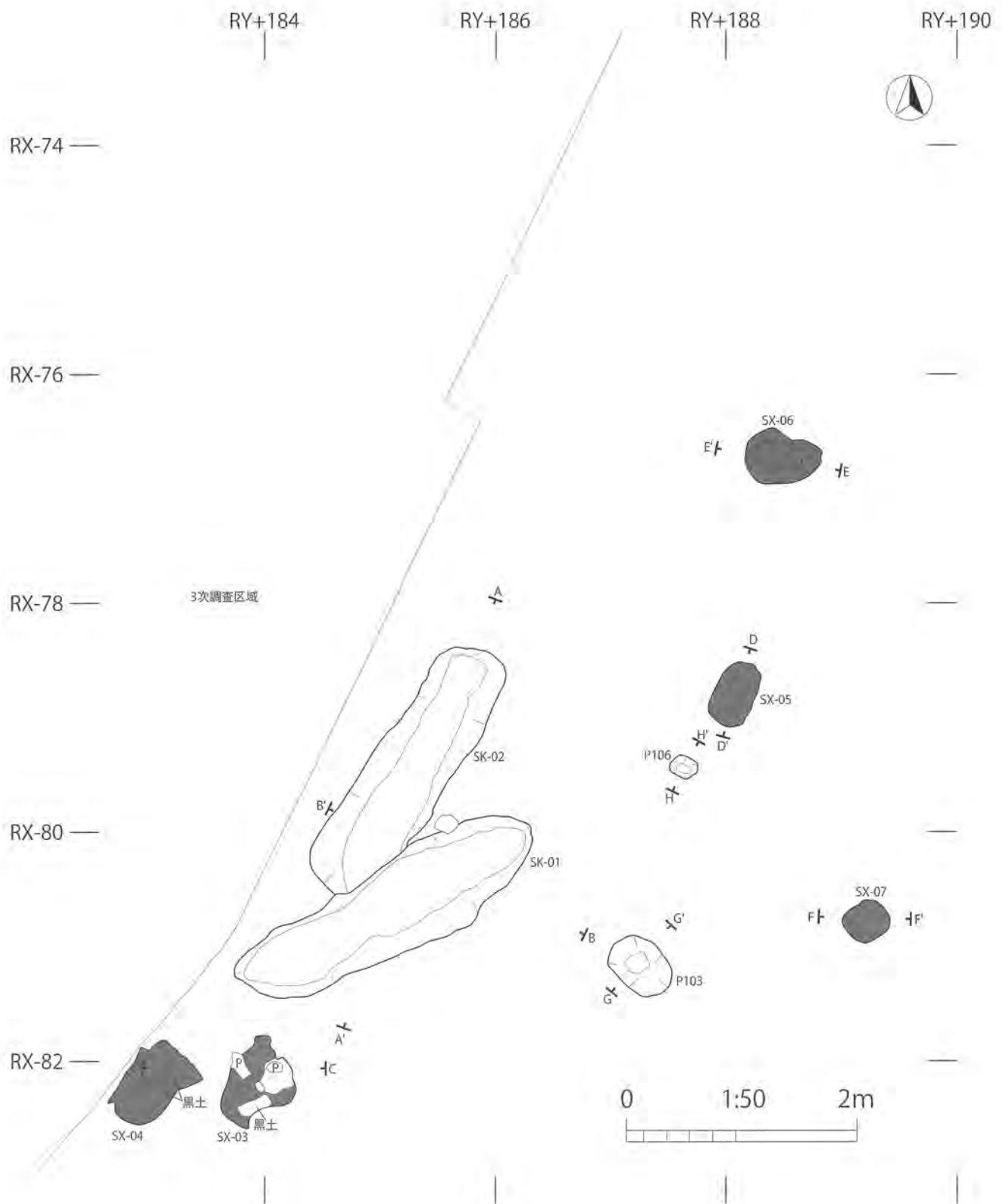


- | | | | | | | | | | |
|---------|----|-----------|-----------|-------------------|------------|-----------|-----|--|--|
| SX-15 | 1 | 観察なし | | | | | | | |
| P82 | 1 | 2.5Y3/2 | 黒褐色土 | 1~3cmの褐色地山土塊を含む | | | | | |
| P84 | 1 | 10YR2/1 | 黒色土 | | | | | | |
| P85-P86 | 1 | 10Y R 3/3 | 暗褐色土 | 5cmの黄褐色土塊を含む | | | | | |
| | 2 | 2.5Y3/2 | 黄褐色土 | 5cmの黄褐色土塊 | | | | | |
| P87 | 1 | 10Y R 3/3 | 暗褐色土 | 3cmの黄褐色土塊含む(やや多い) | 1~2cmの炭化物片 | 炭化物片・灰土粒 | | | |
| P88-P92 | 1 | 10Y R 4/2 | 灰黄褐色土 | 表面のみ | | | | | |
| | 2 | 10Y R 3/1 | 黒褐色土 | 黄褐色土塊やや多く | 炭化物片目立つ | 炭化物片 | | | |
| P89 | 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰褐色土 | 2cmの黄褐色土塊 | | 土・炭化物 | | | |
| P90 | 1 | 2.5Y4/1 | 黄灰褐色土 | 1~2cmの黄褐色土塊を含む | | 炭土粒 | | | |
| P91 | 1 | 2.5Y3/3 | 暗赤リブ褐色土 | 1~2cmの黄褐色地山土塊を含む | | | | | |
| P93 | 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色土 | 7~3cmの褐色地山土含む | | | | | |
| P94 | 1 | 10Y R 3/1 | 黒褐色土 | 1cmの炭化物 | 炭土粒 | 炭土粒・炭化物 | | | |
| P95 | 1 | 10Y R 3/2 | 黒褐色土 | 地山土塊多い | | | | | |
| P96 | 1 | | | | | | | | |
| P97 | 1 | 10Y R 3/3 | 暗褐色土 | | | | | | |
| P98 | 1 | 2.5Y2/1 | 黒色土 | | | | | | |
| P99 | 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄褐色土 | | | | | | |
| P100 | 1 | 10Y R 3/1 | 黒褐色土 | | | | | | |
| P101 | 1 | 2.5Y3/1 | 黒褐色土 | | | | | | |
| P102 | 1 | | | | | | | | |
| P108 | A1 | | | | | | | | |
| P109 | A1 | | | | | | | | |
| P110 | A1 | | | | | | | | |
| P111 | A1 | 砂質暗褐色土 | 10Y R 3/4 | 暗褐色土 | シルト質暗褐色土 | 10Y R 4/4 | 褐色土 | | |
| | A2 | 砂質暗褐色土 | 10Y R 3/3 | 暗褐色土 | シルト質暗褐色土 | 10Y R 4/6 | 褐色土 | | |
| | A3 | 砂質暗褐色土 | 10Y R 3/4 | 暗褐色土 | シルト質暗褐色土 | 10Y R 4/6 | 褐色土 | | |

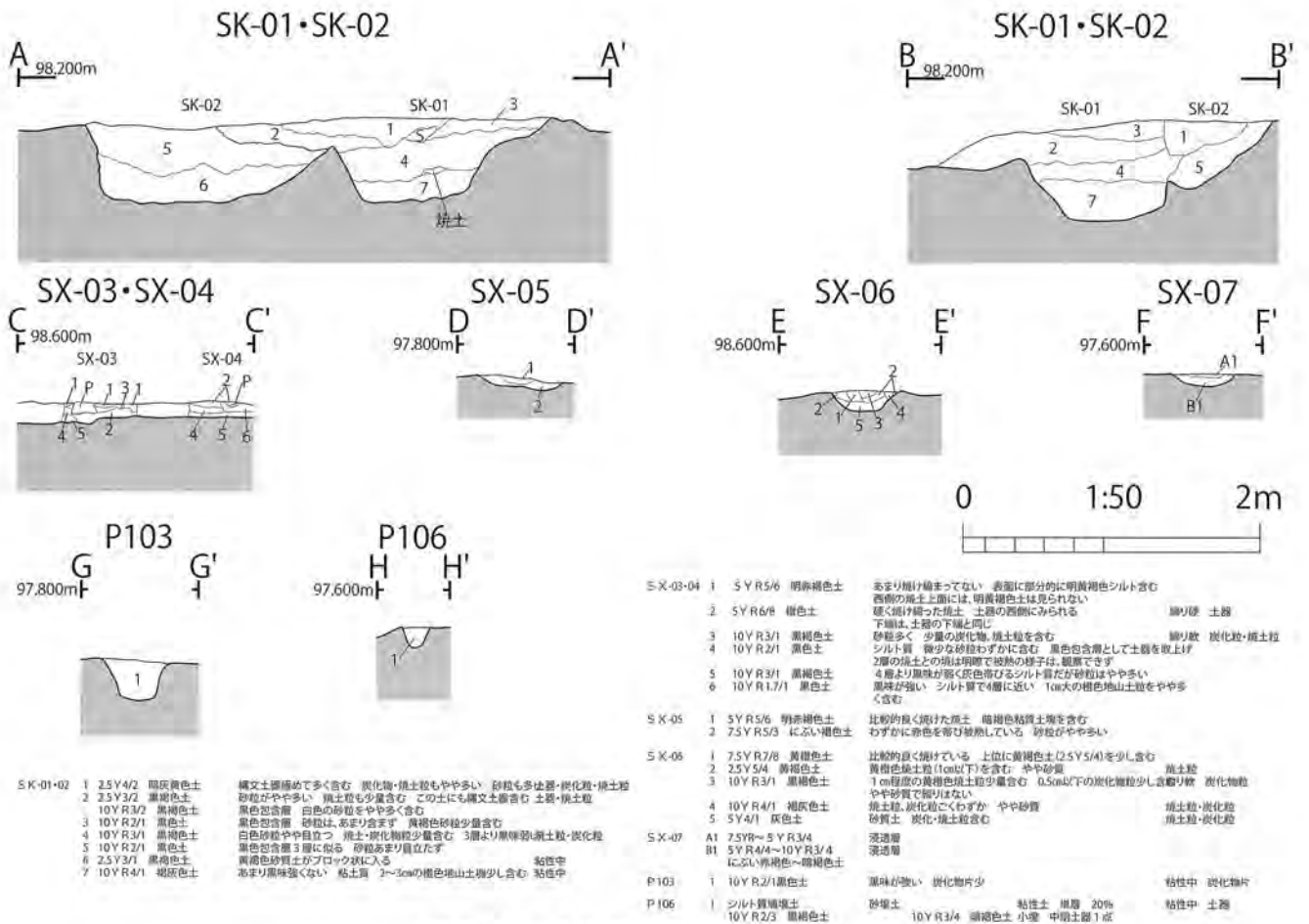
第24図 1次調査区遺構断面図(3)

第1表 土坑、焼土遺構、ピット計測表(1)

遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
SK-01	1次	285	80	56	SX-11	1次	70	60	14
SK-02	1次	245	70	50	SX-12	1次	52	40	21
SX-01	1次	48	35	10	SX-13	1次	36	32	9
SX-02	1次	50	48	10	SX-14	1次	60	40	20
SX-03	1次	80	60	18	SX-15	1次	35	35	3
SX-04	1次	75	48	10	SX-16	1次	63	45	10
SX-05	1次	55	35	8	P1	1次	35	27	8
SX-06	1次	65	45	16	P2	1次	28	28	20
SX-07	1次	40	35	9	P3	1次	31	30	10
SX-08	1次	45	22	12	P4	1次	40	38	18
SX-09	1次	56	50	16	P5	1次	30	25	16
SX-10	1次	60	45	12	P6	1次	33	29	18



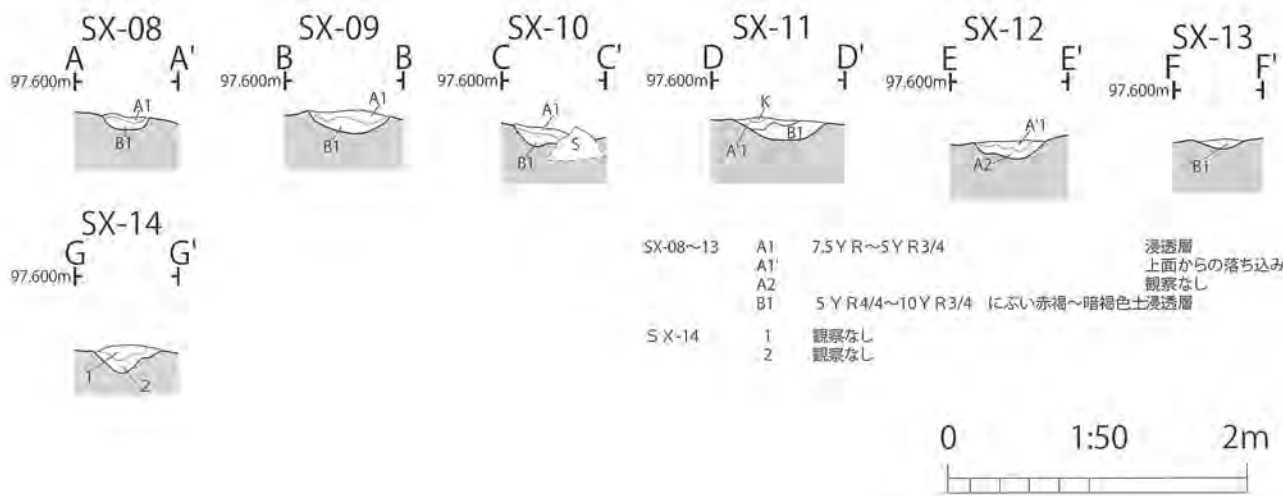
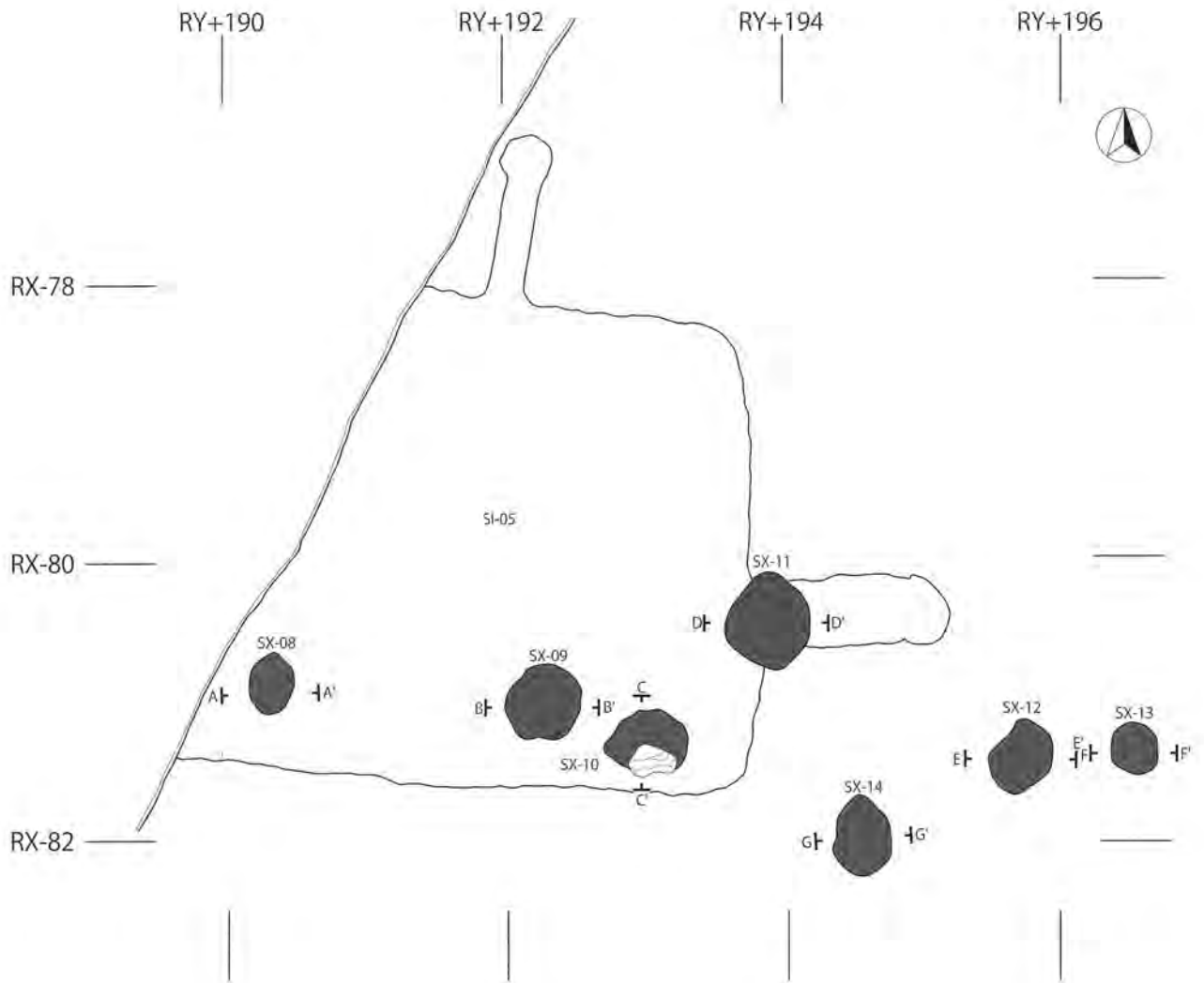
第 25 図 1 次調査区遺構平面図 (4)



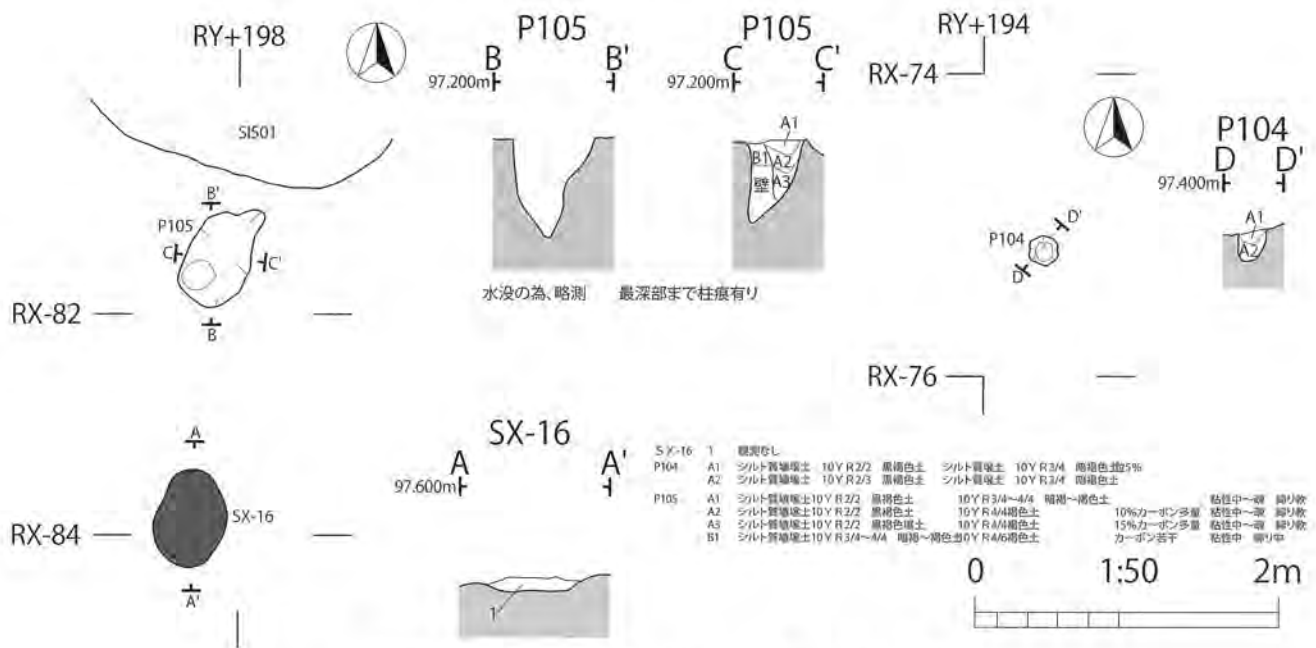
第 26 図 1 次調査区遺構断面図 (4)

第 2 表 土坑、焼土遺構、ピット計測表 (2)

遺構名	調査区	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	遺構名	調査区	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
P7	1次	48	36	18	P32	1次	30	25	24
P8	1次	34	26	36	P33	1次	30	30	13
P9	1次	21	20	13	P34	1次	37	25	15
P10	1次	19	16	14	P35	1次	38	30	35
P11	1次	32	30	14	P36	1次	45	41	15
P12	1次	34	26	30	P37	1次	26	20	19
P13	1次	22	17	10	P38	1次	46	35	22
P14	1次	31	30	28	P39	1次	28	25	10
P15	1次	31	24	8	P40	1次	48	40	12
P16	1次	82	50	25	P41	1次	45	35	10
P17	1次	30	25	20	P42	1次	23	20	15
P18	1次	28	25	44	P43	1次	26	26	36
P19	1次	43	34	36	P44	1次	25	23	10
P20	1次	34	33	37	P45	1次	21	20	17
P21	1次	30	30	17	P46	1次	26	25	17
P22	1次	30	28	21	P47	1次	17	15	12
P23	1次	30	26	12	P48	1次	30	21	9
P24	1次	34	29	35	P49	1次	24	21	5
P25	1次	28	24	8	P50	1次	21	16	16
P26	1次	30	26	46	P51	1次	28	25	39
P27	1次	34	25	31	P52	1次	33	29	11
P28	1次	35	35	36	P53	1次	25	21	21
P29	1次	30	26	30	P54	1次	30	29	15
P30	1次	40	35	32	P55	1次	25	22	17
P31	1次	30	16	28	P56	1次	32	13	18



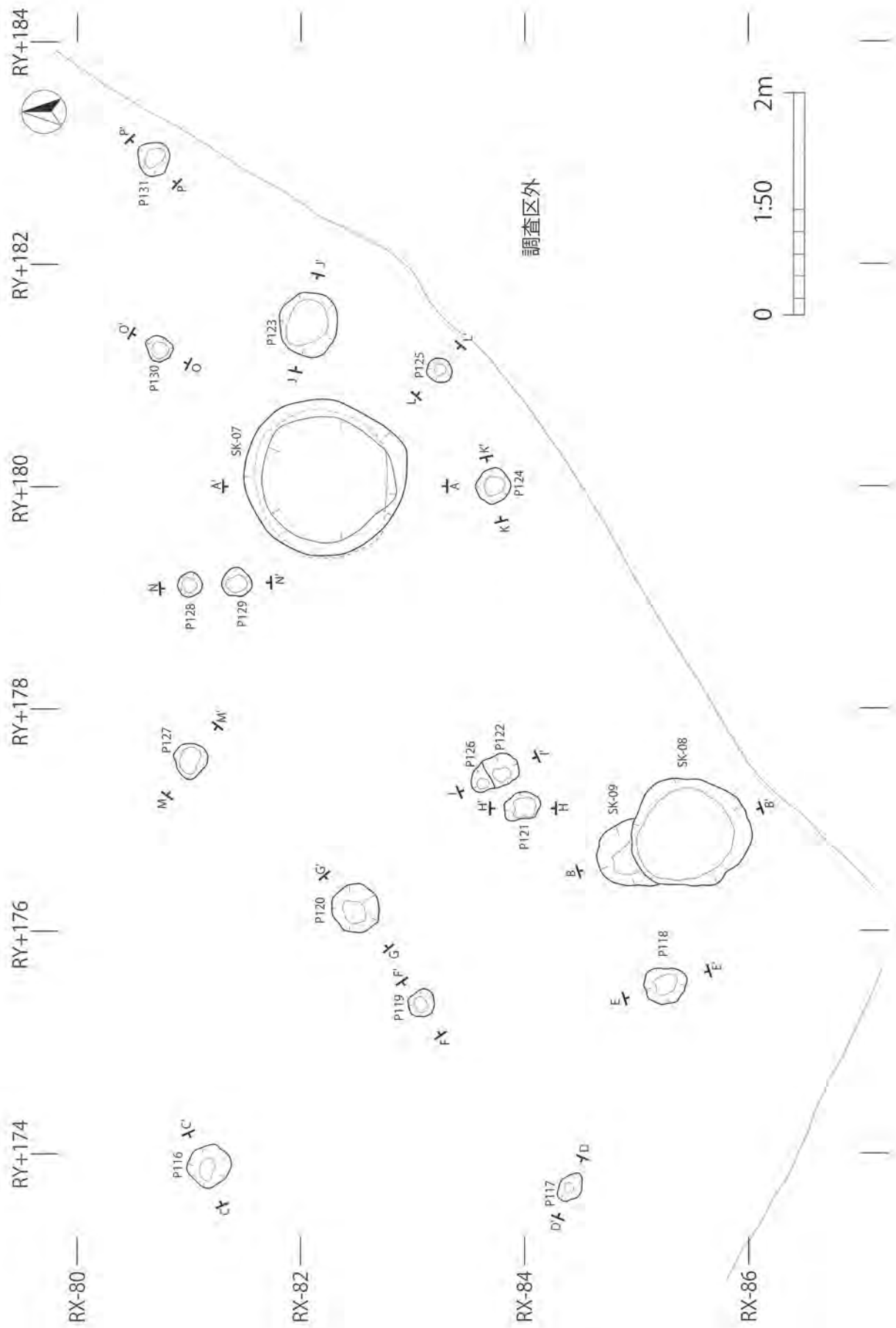
第 27 図 1 次調査区遺構平面図 (5)・断面図 (5)



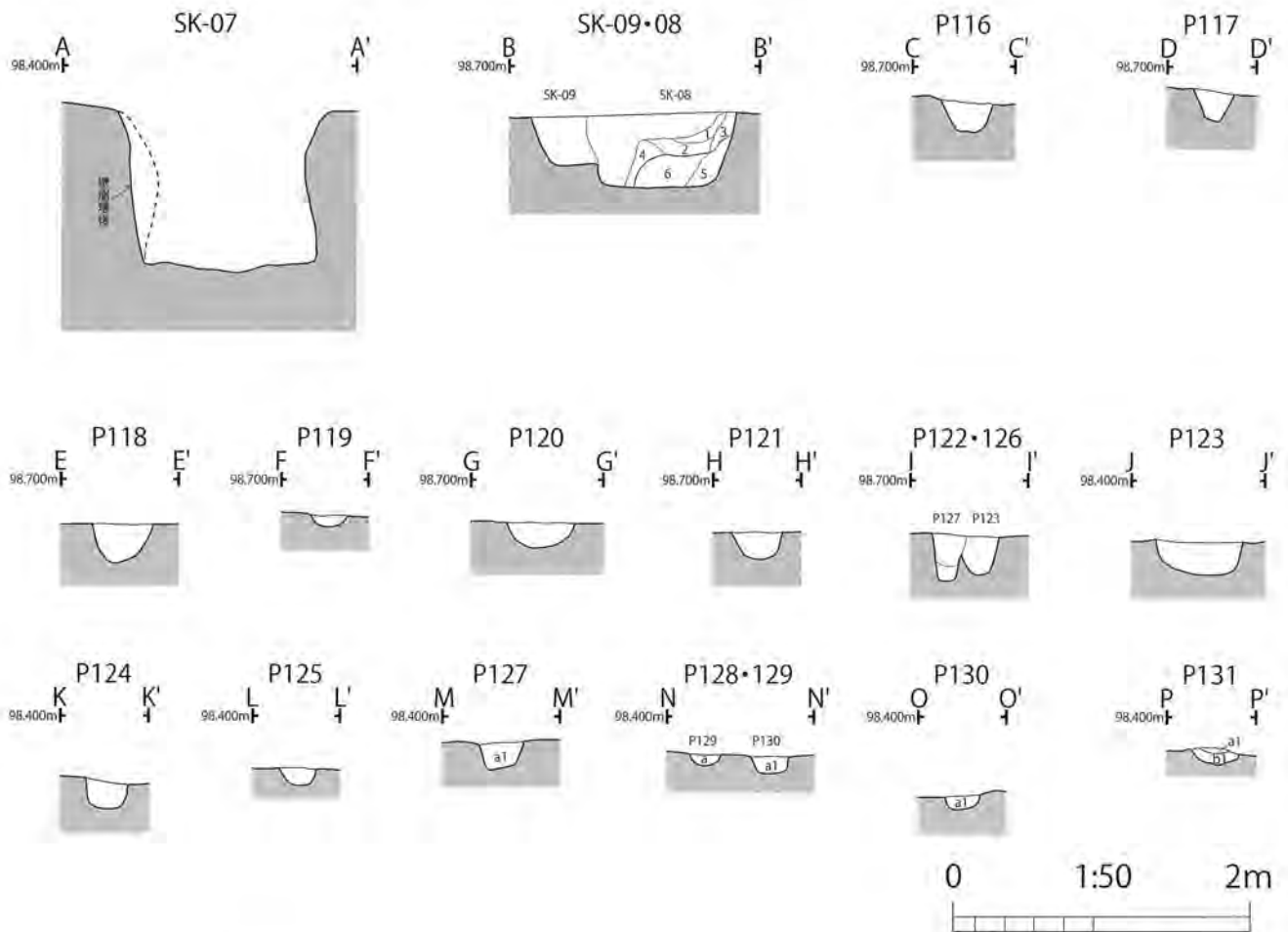
第28図 1次調査区遺構平面図(6)・断面図(6)

第3表 土坑、焼土遺構、ピット計測表(3)

遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P57	1次	15	11	9	P86	1次	25	20	10
P58	1次	16	16	15	P87	1次	60	55	15
P59	1次	29	20	16	P88	1次	50	46	35
P60	1次	25	24	19	P89	1次	33	31	17
P61	1次	30	23	19	P90	1次	26	25	55
P62	1次	25	21	27	P91	1次	30	28	23
P63	1次	32	30	7	P92	1次	16	13	8
P64	1次	23	20	20	P93	1次	30	20	5
P65	1次	25	25	15	P94	1次	22	20	14
P66	1次	21	19	16	P95	1次	30	21	14
P67	1次	19	17	12	P96	1次	40	36	7
P68	1次	42	40	19	P97	1次	45	28	22
P69	1次	30	17	15	P98	1次	18	18	13
P70	1次	25	23	10	P99	1次	36	35	14
P71	1次	26	24	20	P100	1次	42	41	11
P72	1次	20	20	16	P101	1次	26	21	13
P73	1次	23	18	15	P102	1次	16	16	12
P74	1次	23	20	25	P103	1次	55	45	29
P75	1次	25	20	20	P104	1次	20	19	20
P76	1次	42	32	10	P105	1次	73	45	69
P77	1次	23	20	9	P106	1次	25	20	13
P78	1次	22	19	16	P107	1次	25	22	10
P79	1次	22	20	20	P108	1次	36	32	11
P80	1次	19	18	16	P109	1次	14	12	8
P81	1次	12	10	8	P110	1次	18	15	11
P82	1次	61	59	5	P111	1次	30	27	40
P83	1次	59	50	41	P112	1次	20	20	8
P84	1次	12	10	8	P113	1次	15	12	12
P85	1次	34	30	10					



第29図 3次調査区遺構平面図(1)



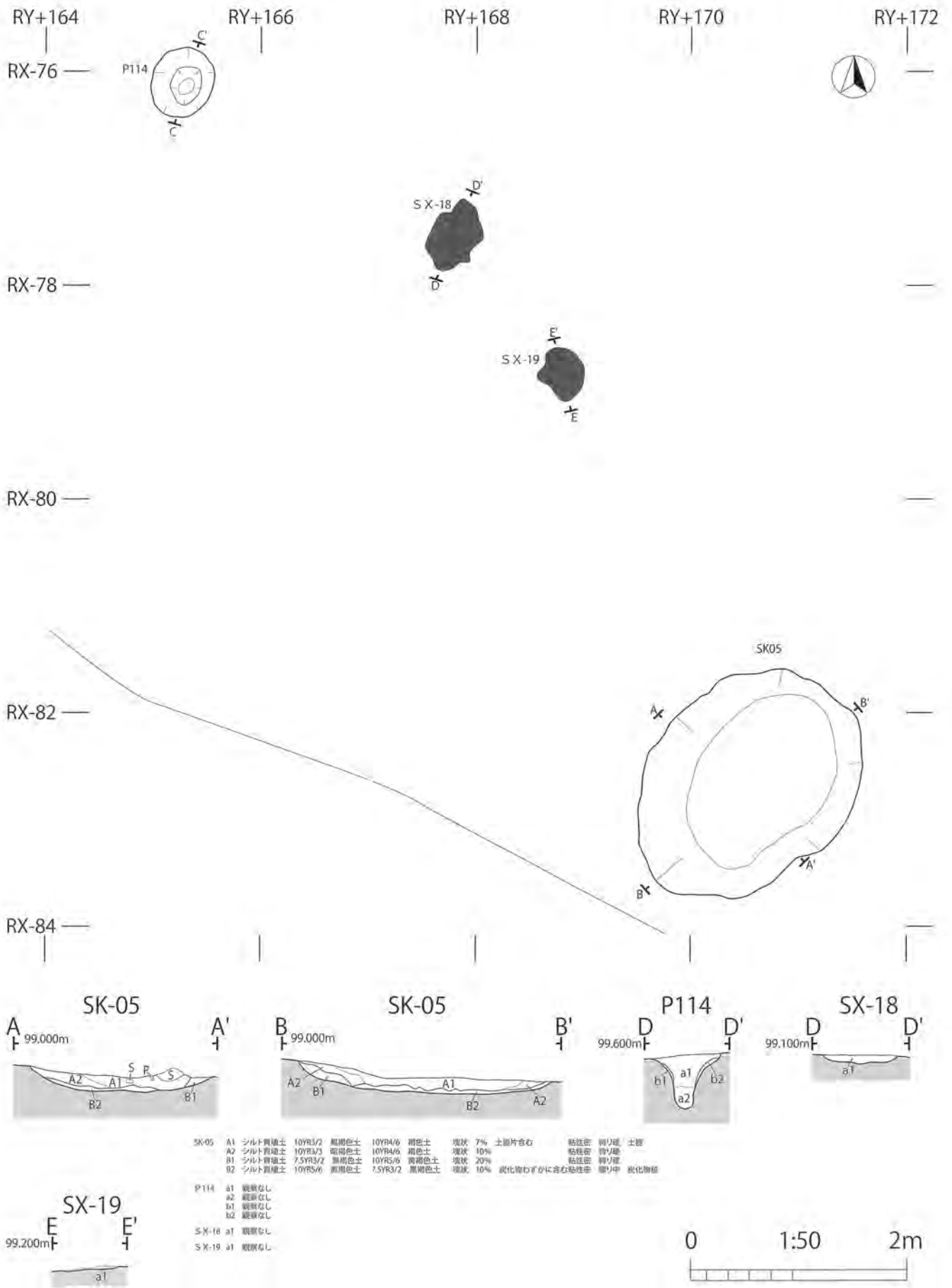
SK-07	観察なし								
SK-08	1	シルト質埴土	10YR5/4	にぶい褐色土	10YR2/2	黒色土	粒状3%	粘性密	締り硬
	2	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/6	褐色土	粒状5%	粘性密	締り硬
	3	シルト質埴土	10YR5/6	黄褐色土	10YR4/6	褐色土	粒状10%	粘性密	締り中
	4	シルト質埴土	10YR3/3	暗褐色土	10 Y R 5/6	黄褐色土	粒状2%	粘性密	締り硬
	5	シルト質埴壤土	10YR3/4	暗褐色土	10 Y R 5/4	にぶい黄褐色土	粒状10%	粘性密	締り中
	6	シルト質埴壤土	10YR4/6	褐色土	10 Y R 6/4	にぶい黄褐色土	粒状3%	粘性密	締り中
SK-09	観察なし								
P 116 ~ P 126	観察なし								
P 127	a1	シルト質埴土	10YR2/2	黒褐色土	10 Y R 6/8	明黄褐色土	粒状10%	粘性密	締り硬
P 128・P 129	a	シルト質埴土	10YR2/2	黒褐色土	10 Y R 6/6	明黄褐色土	粒状20%	粘性中	締り硬
	a1	シルト質色土	10YR2/2	黒褐色土	10 Y R 6/6	明黄褐色土	粒状5%	粘性硬	締り硬
P 130	a1	シルト質埴土	10YR2/2	黒褐色土	10 Y R 3/4	暗褐色土	粒状25%	粘性密	締り硬
P 131	a	観察なし							
	a1	観察なし							

第 30 図 3 次調査区遺構断面図 (1)

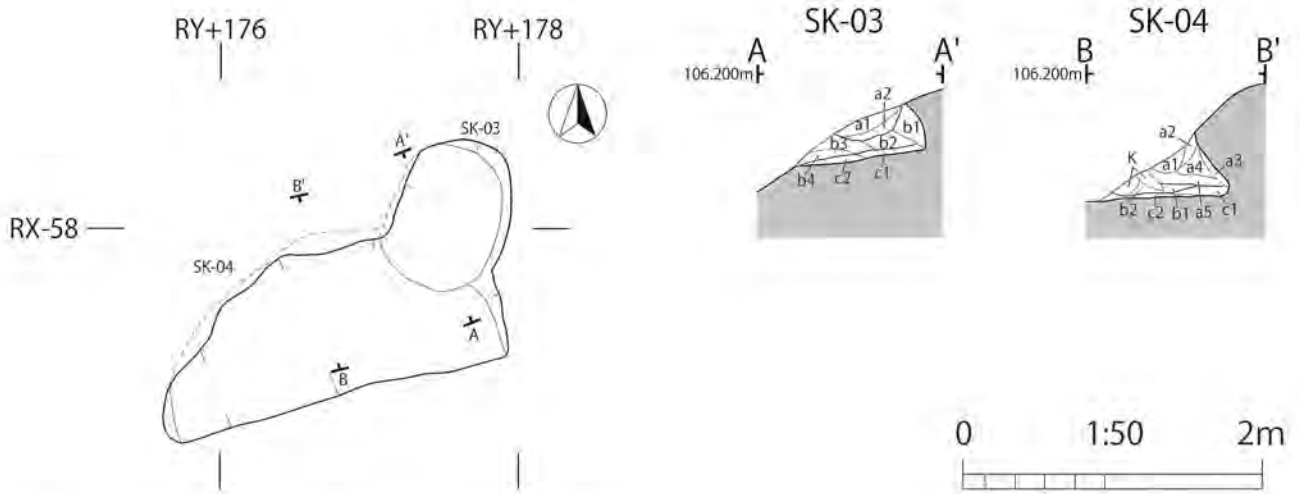
に分層され自然堆積である。底面は平坦である。8号土坑から時期不明の縄文土器が出土している(第37図32、33)。性格・時期は不明である。

・焼土遺構 (SX - 01 ~ 19)、ピット (P1 ~ 131) 第19図~第30図、第32図、第37図

各遺構の規模については第1~3表の観察表でまとめている。出土遺物については3号焼土(SX - 03)で縄文時代後期の土器(第37図34~38)が、13号焼土(SX - 13)で縄文時代前期の土器(39~43)が出土している。焼土遺構の時期については周辺から縄文土器が出土していることから、縄文時代の可能性がある。ピットについては、1次調査区の西部で集中しており、堀立柱建物になる可能性がある。



第31図 3次調査区遺構平面図(2)・断面図(2)

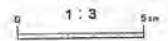
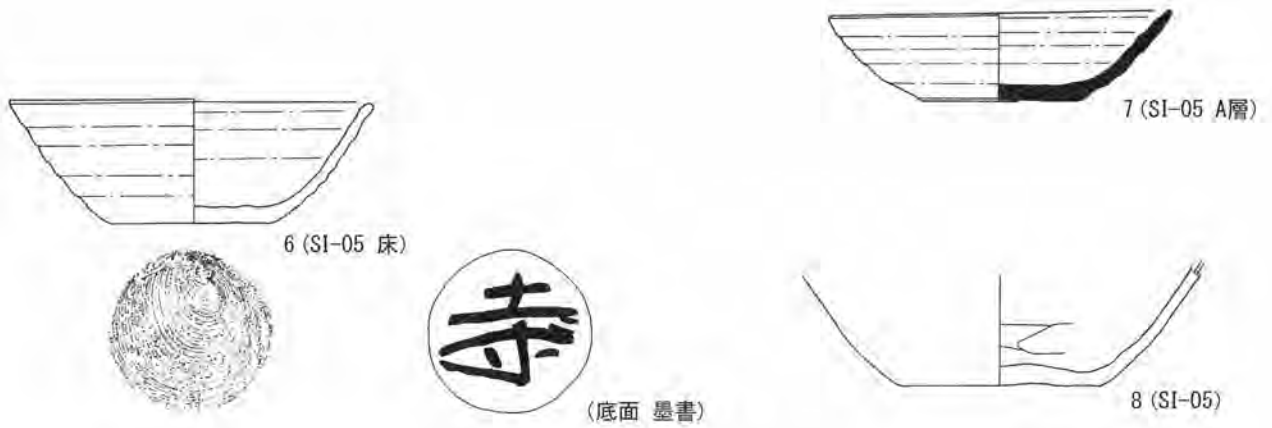
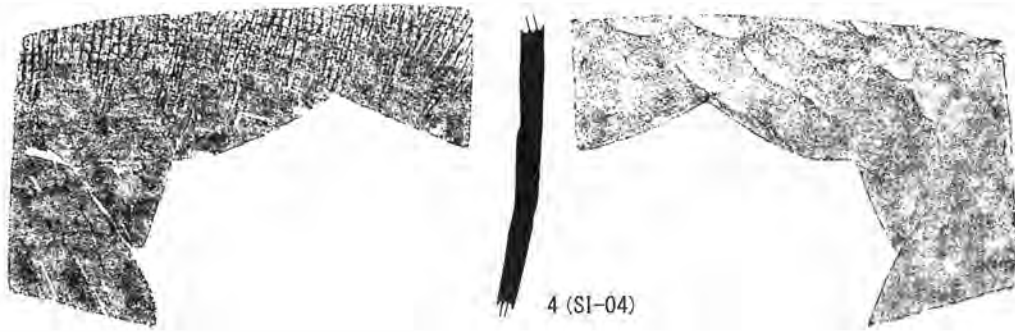
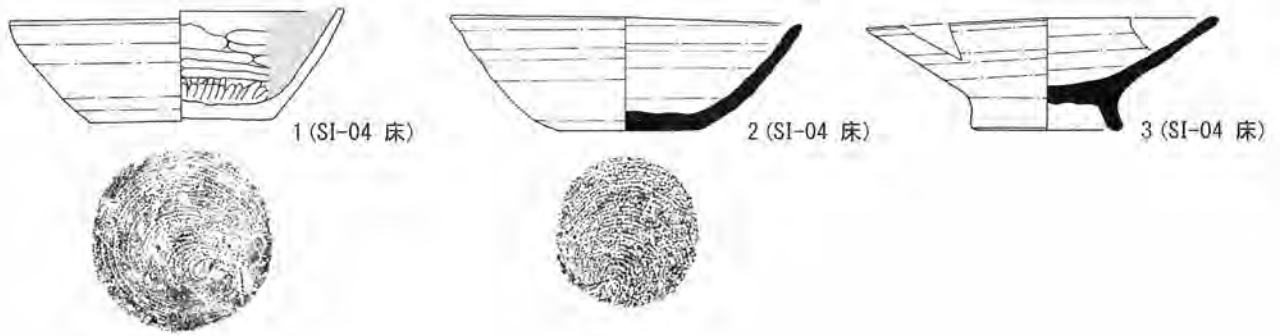


SK-03	a1	砂壤土	10YR5/8	黄褐色土	10YR5/6	黄褐色土	塊状	5%		粘性疎	締り硬	
	a2	砂壤土	10YR5/6	黄褐色土	10YR6/6	明黄褐色土	塊状	2%		粘性疎	締り硬	
	b1	砂質埴壤土	10YR4/4	褐色土	7.5YR6/8	橙色土	粒状	7%		粘性疎	締り中	
	b2	砂壤土	10YR4/4	褐色土	10YR5/6	黄褐色土	塊状	3%		粘性疎	締り中	
	b3	砂壤土	10YR4/4	褐色土	7.5YR6/8	橙色土	塊状	3%	2mm炭粒	粘性疎	締り硬	炭粒
	b4	砂壤土	10YR4/6	褐色土	10YR7/6	明黄褐色土	塊状	1%		粘性疎	締り中	
	c1	砂壤土	10YR5/6	黄褐色土	10YR3/2	黒褐色土	粒状	5%		粘性疎	締り硬	
	c2	砂壤土	10YR6/6	明黄褐色土	10YR6/8	明黄褐色土	塊状	7%		粘性疎	締り硬	
SK-04	a1	砂壤土	10YR4/6	褐色土	10YR5/8	黄褐色土	塊状	3%	1mm炭	粘性疎	締り硬	炭
	a2	砂壤土	10YR5/8	黄褐色土	10YR6/8	明黄褐色土	粒状	1%		粘性疎	締り硬	
	a3	砂壤土	10YR5/6	黄褐色土	7.5YR7/8	黄橙色土	粒状	1%		粘性疎	締り中	
	a4	砂壤土	10YR5/6	黄褐色土	10YR6/8	明黄褐色土	粒状	1%	1mm炭粒	粘性疎	締り硬	炭粒
	a5	砂壤土	10YR5/6	褐色土	10YR5/6	黄褐色土	塊状	10%	1mm炭粒	粘性疎	締り硬	炭粒
	b1	砂壤土	10YR5/6	黄褐色土	10YR4/6	褐色土	塊状	7%		粘性疎	締り硬	
	b2	砂壤土	10YR4/6	褐色土	10YR3/3	暗褐色土	粒状	1%		粘性疎	締り硬	
	c1	砂壤土	10YR4/4	褐色土	10YR5/6	黄褐色土	塊状	7%		粘性疎	締り硬	
c2	砂質埴壤土	10YR3/1	黒褐色土	10YR5/6	黄褐色土	層状	5%	1mm炭粒	粘性疎	締り硬	炭粒	

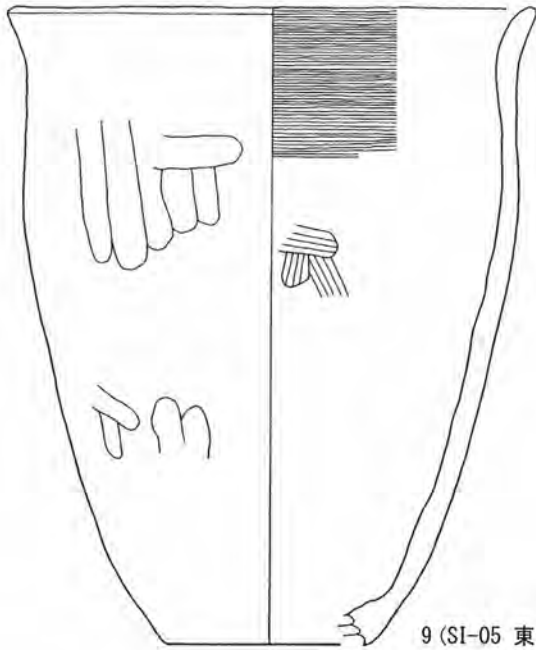
第32図 3次調査区遺構平面図(3)・断面図(3)

第4表 土坑、焼土遺構、ピット計測表(4)

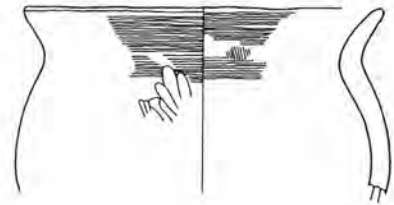
遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	遺構名	調査区	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
SK-03	3次	80	75	42	P118	3次	40	34	28
SK-04	3次	225	10	45	P119	3次	25	25	10
SK-05	3次	240	180	15	P120	3次	44	42	17
SK-06	3次	230	55	89	P121	3次	32	25	18
SK-07	3次	145	140	102	P122	3次	30	27	26
SK-08	3次	105	105	53	P123	3次	56	54	22
SK-09	3次	6	38	32	P124	3次	32	30	20
SX-17	3次	50	45	5	P125	3次	24	21	15
SX-18	3次	71	46	10	P126	3次	26	19	33
SX-19	3次	50	45	3	P127	3次	31	28	18
P114	3次	69	59	67	P128	3次	23	22	8
P115	3次	25	18	14	P129	3次	29	27	12
P116	3次	41	40	22	P130	3次	36	24	9
P117	3次	28	21	21	P131	3次	37	30	12



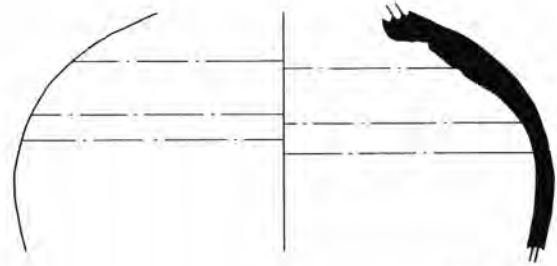
第33図 4号、5号竪穴住居跡出土遺物



9 (SI-05 東カマド焚口)



10 (SI-05 A3層)



11 (SI-05 A層)



12 (SI-05 B層)



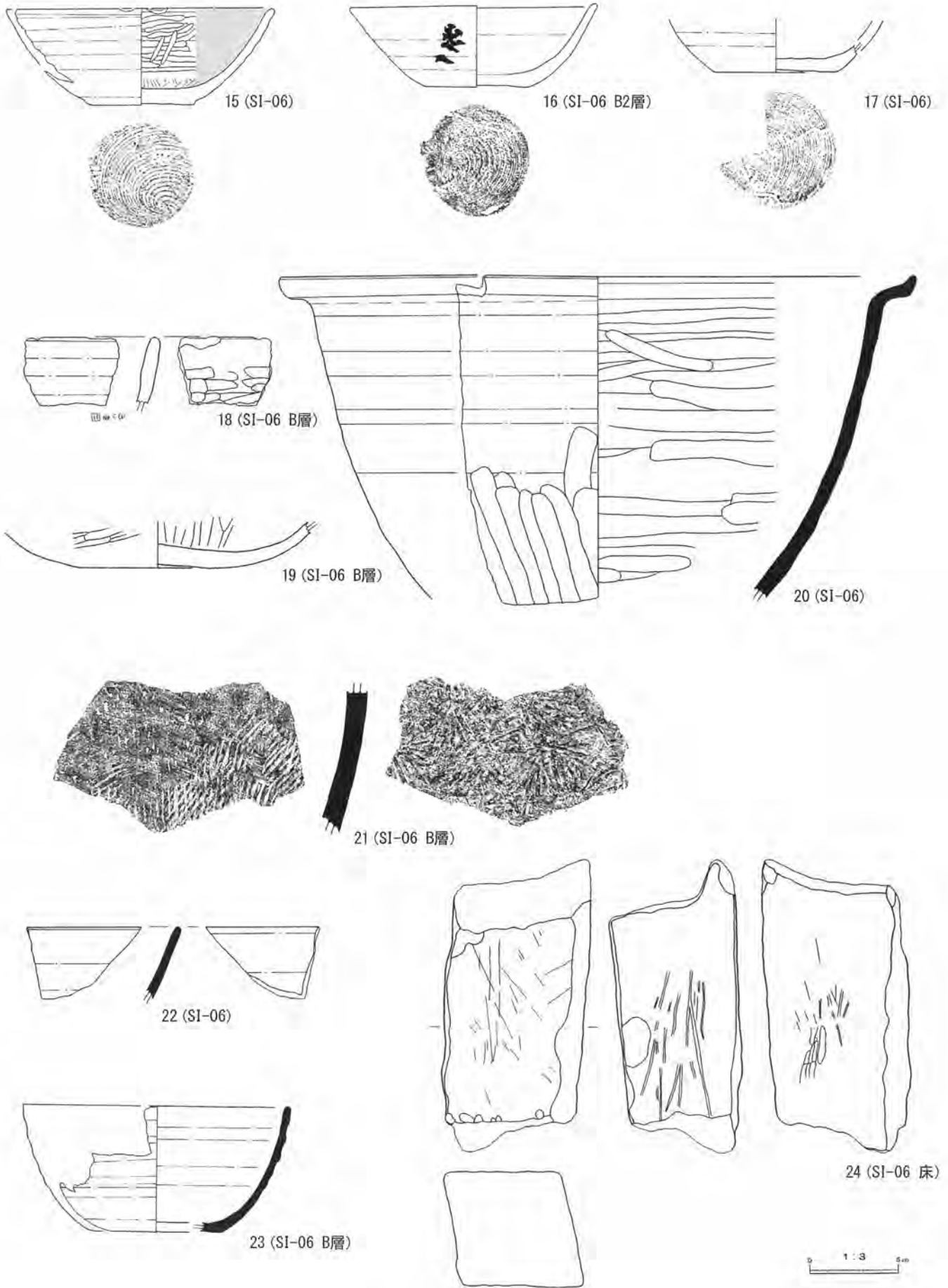
13 (SI-05 B層)



14 (SI-05 B層)



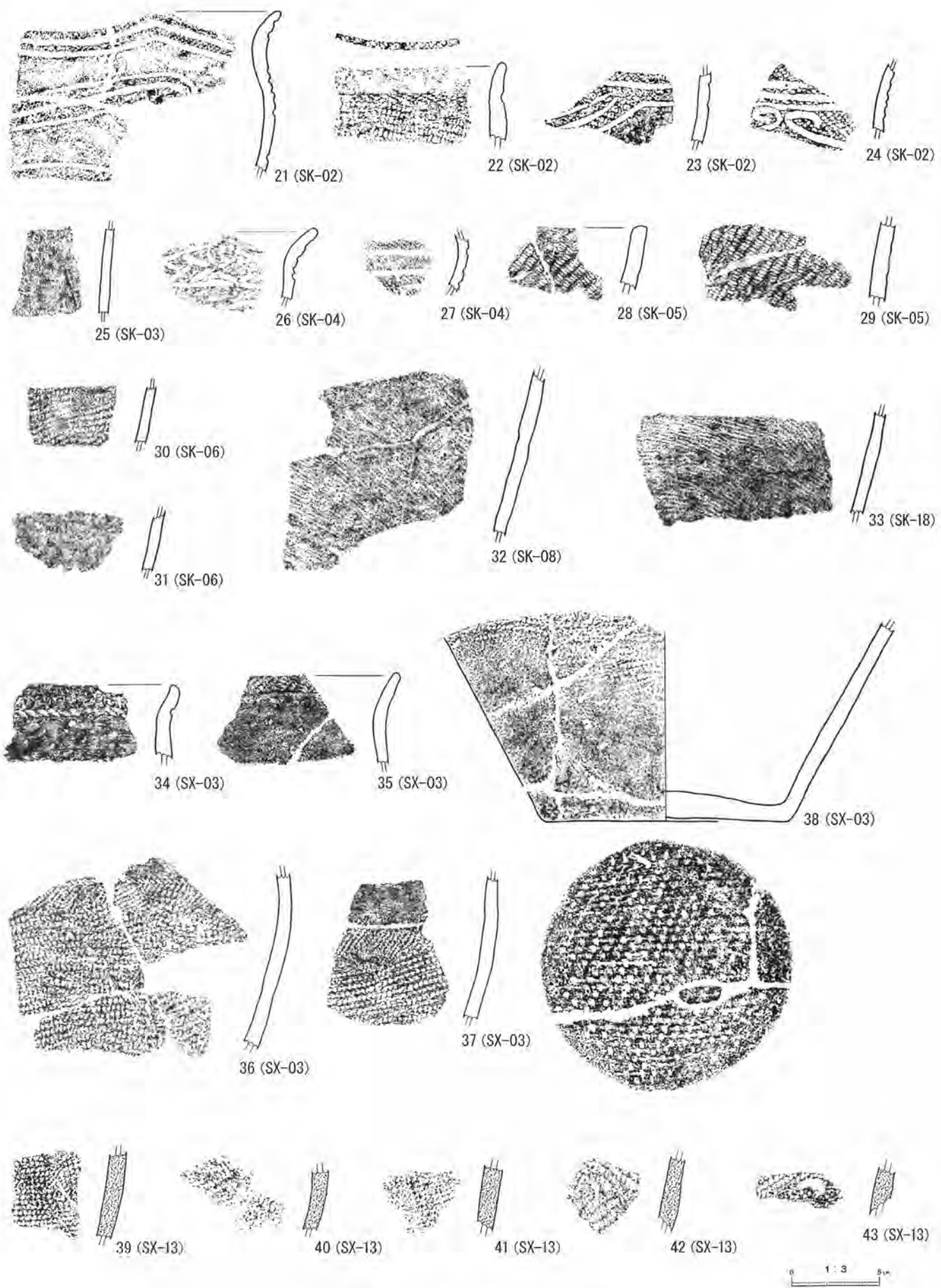
第 34 図 5 号 竪穴住居跡出土遺物



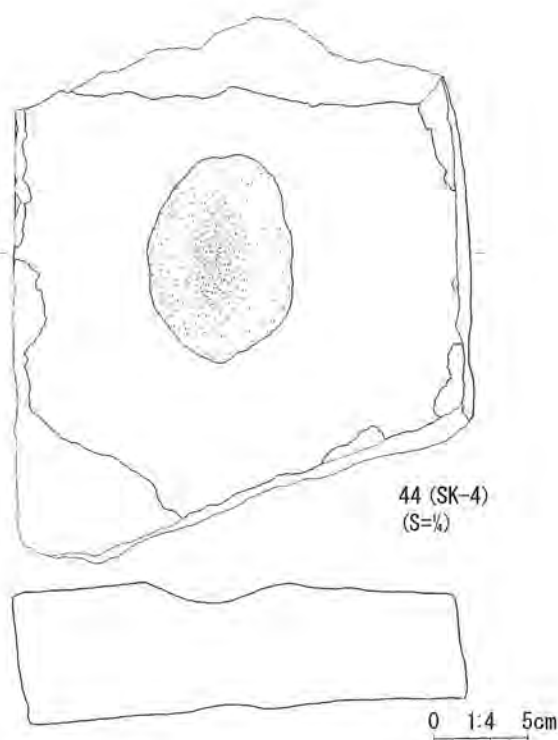
第 35 图 6 号竖穴住居跡出土遺物



第 36 圖 土坑出土遺物



第 37 图 土坑、烧土遺構出土遺物



第38図 土坑出土石器

・遺構外出土遺物（第39図～第73図）

縄文土器、石器、土製品、弥生土器、古代土器（土師器、須恵器、あかやき土器）が出土している。その他、図示できなかつた鉄製品、琥珀の剥片、近世の陶磁器が出土している。数量はコンテナー約50箱分である。

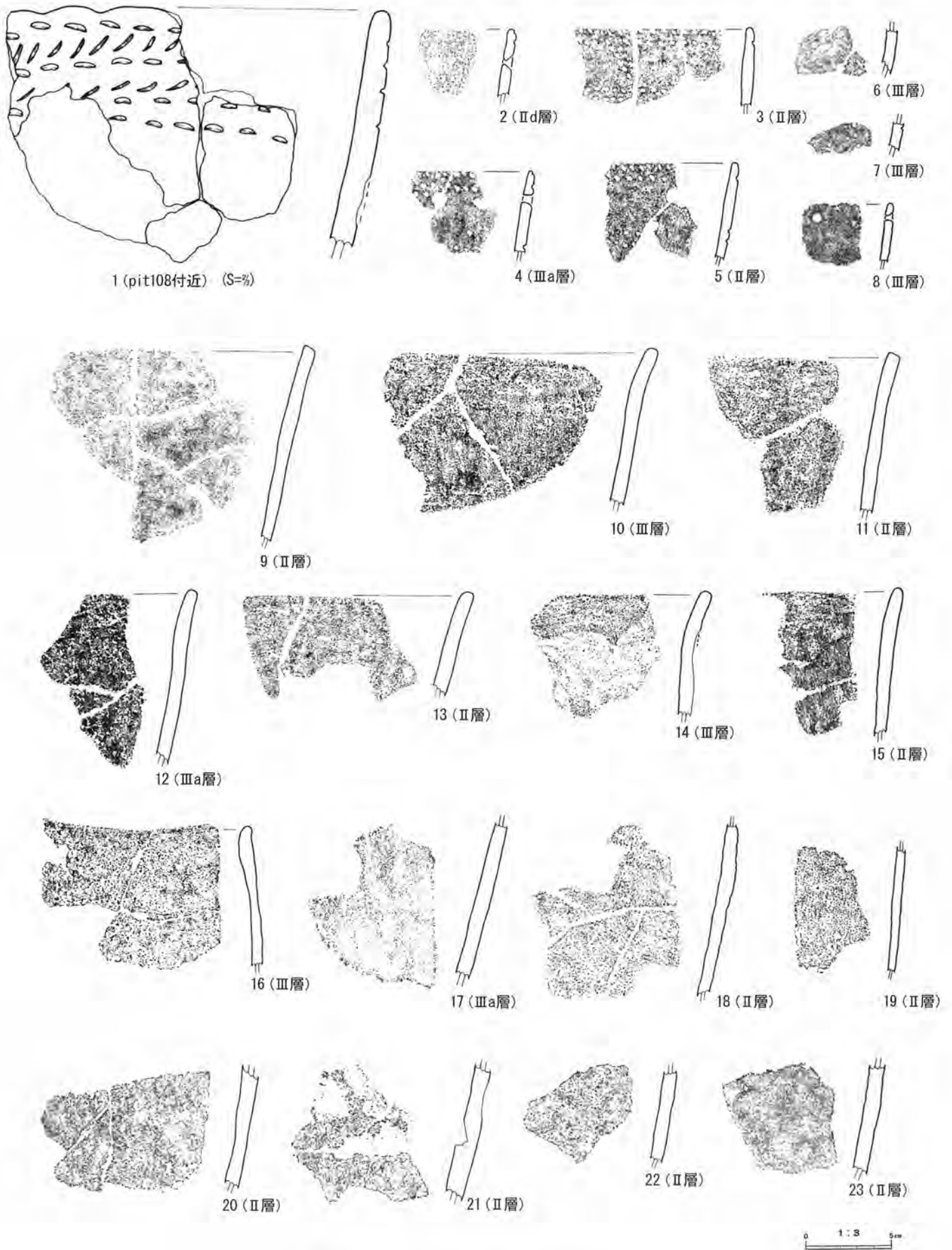
縄文土器（1次調査区 第39図1～第54図362、3次調査区 第65図484～第68図556）

草創期（1）

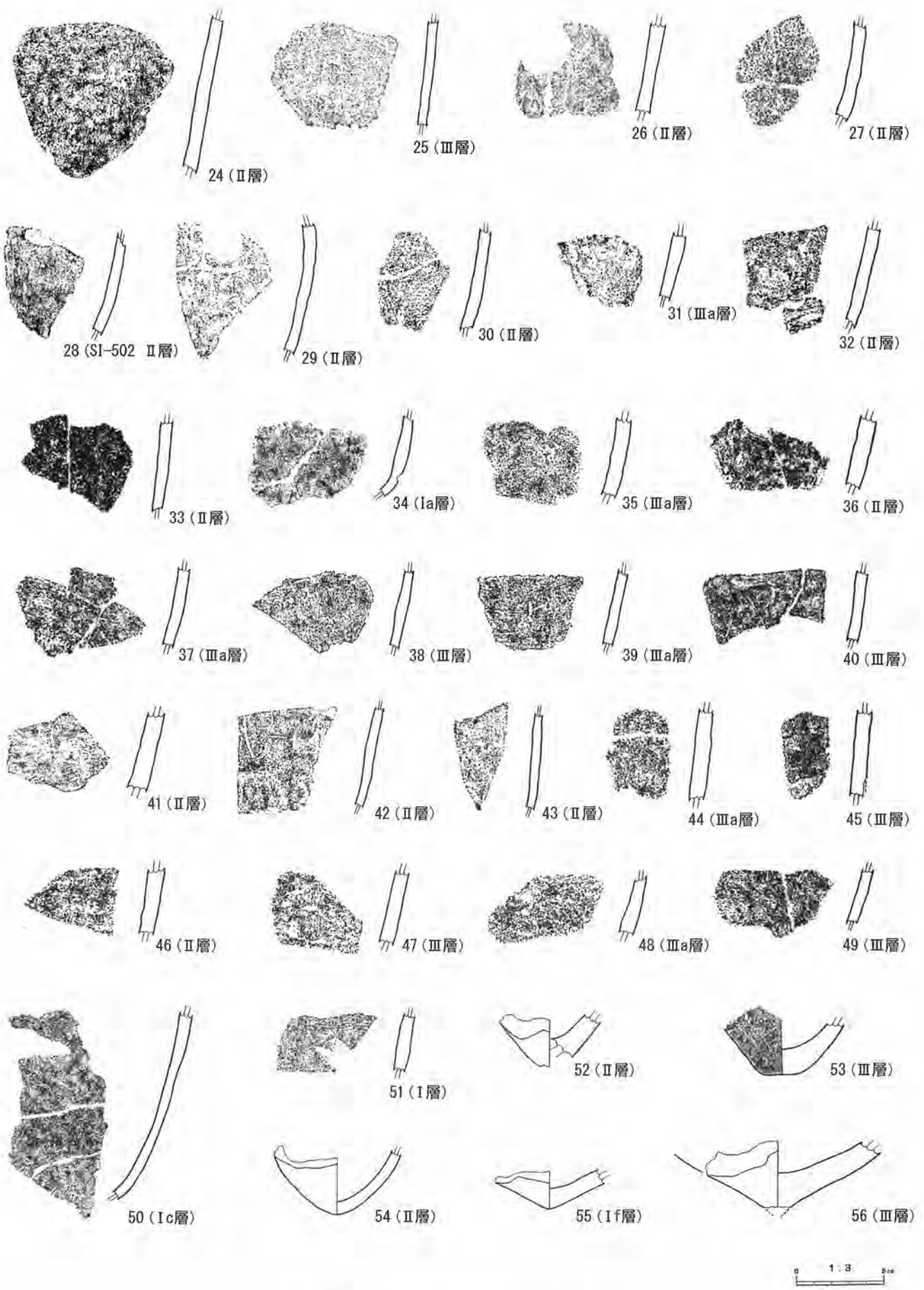
口縁部から胴部の深鉢形土器の破片で、色調は褐色、胎土に細石を含んでいる。器形は口縁部がやや外に開き口唇部は凹凸に整形されている。文様は口縁部から胴部にかけて爪形文を施している。爪形文は半月状で、横向き1列と左傾1列を横位に2段、その下に横向き2列を横位に配し以下は無文である。内面には煤が付着している。

早期（2～131、484～500）

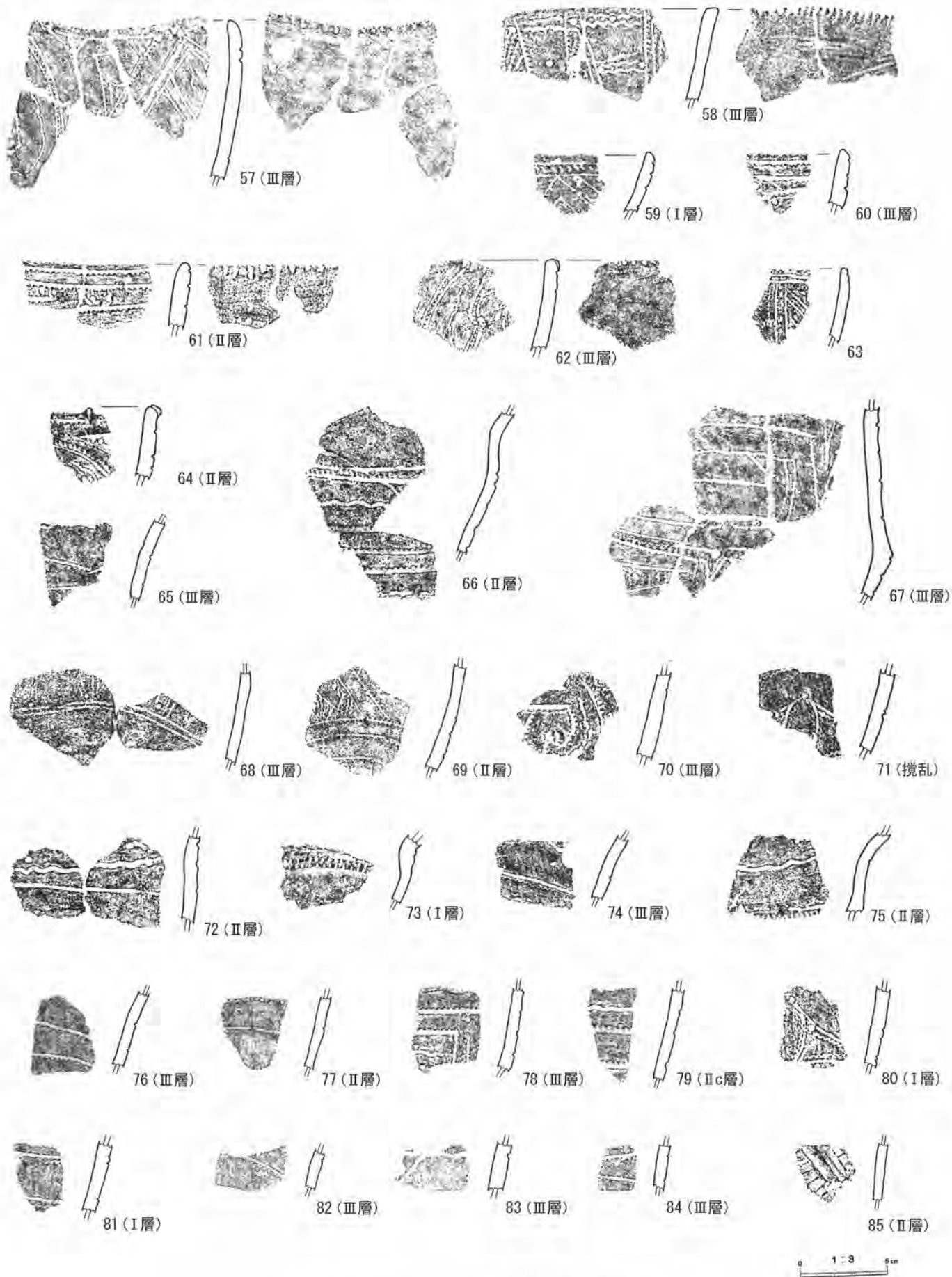
2～7は初頭の口縁部に連続した刺突文を施した一群である。2列の刺突文を2段、帯状に配し、その間に3列の刺突文を斜位に配している。2と3は補修孔が空けられている。8～56、484～500は無文土器の一群である。出土層位と内外面の色調、胎土、縮まりが近似している。胎土は白色粒子、径2～5mm大の礫、砂粒からなり、色調はにぶい褐色である。口唇部は角頭状、丸頭状、平坦で口縁部、胴部は外傾が多く、底部は尖底の他に底径の小さい平底も見られる。57～84は中葉の貝殻沈線文土器の一群である。口唇部は無文土器に見られる形状の他、外削ぎ（57）が見られる。胴部の器形は外傾が多いが、外反するものもあり（66）、途中でくの字に折れるものもある（67）。文様・装飾は貝殻腹縁文を多用し、口唇部端に貝殻腹縁文を巡らせるもの、小突起が付けられるもの（64）があり、体部は平行、波状、幾何学状の沈線文や刺突文、刻目文を施している。85～99は後葉の縄文条痕土器の一群である。85は細隆線文を施した条痕文土器と考えられる。86～98は横位の条痕を施す土器で内面に条痕が施されていないものである。99は外面に縄文を、内面に横位の条痕を施している。



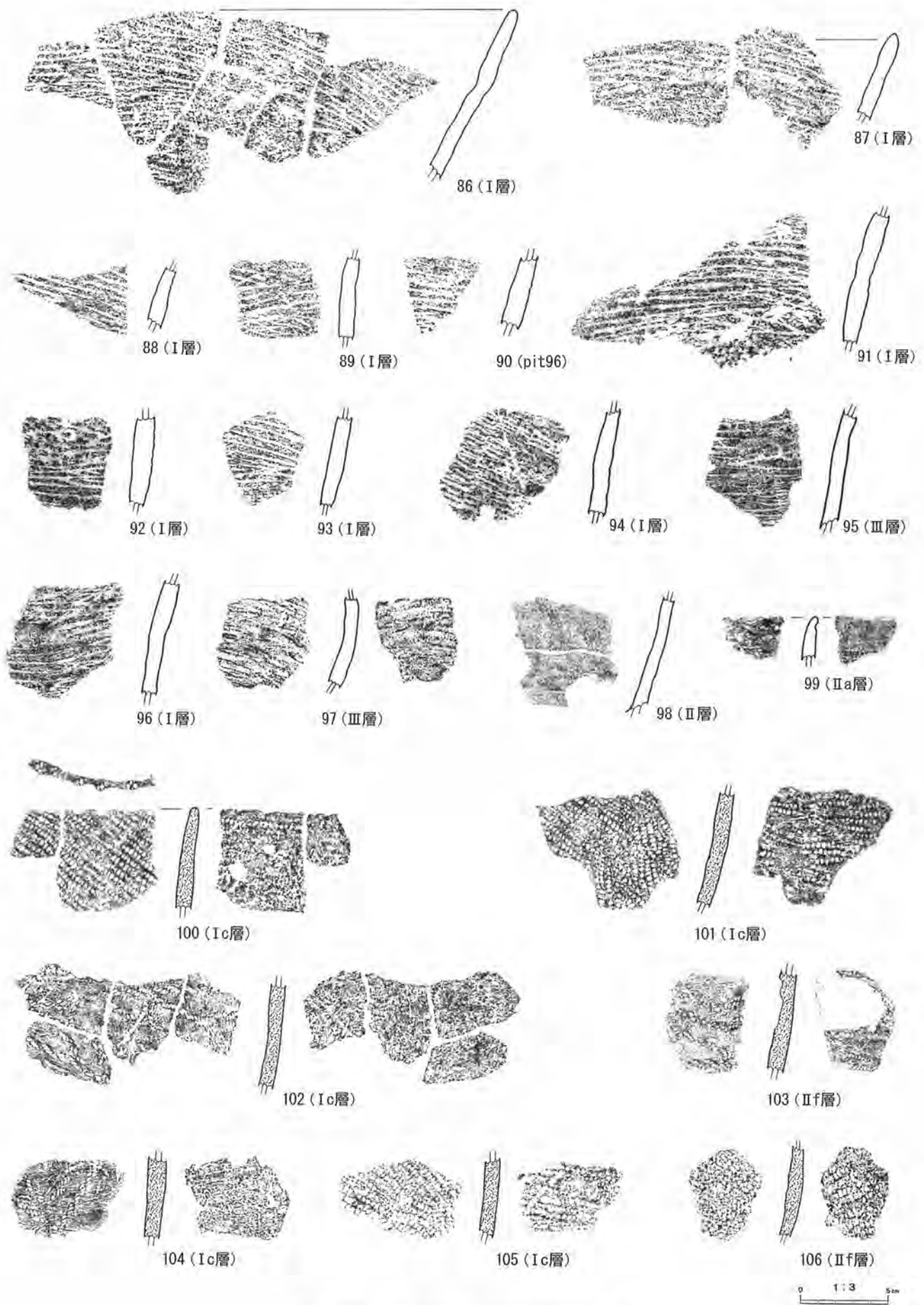
第 39 図 1 次調査区遺構外出土土器 (1)



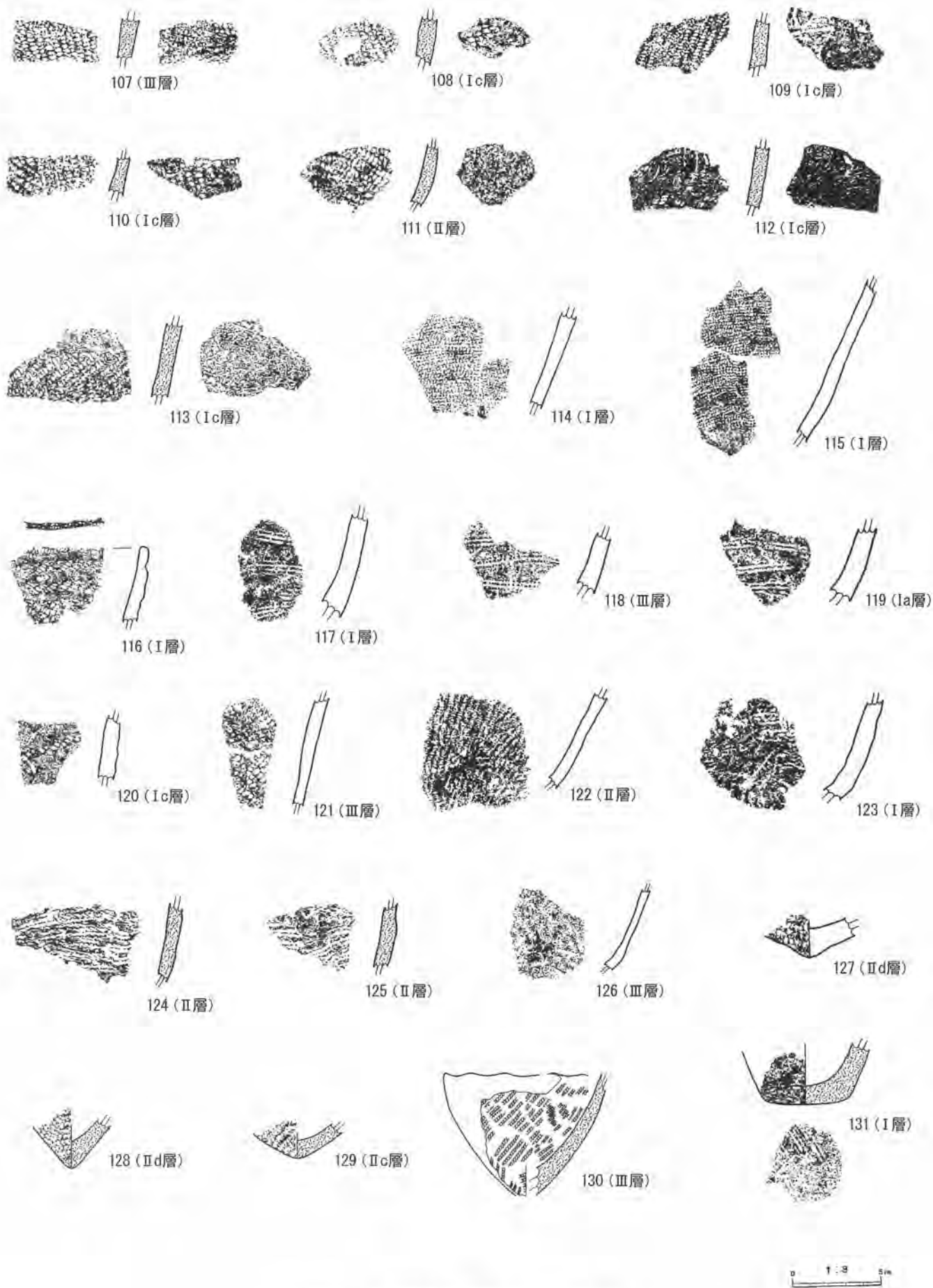
第40图 1次調査区遺構外出土土器(2)



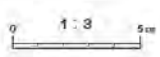
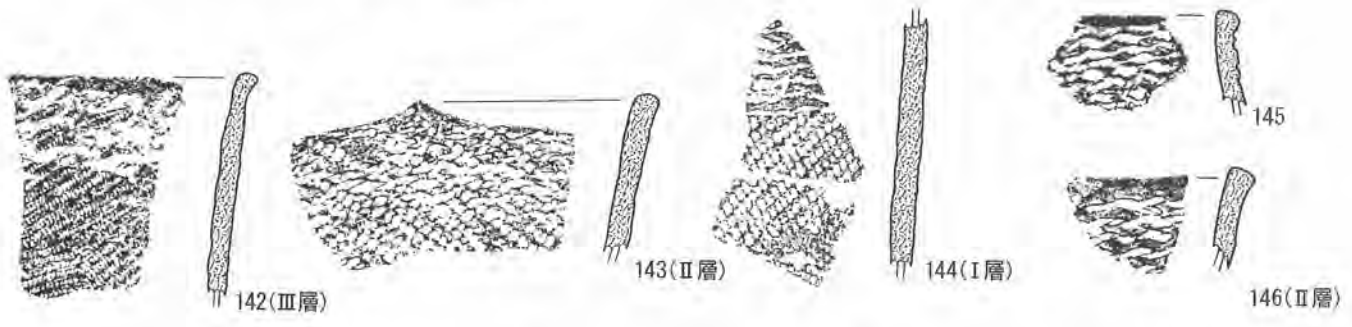
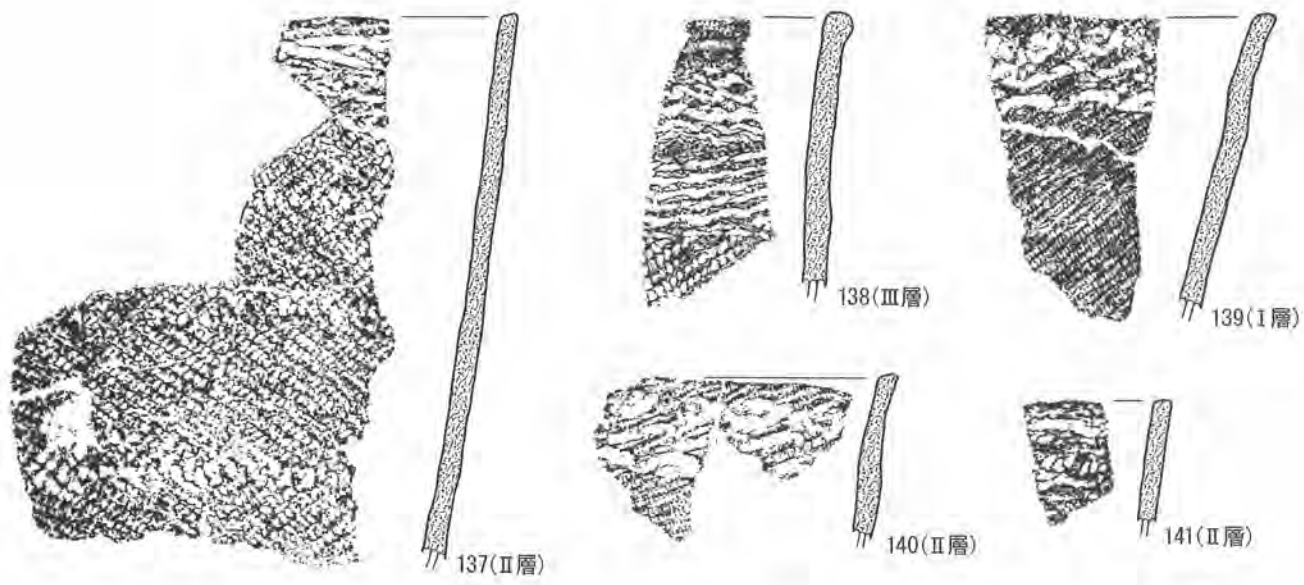
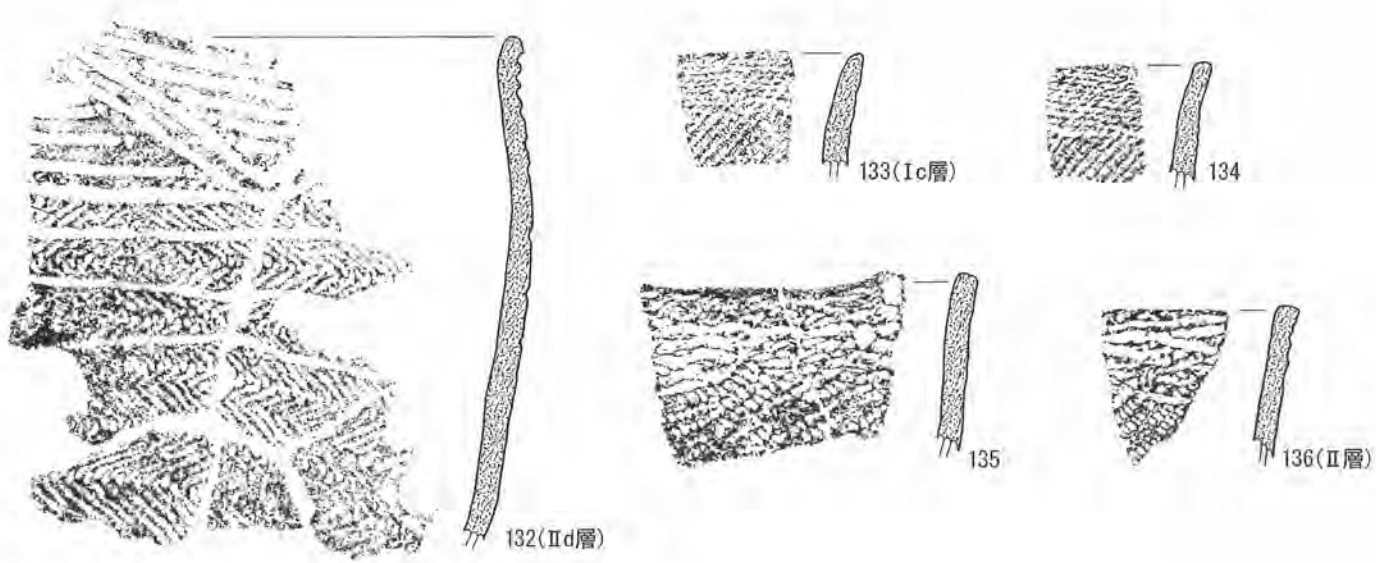
第 41 図 1 次調査区遺構外出土土器 (3)



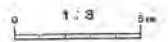
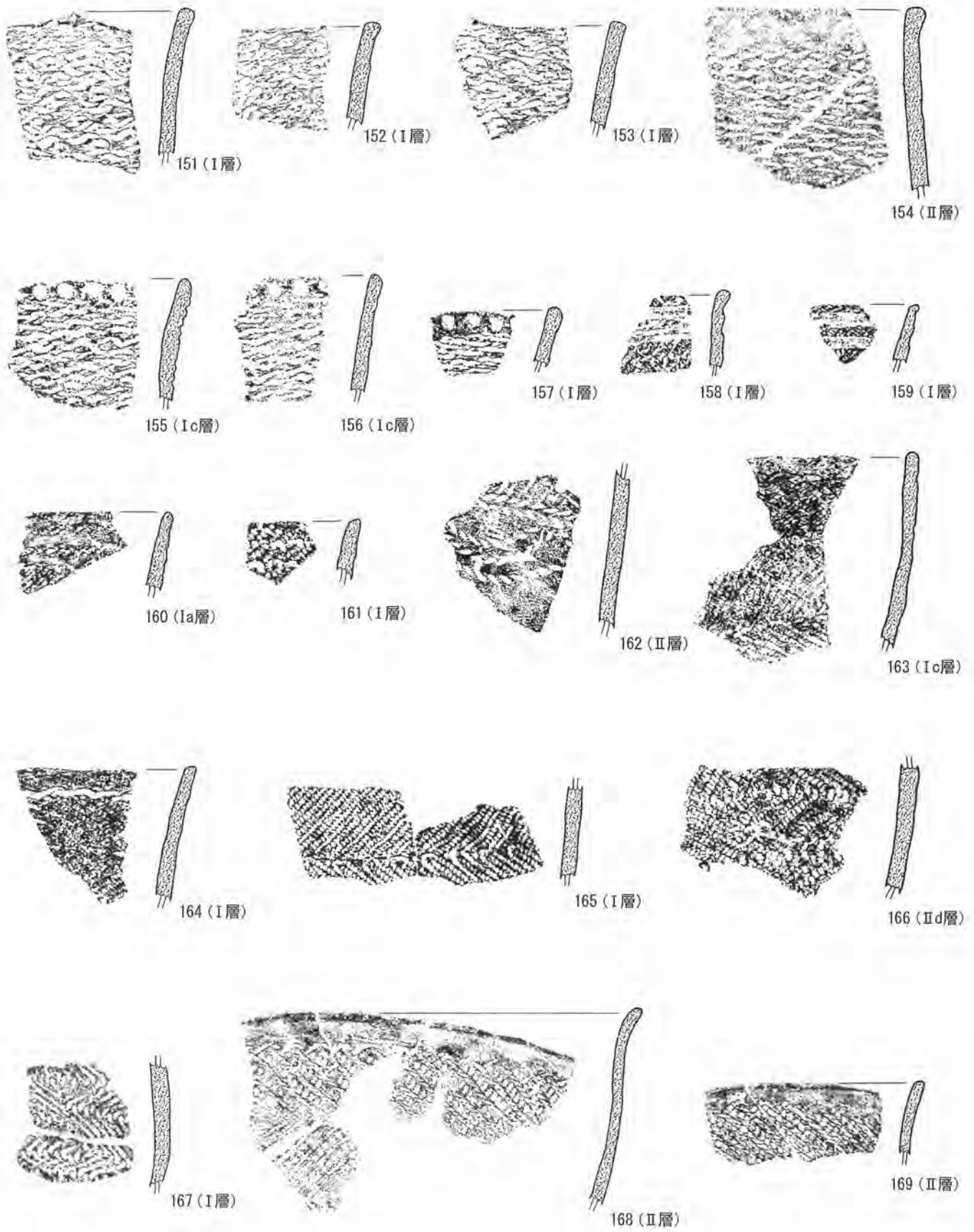
第 42 図 1 次調査区遺構外出土土器 (4)



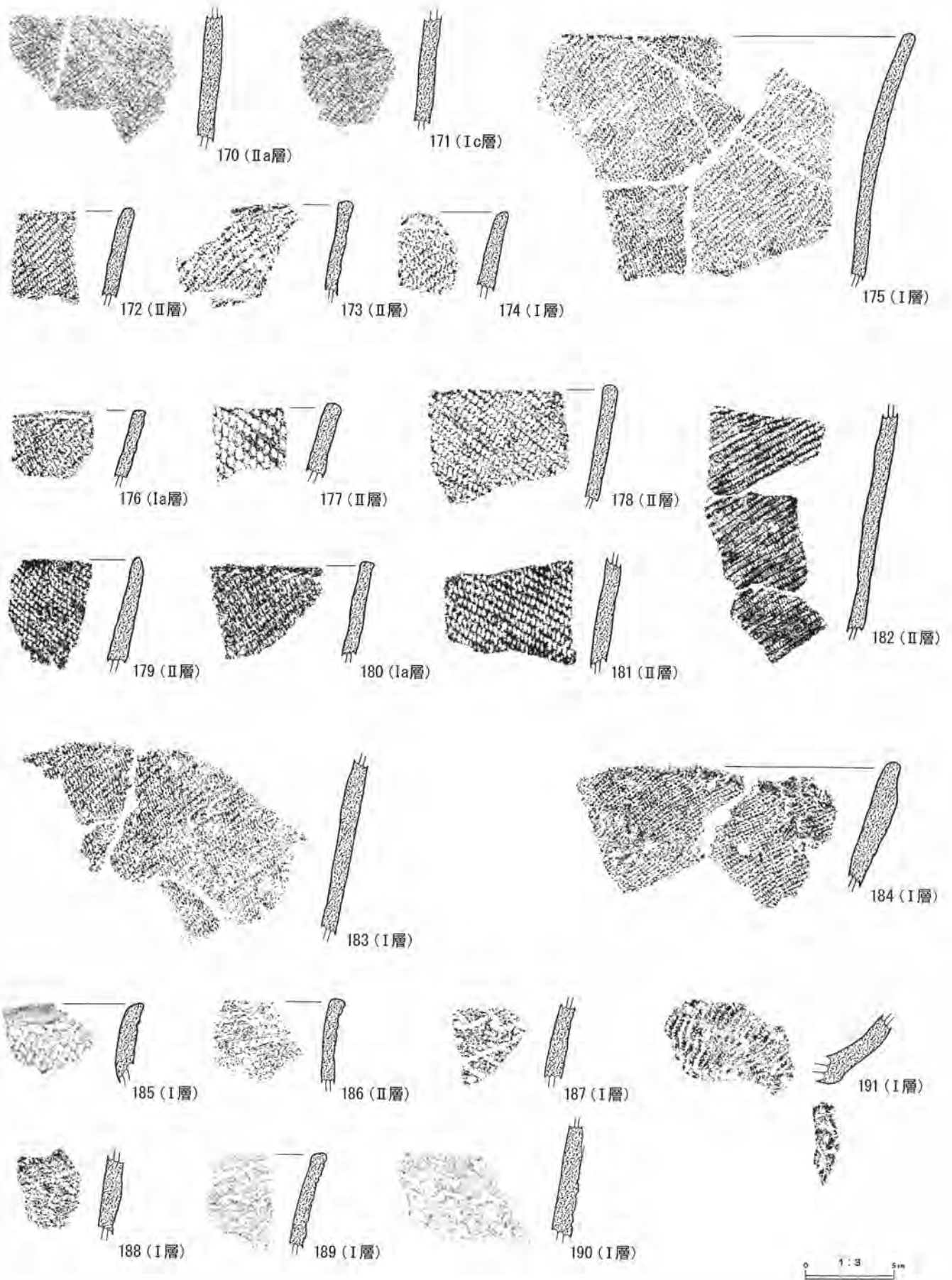
第 43 図 1 次調査区遺構外出土土器 (5)



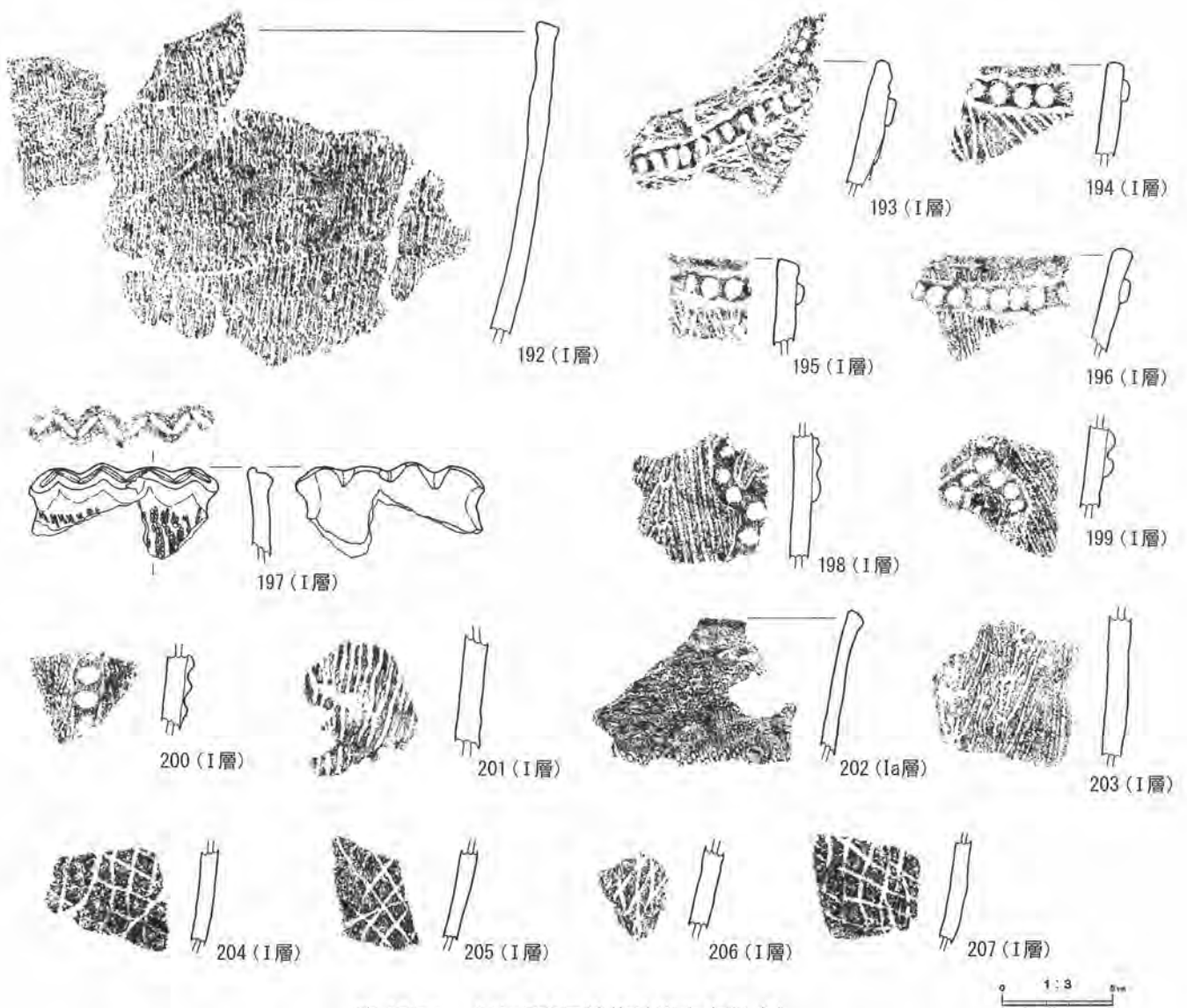
第44図 1次調査区遺構外出土土器(6)



第 45 図 1 次調査区遺構外出土土器 (7)



第46図 1次調査区遺構外出土土器(8)

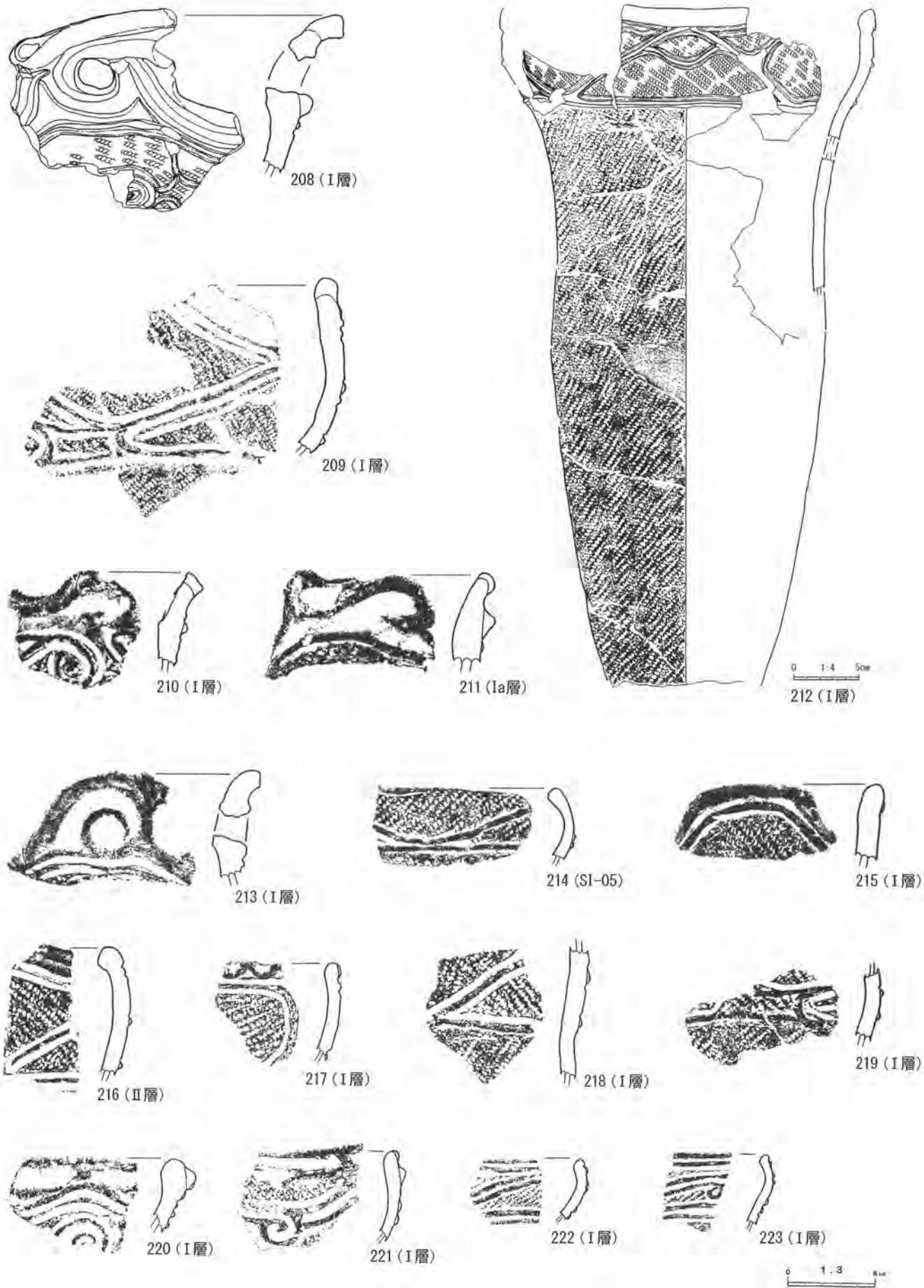


第 47 図 1 次調査区遺構外出土器 (9)

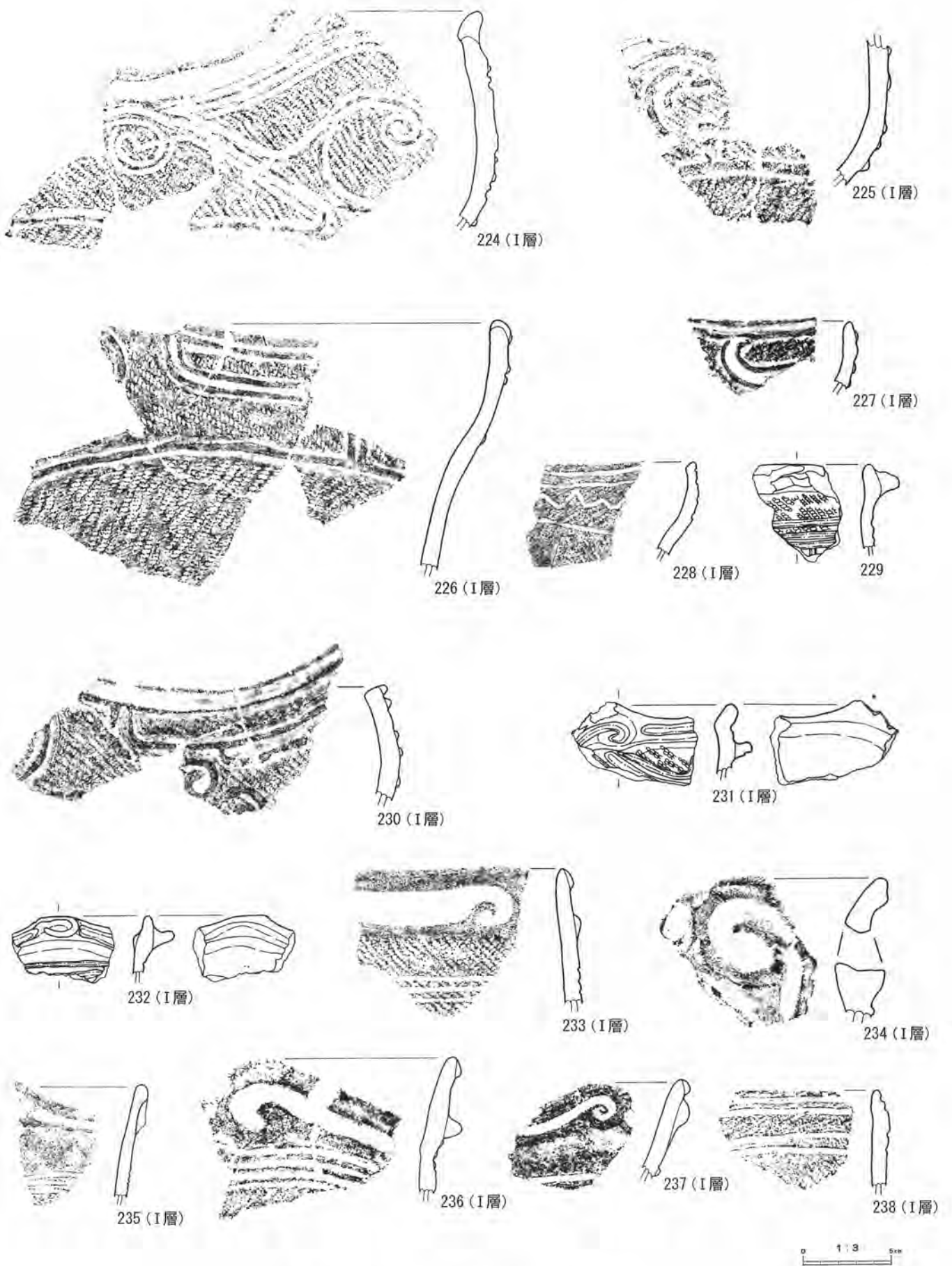
100～113は末葉の表裏縄文土器の一群である。100は口唇部にも縄文を施している。114～131は時期が不明で、横走る縄文、原体圧痕文、条痕文、単節縄文、擦痕、尖底の底部からなる。底部については後続する前期初頭もしくは前葉の可能性も含んでいる。

前期 (132～207、501～516)

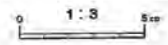
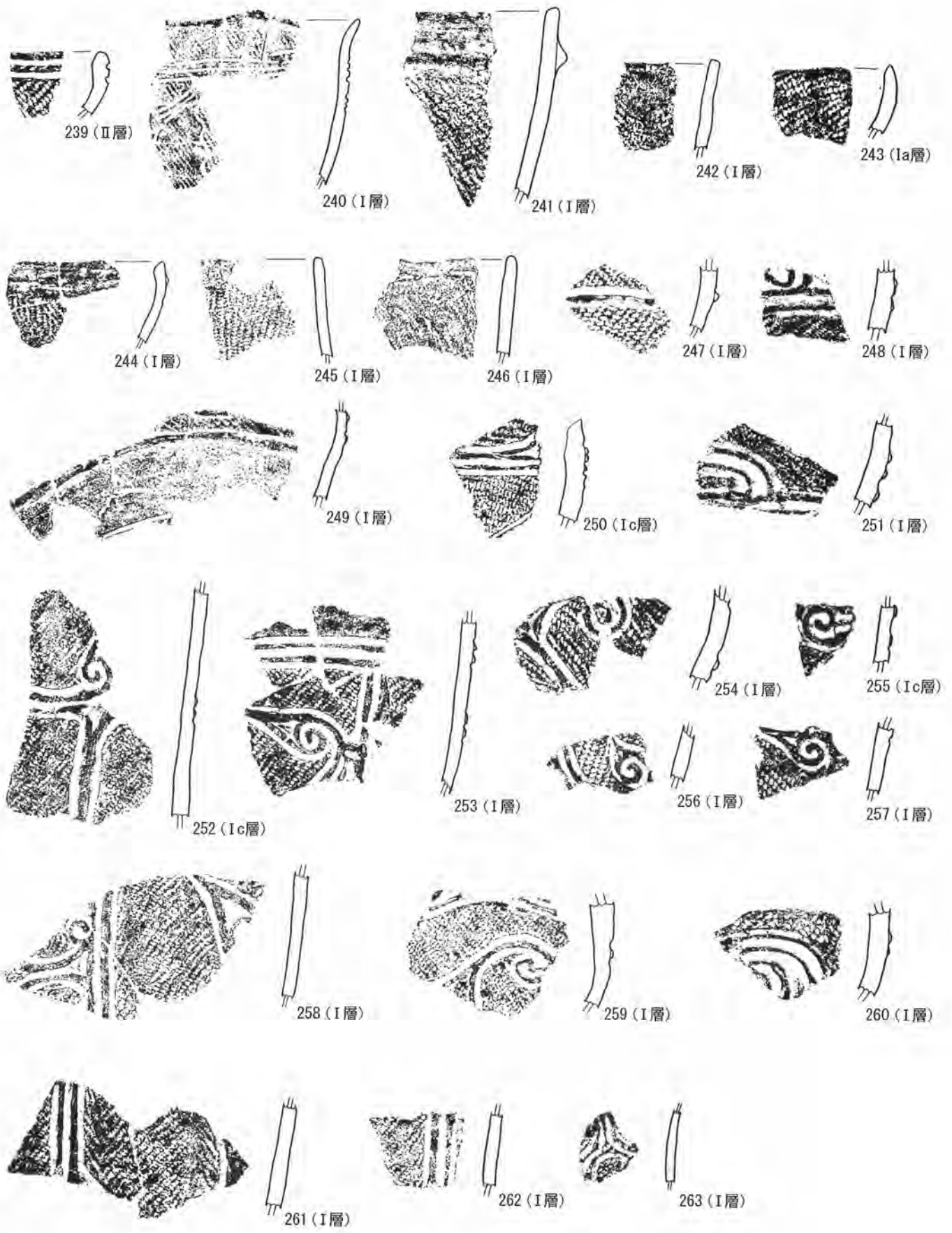
132～186は胎土に繊維を含む初頭の上川名Ⅱ式、千鷲Ⅱ式、前葉の大木1式から大木2b式までの一群である。131は口縁部に文様帯を有し、胴部以下は多段化した羽状縄文を施している。口縁部は平行の沈線を横位と斜位に施し、横位の沈線の端には円形の刺突を施している。132、133は口縁部に撚糸文を横位に施している。134～155は口縁部に不整撚糸文を施している。端部に円形の刺突を連続させるものも含まれる。156、157は口縁部に2列の押し引き文を施している。158、159は原体圧痕を施している。160～184は縄文、撚糸文を施したもので、末端環付(ループ)縄文、斜縄文、羽状縄文、付加条縄文、前々段合撚、縄を交差させた撚糸文、間隔の空いた2条の撚糸文と多種多様である。185、186は底部の破片で、186は底径の小さい底部で、内面と底面に擦痕が観察される。192～207は胎土に繊維を含まないもので、193～201は同一個体である。192は縦位の撚糸文(葺状撚糸文)を施すもの、193～201は地文に縦位の撚糸文を施し口縁部に円形の突起を持つもので、いずれも大木5式の土器である。202～207は結節縄文、木目状撚糸文、網目状撚糸文を施すものである。



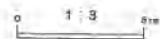
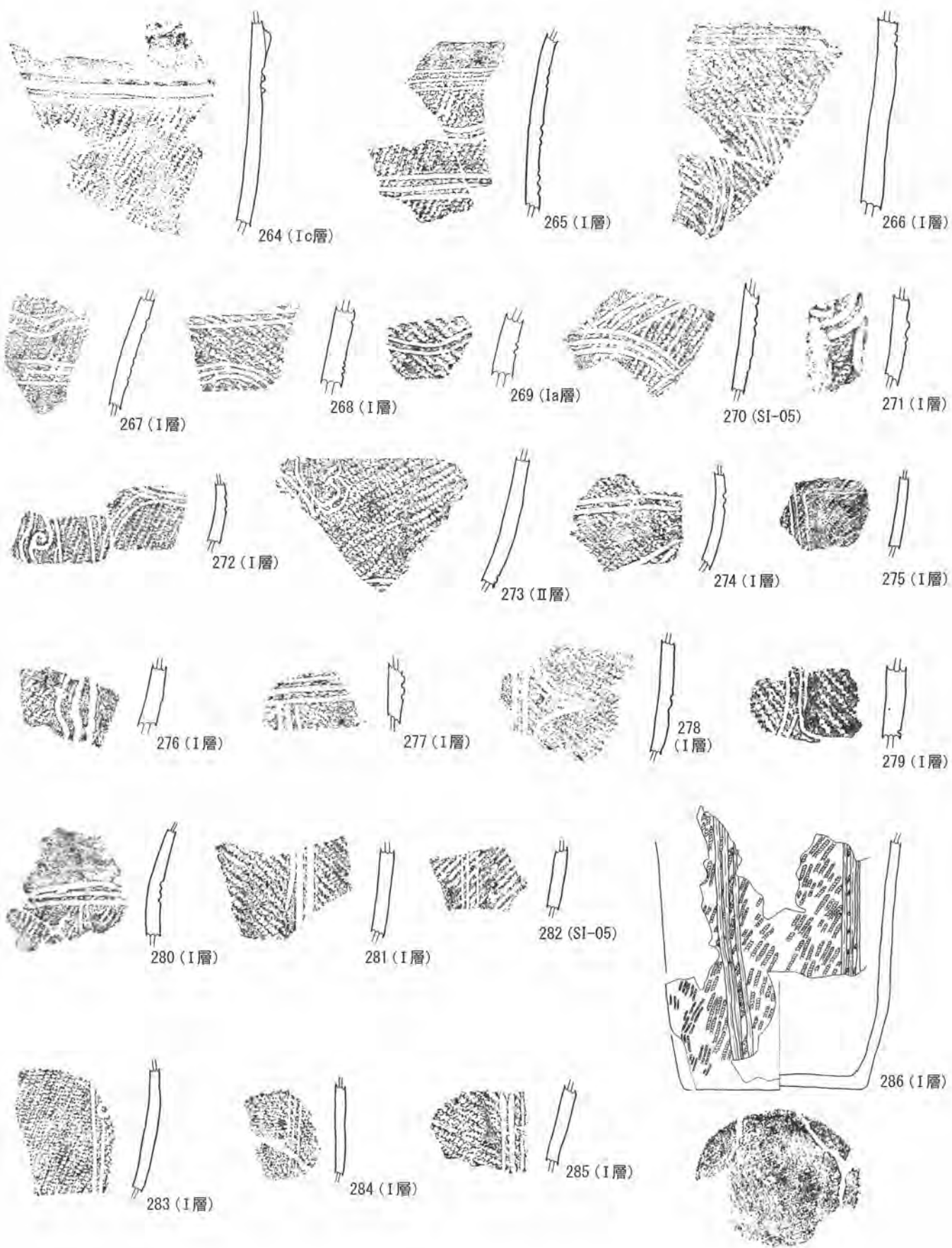
第 48 図 1 次調査区遺構外出土土器 (10)



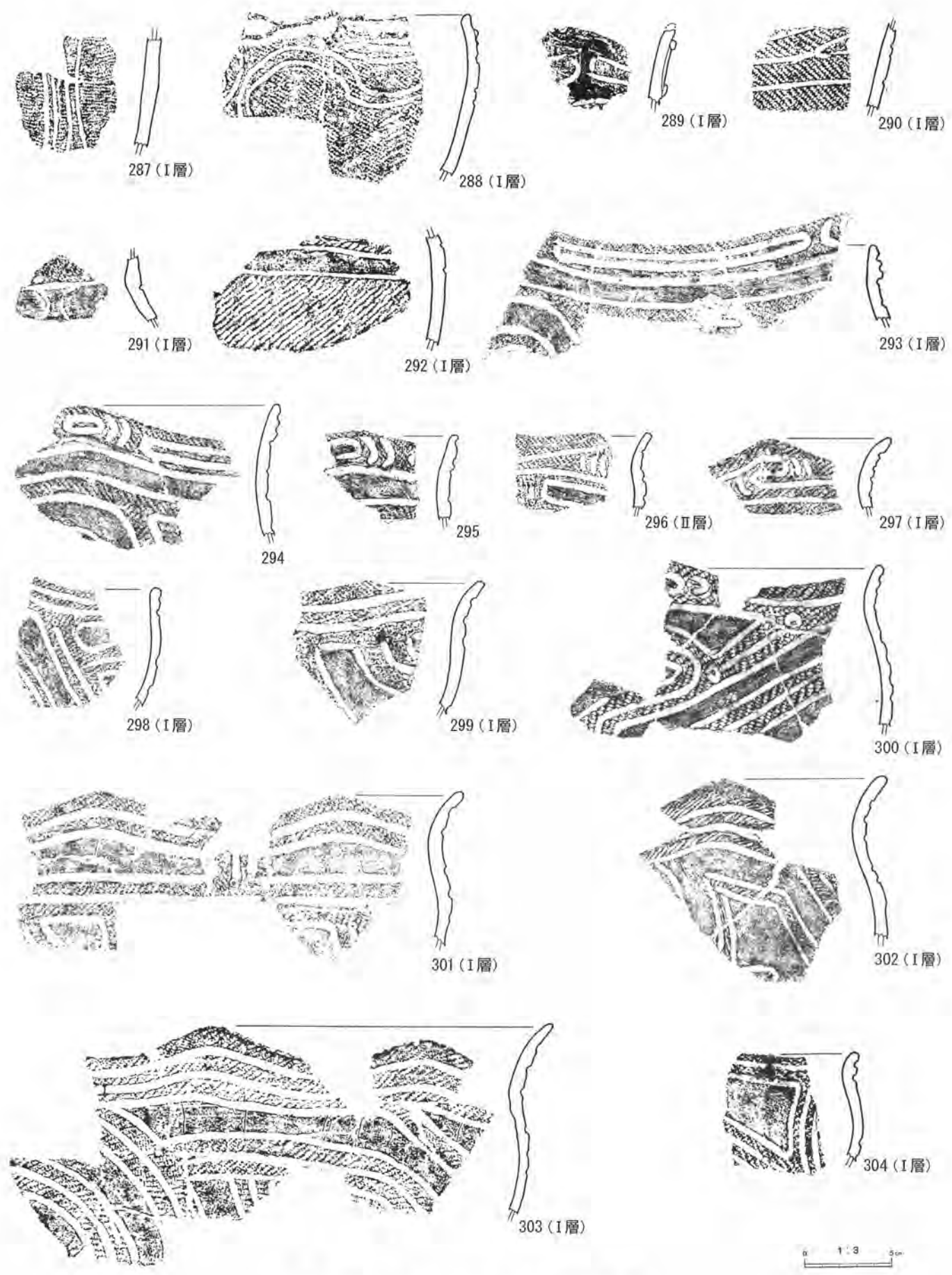
第 49 図 1 次調査区遺構外出土土器 (1)



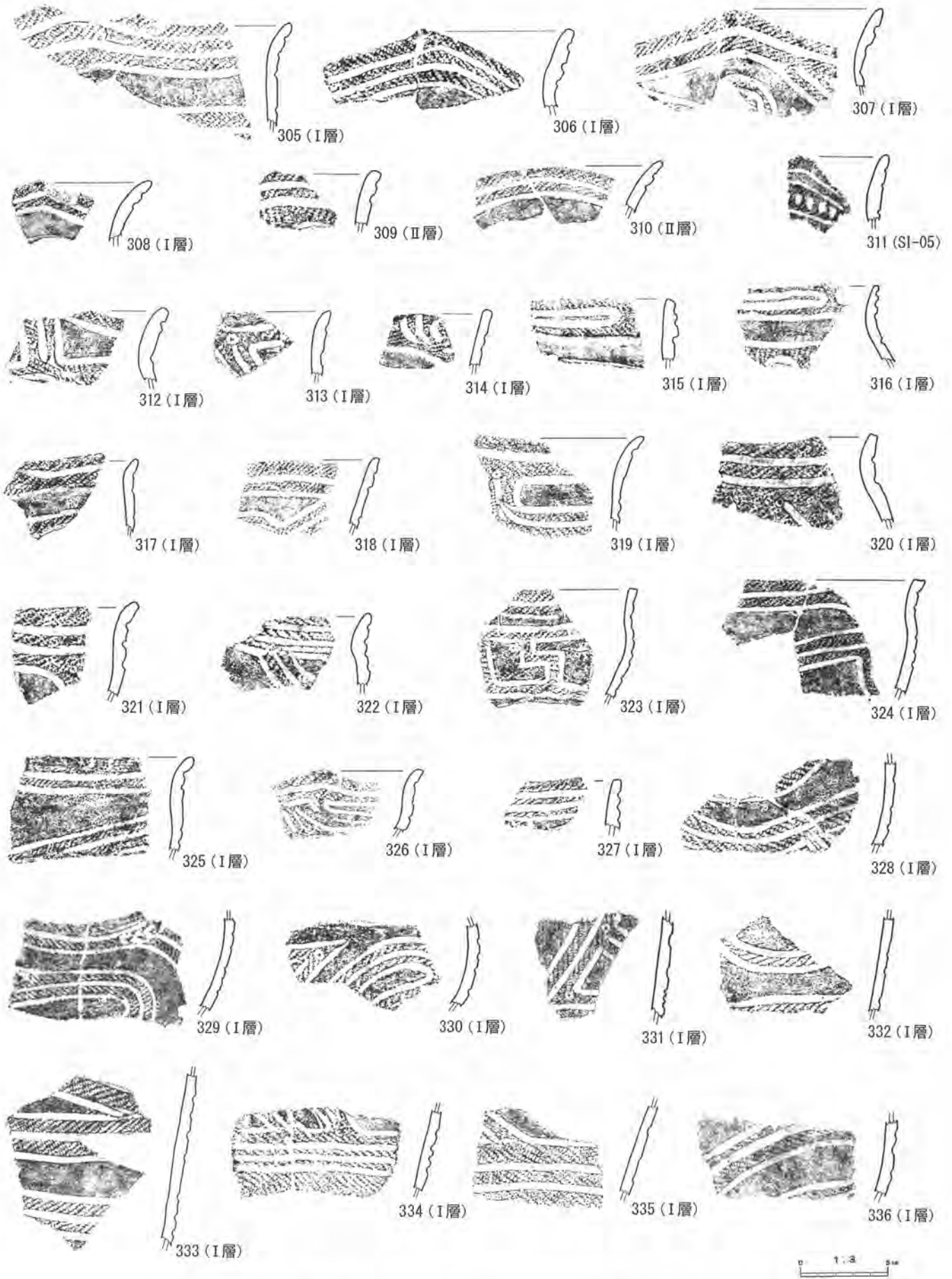
第 50 図 1 次調査区遺構外出土土器 (12)



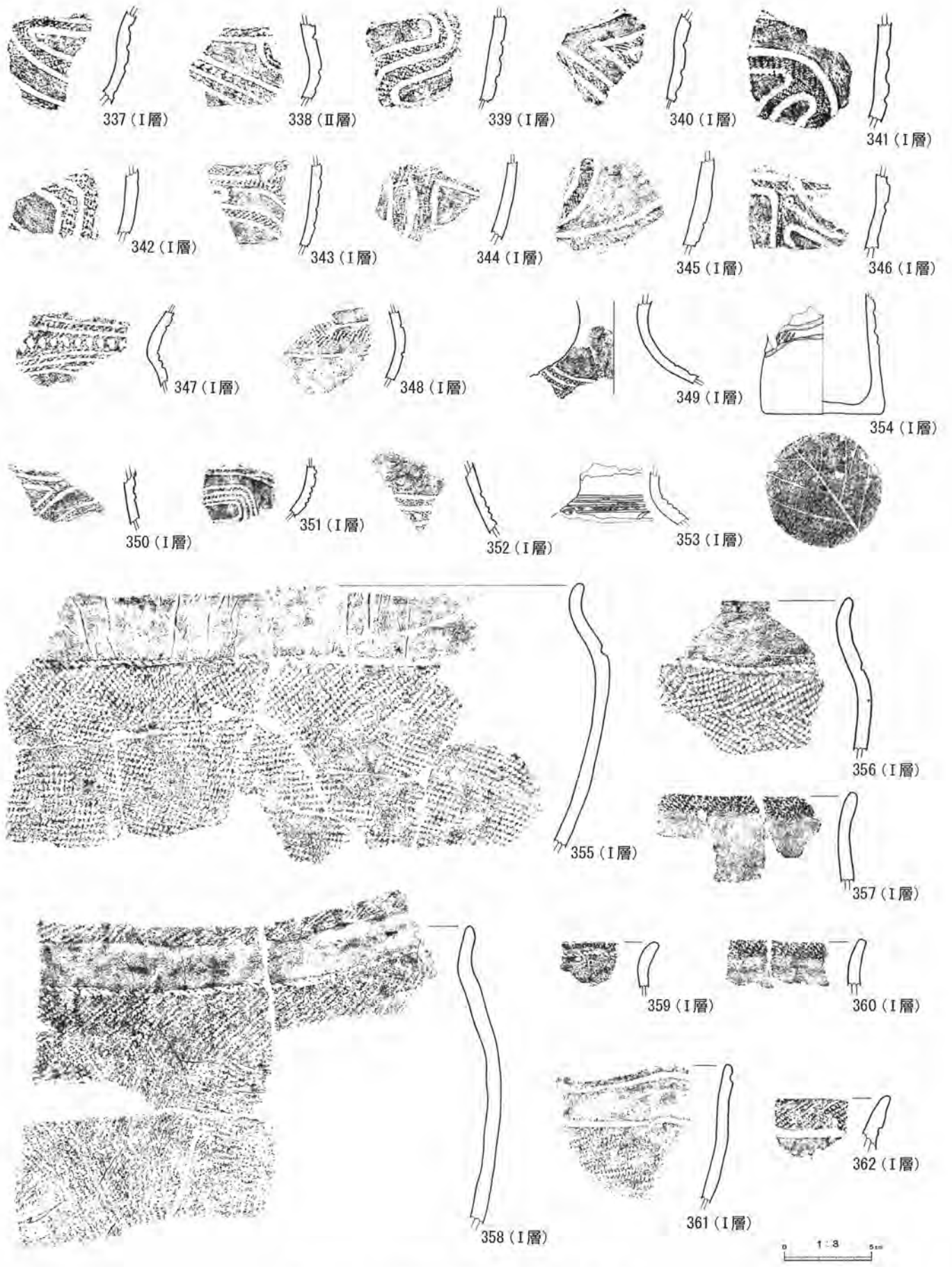
第 51 図 1 次調査区遺構外出土土器 (13)



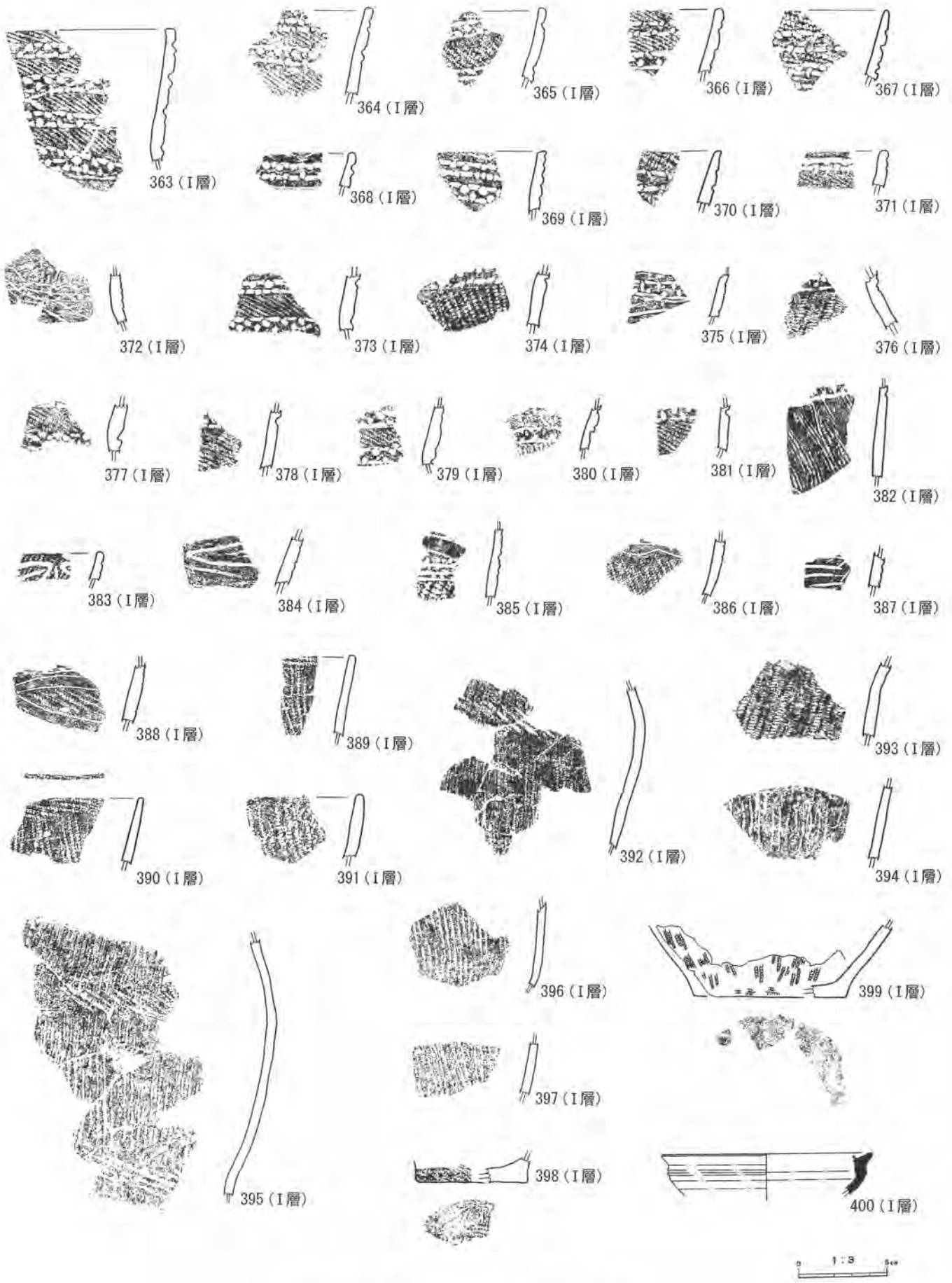
第 52 図 1 次調査区遺構外出土土器 (14)



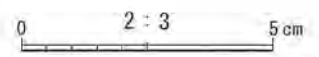
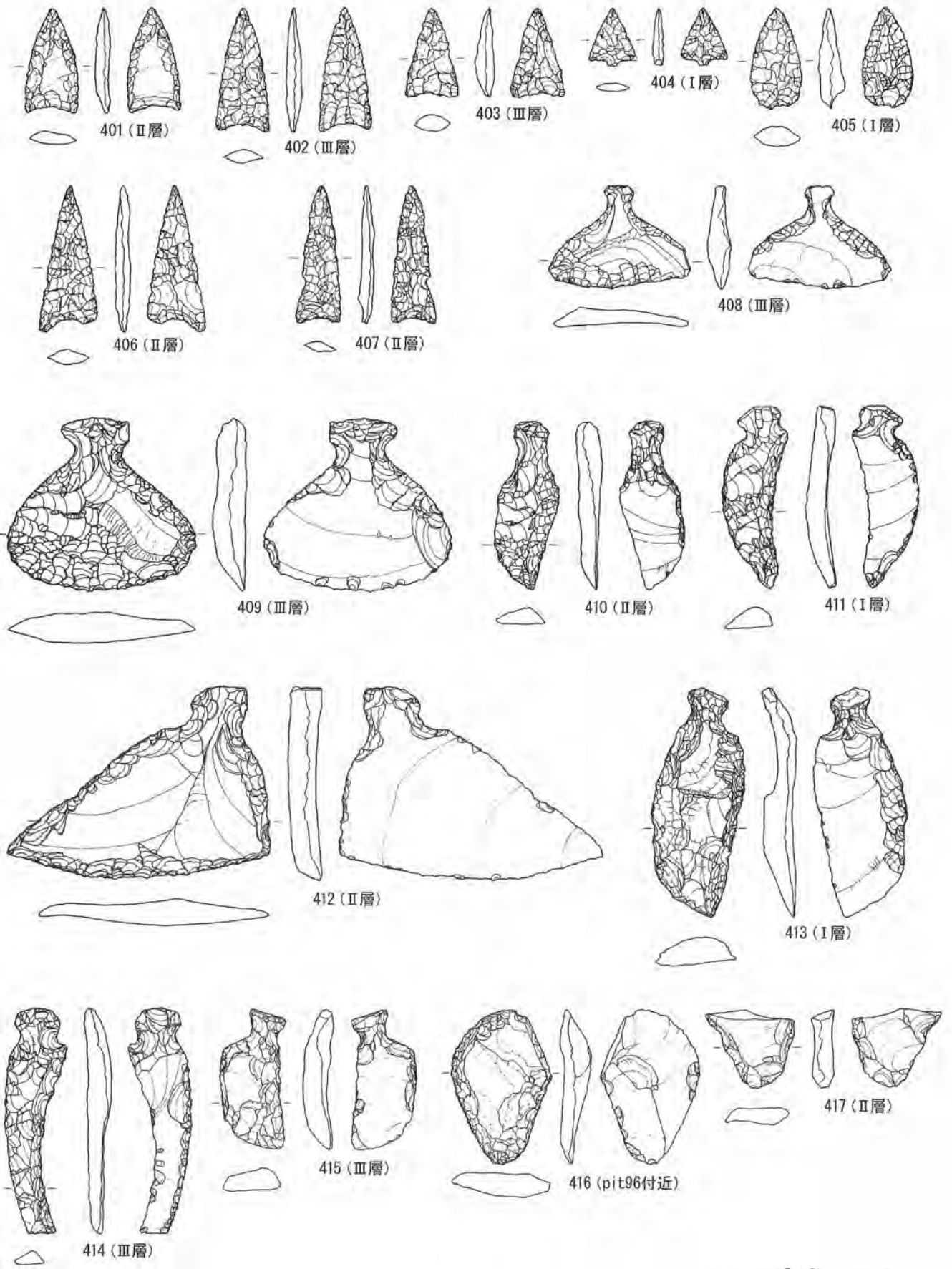
第 53 図 1 次調査区遺構外出土土器 (15)



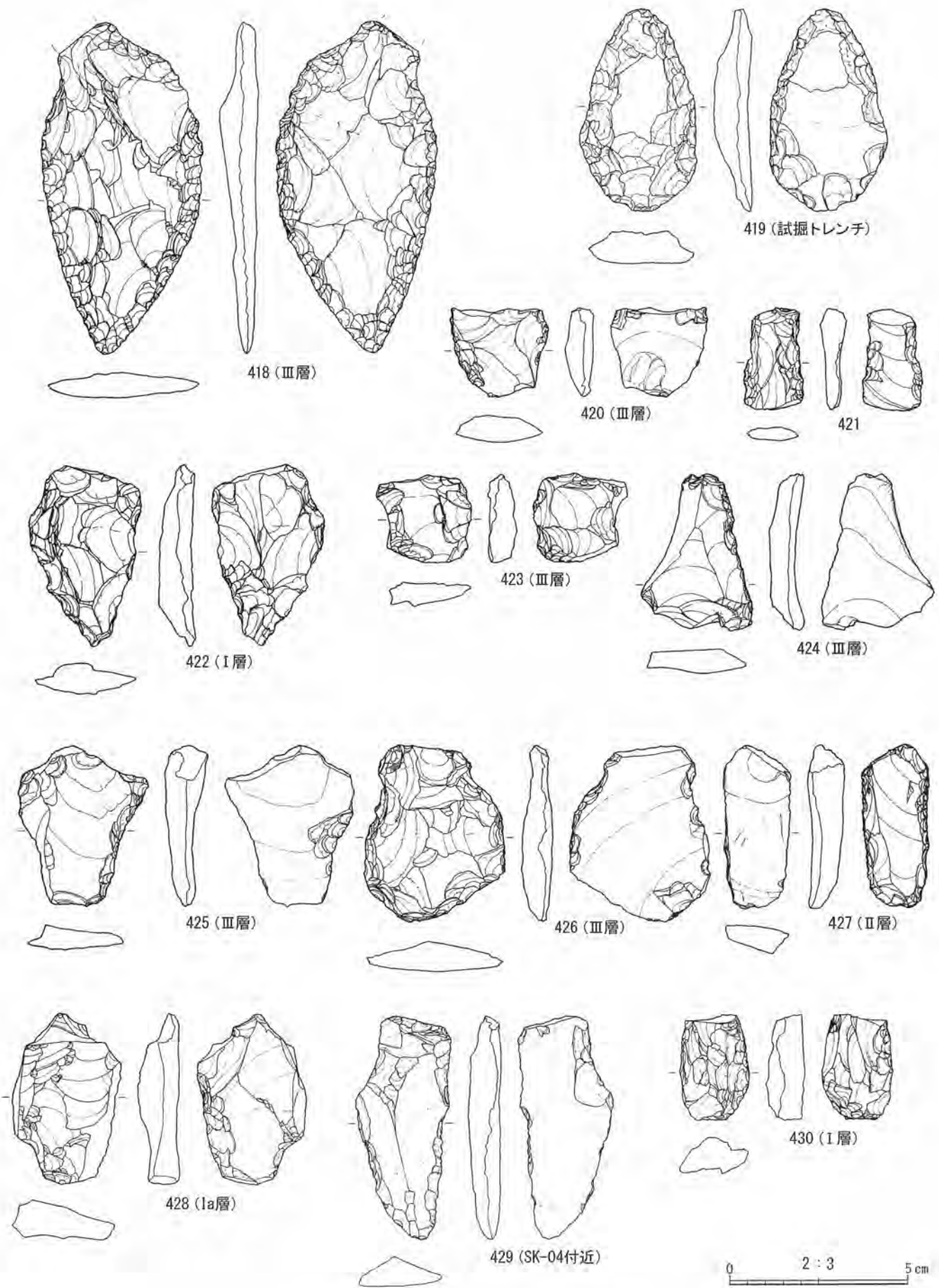
第54図 1次調査区遺構外出土土器(16)



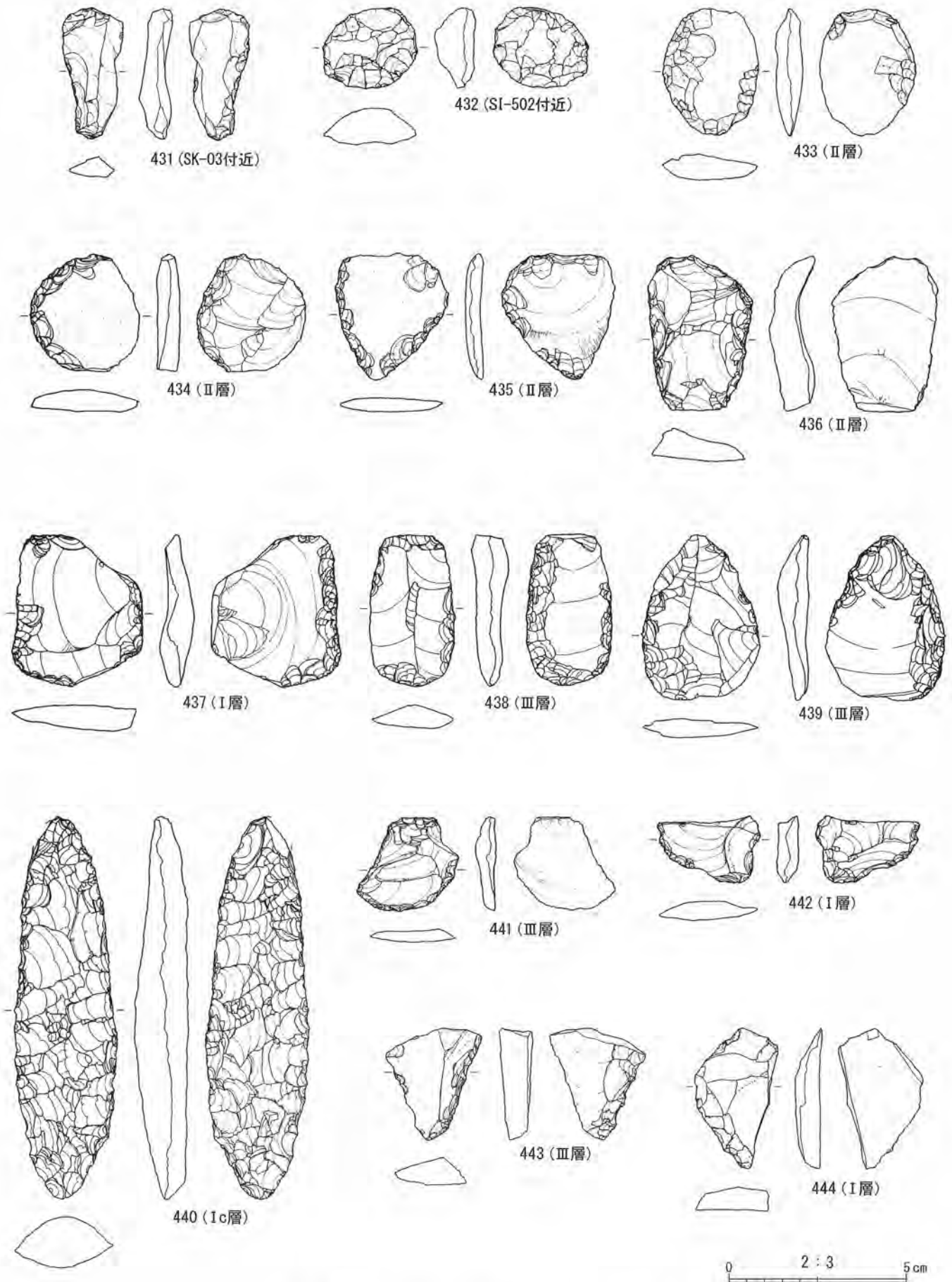
第 55 図 1 次調査区遺構外出土土器 (17)



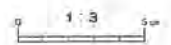
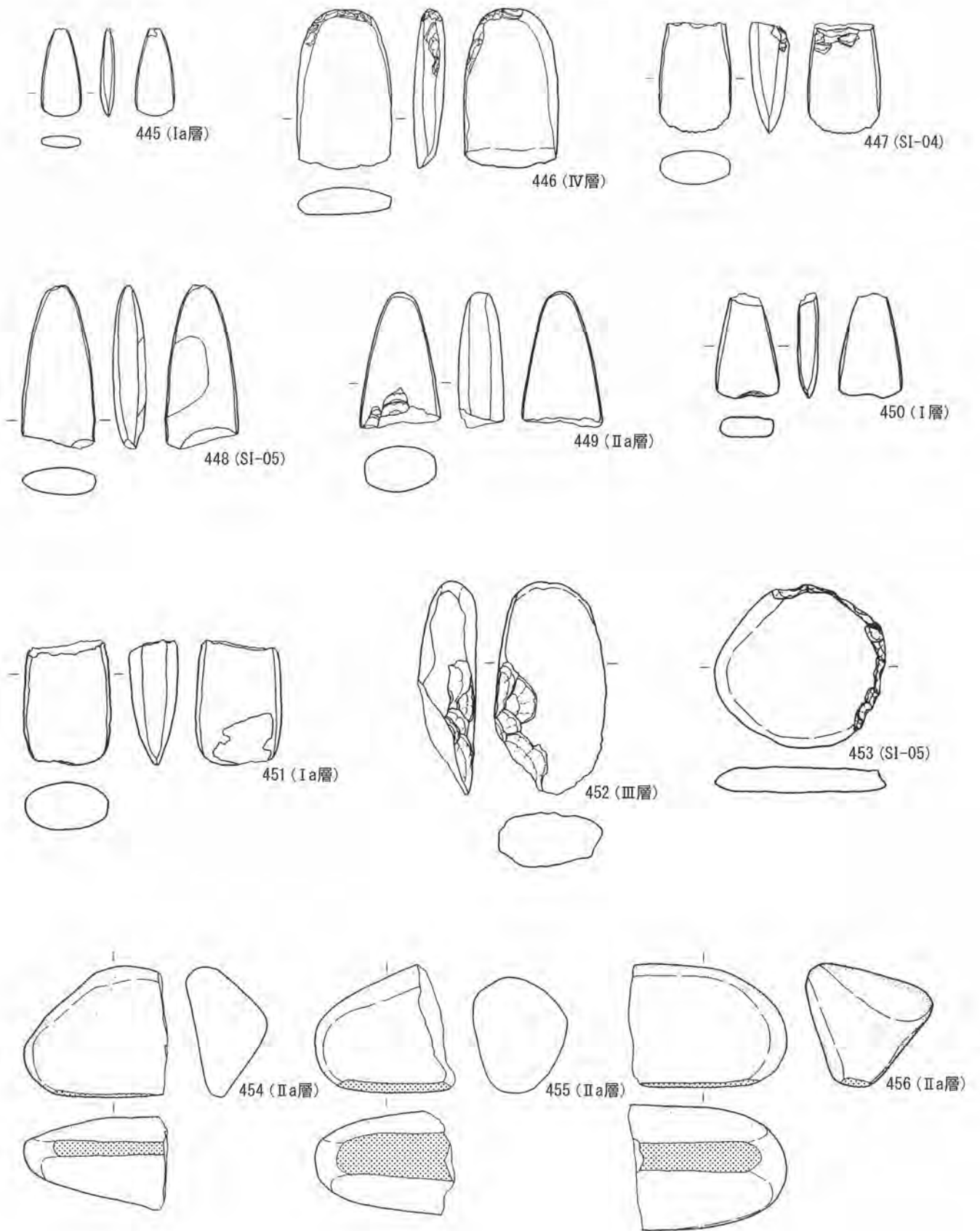
第 56 図 1 次調査区遺構外出土石器 (1)



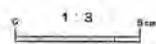
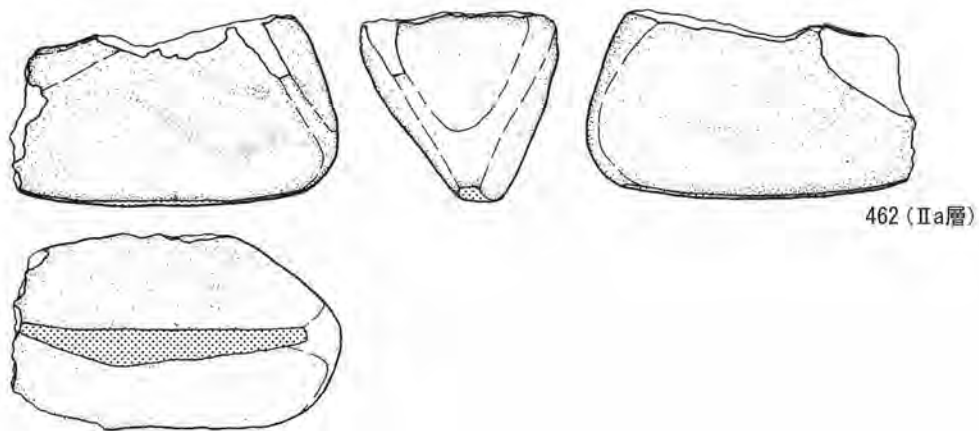
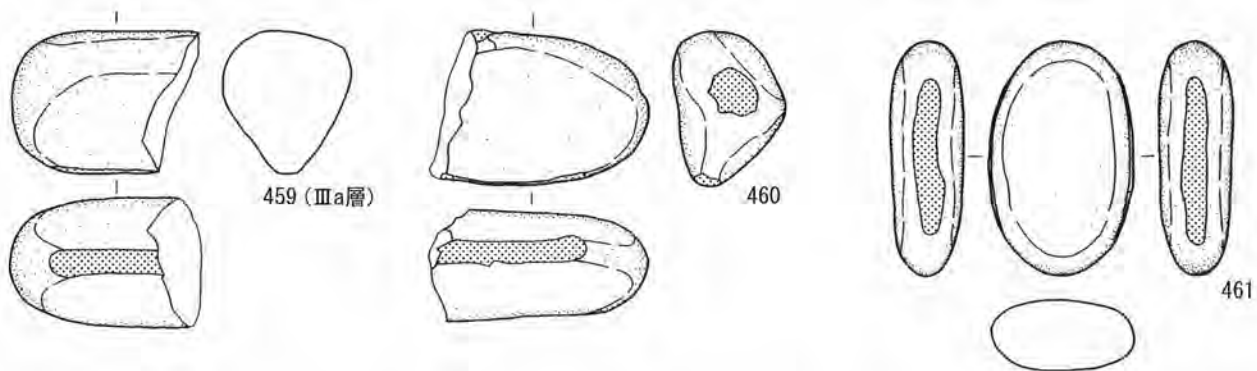
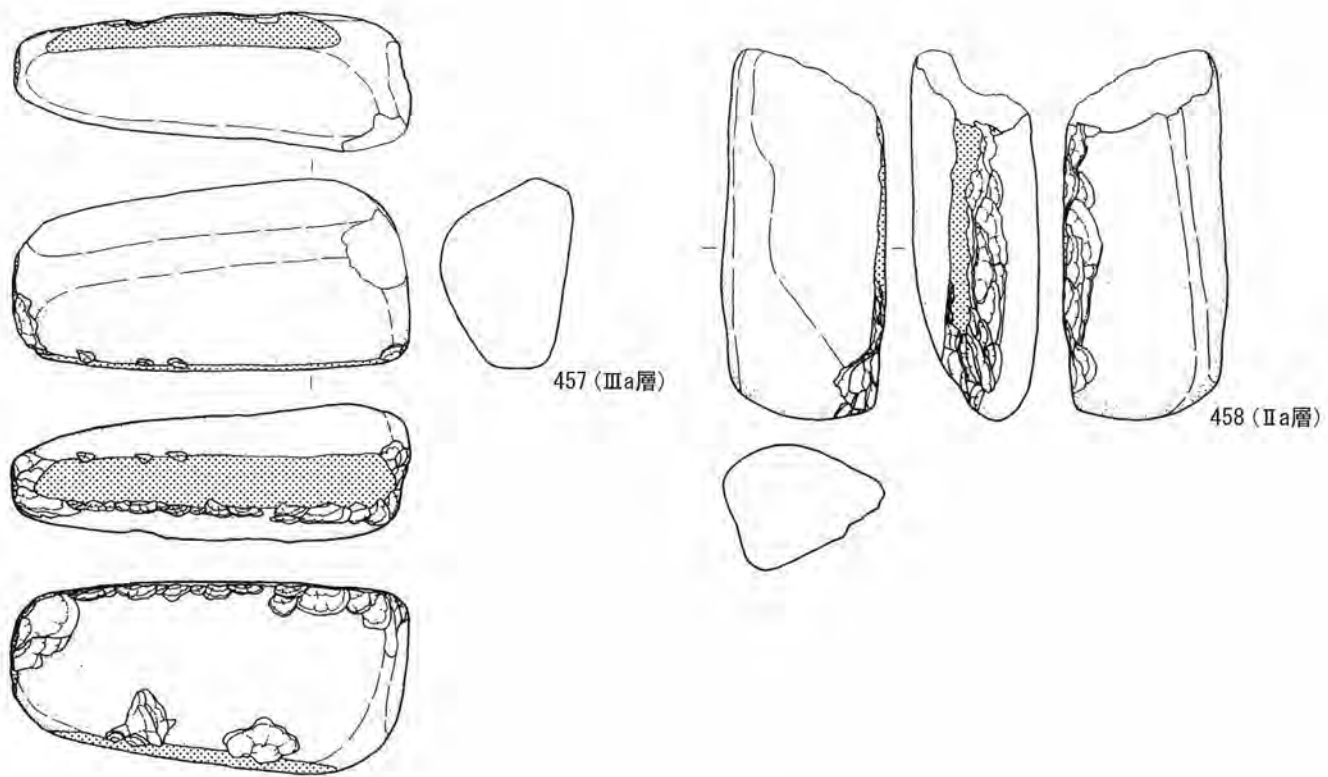
第 57 図 1 次調査区遺構外出土石器 (2)



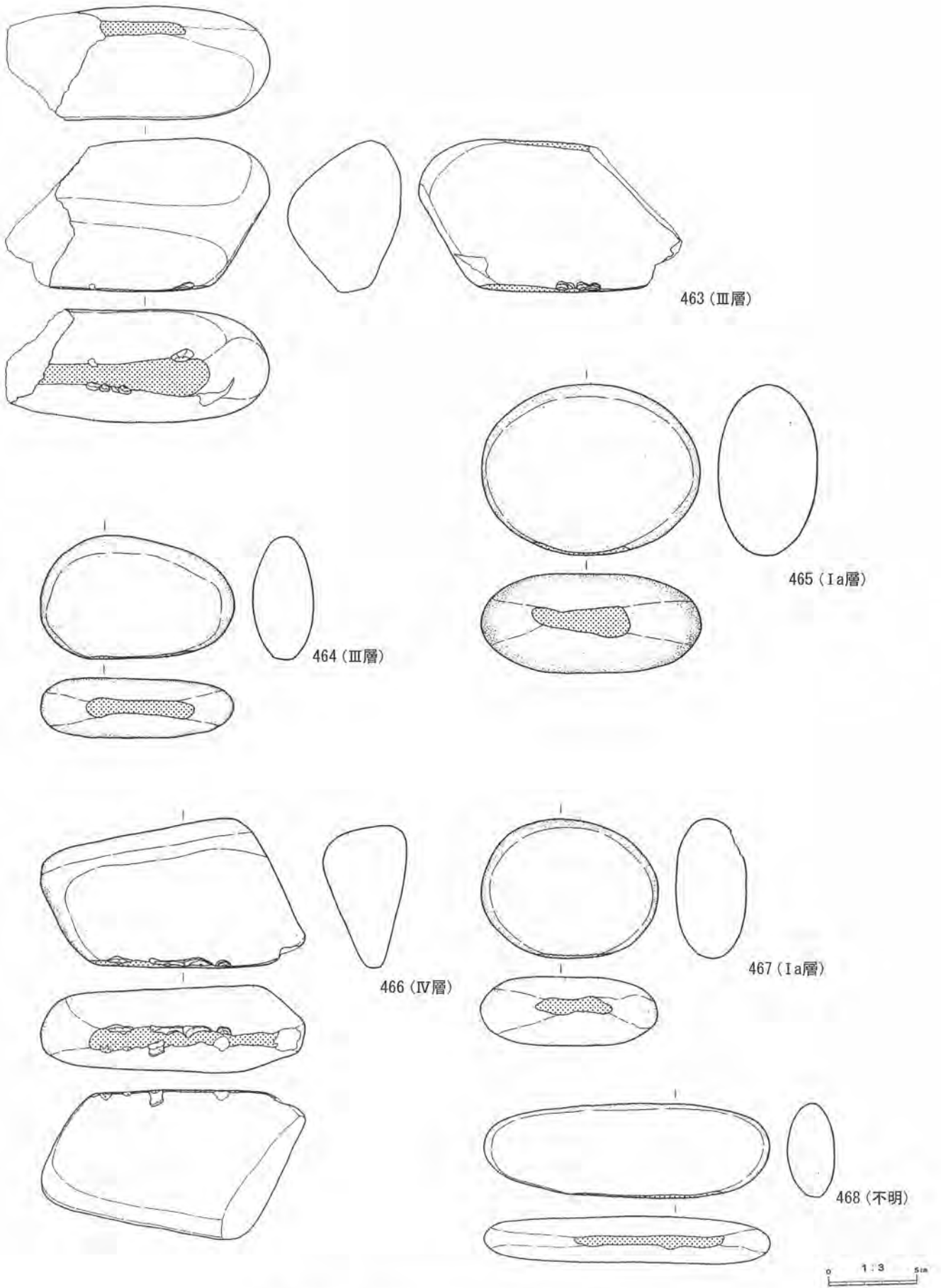
第 58 図 1 次調査区遺構外出土石器 (3)



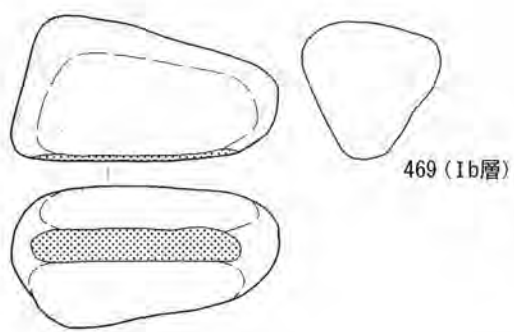
第59図 1次調査区遺構外出土石器(4)



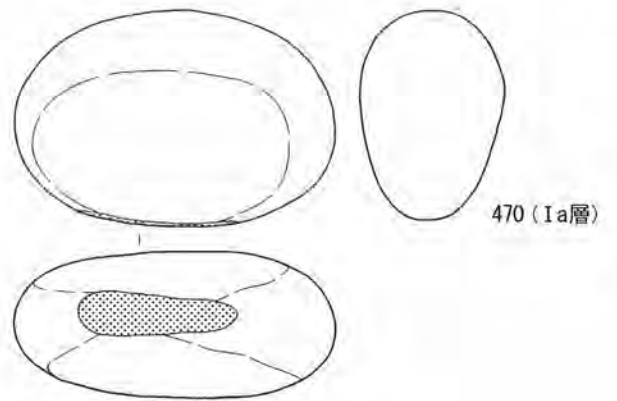
第 60 図 1 次調査区遺構外出土石器 (5)



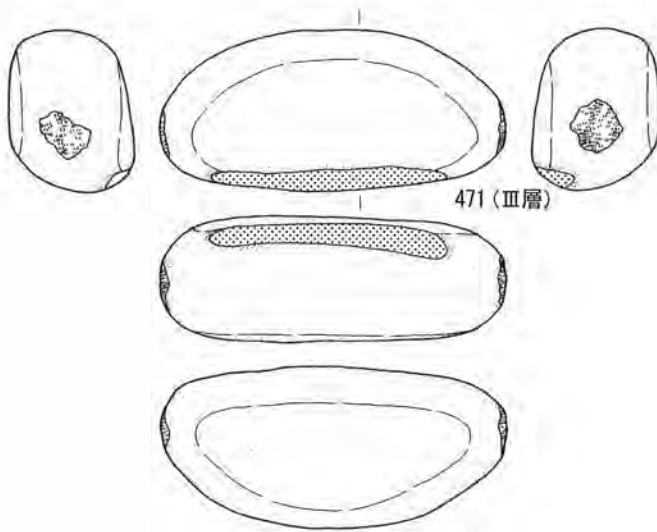
第 61 図 1 次調査区遺構外出土石器 (6)



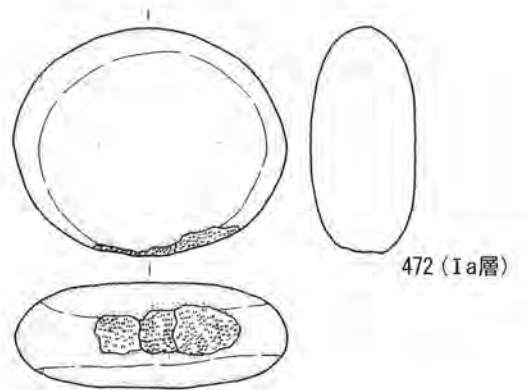
469 (Ib層)



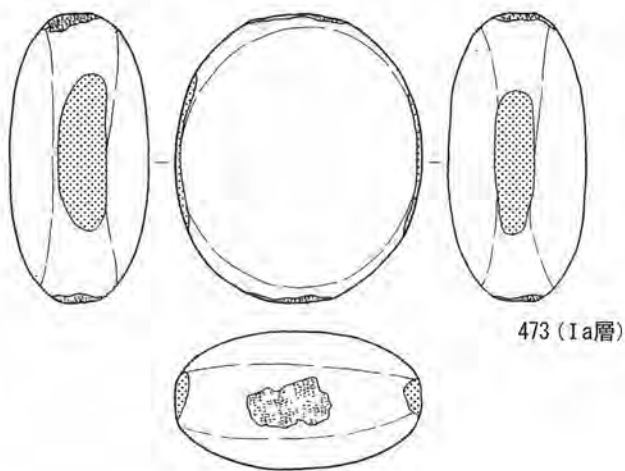
470 (Ia層)



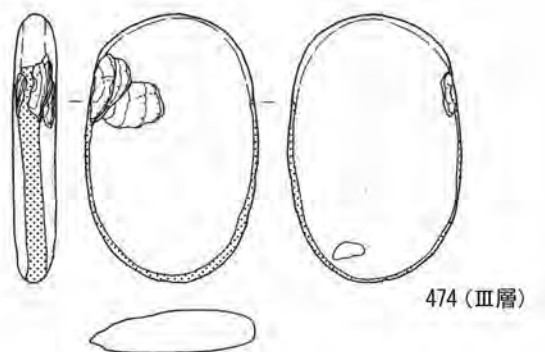
471 (III層)



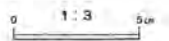
472 (Ia層)



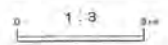
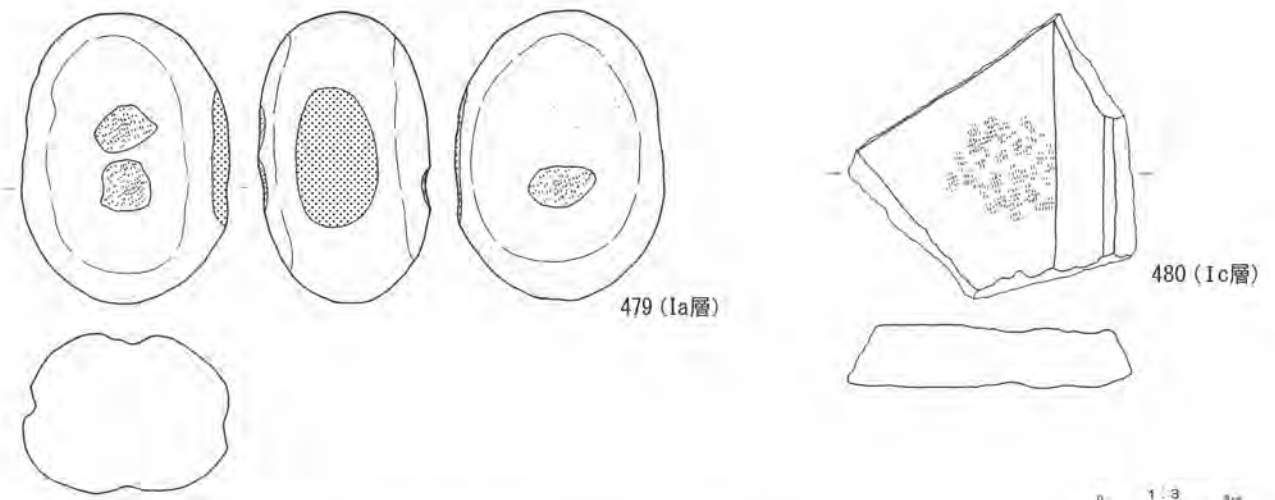
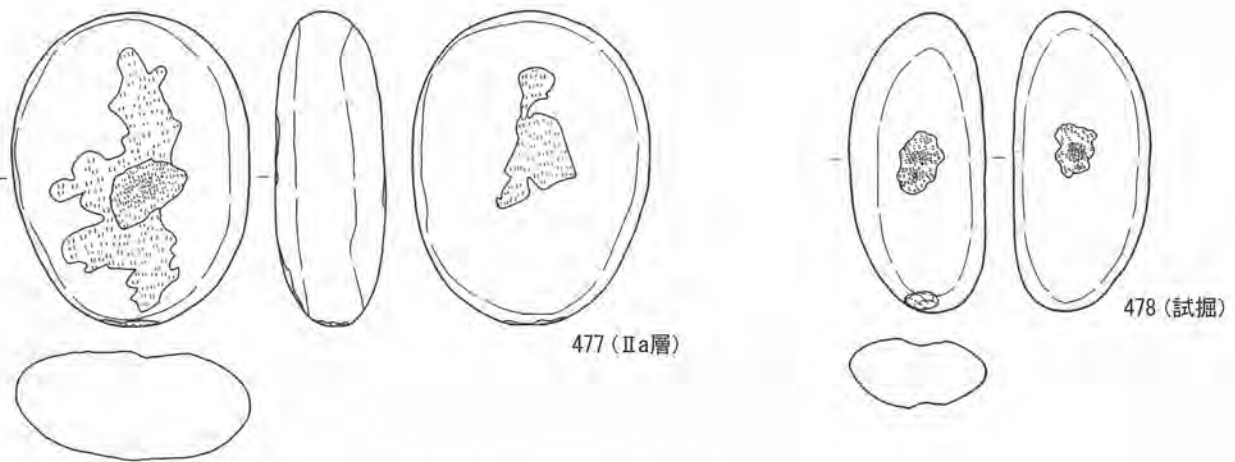
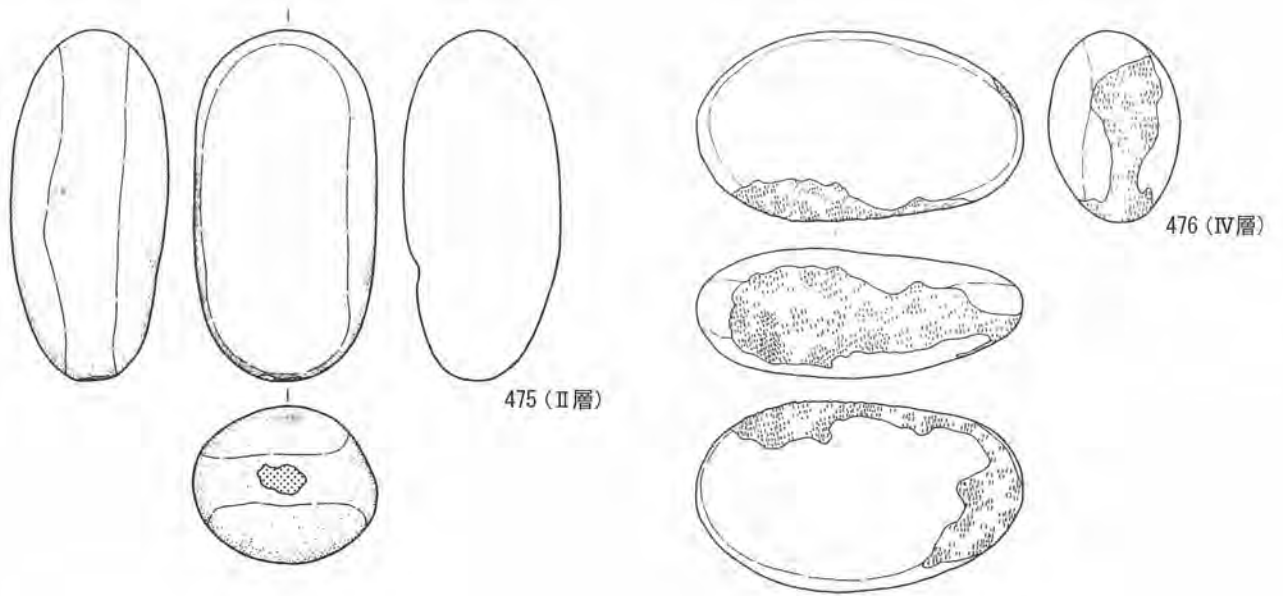
473 (Ia層)



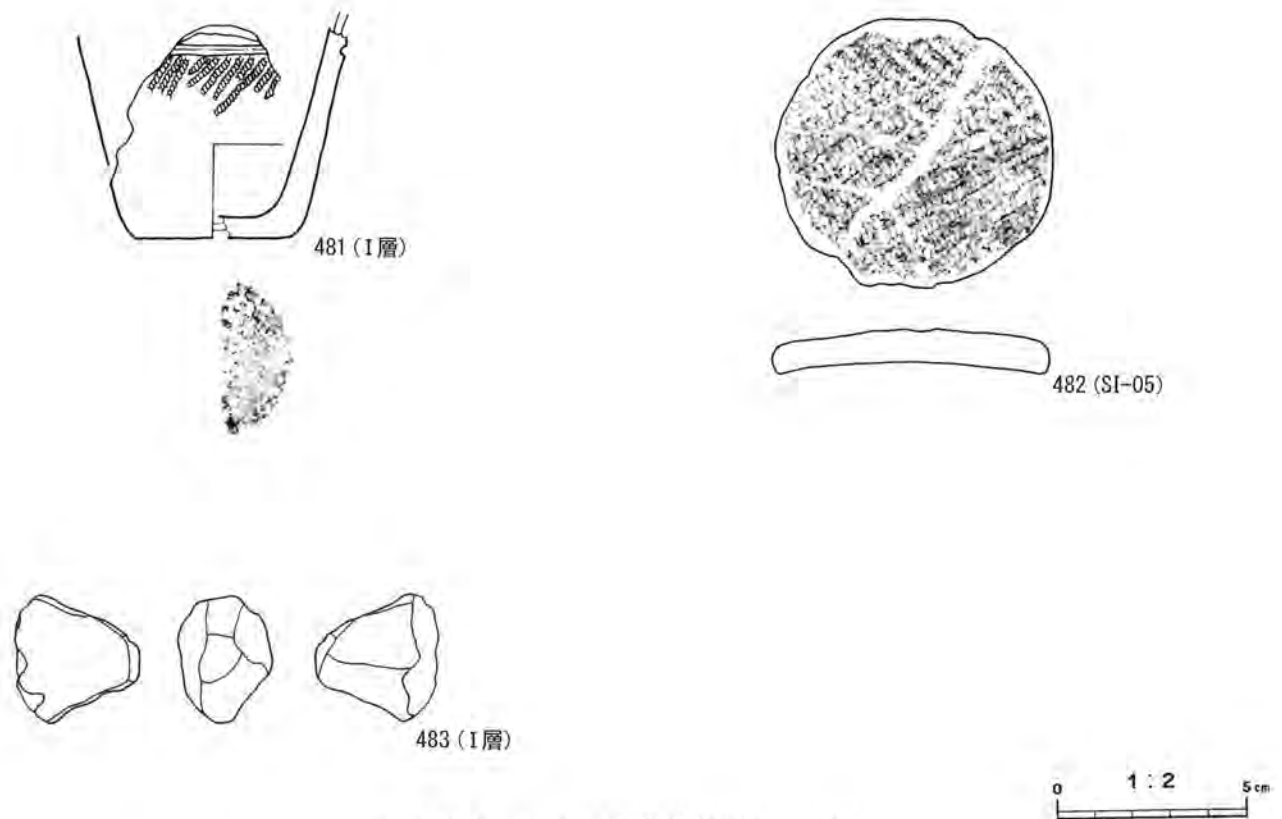
474 (III層)



第 62 図 1 次調査区遺構外出土石器 (7)



第 63 図 1 次調査区遺構外出土石器 (8)



第 64 図 1 次調査区遺構外出土土製品

中期 (208 ~ 267, 517 ~ 523)

517は口縁部に原体圧痕文を施し大木7b式と考えられる。208~219、518は口縁部が内湾し区画文を充填しているもの、大形の突起をもつもので大木8a式である。220~259、519は口縁部が内湾し渦巻文、クランク文を施しているもの、胴部に渦巻文などのモチーフを施しているもので大木8b式である。520、521は口縁部が内湾せず文様帯が退化し胴部に磨消縄文を施す大木9式である。522は磨消縄文を施す胴部破片、523は環状の突起の破片とともに大木10式と考えられる。

後期 (287 ~ 362, 524 ~ 556)

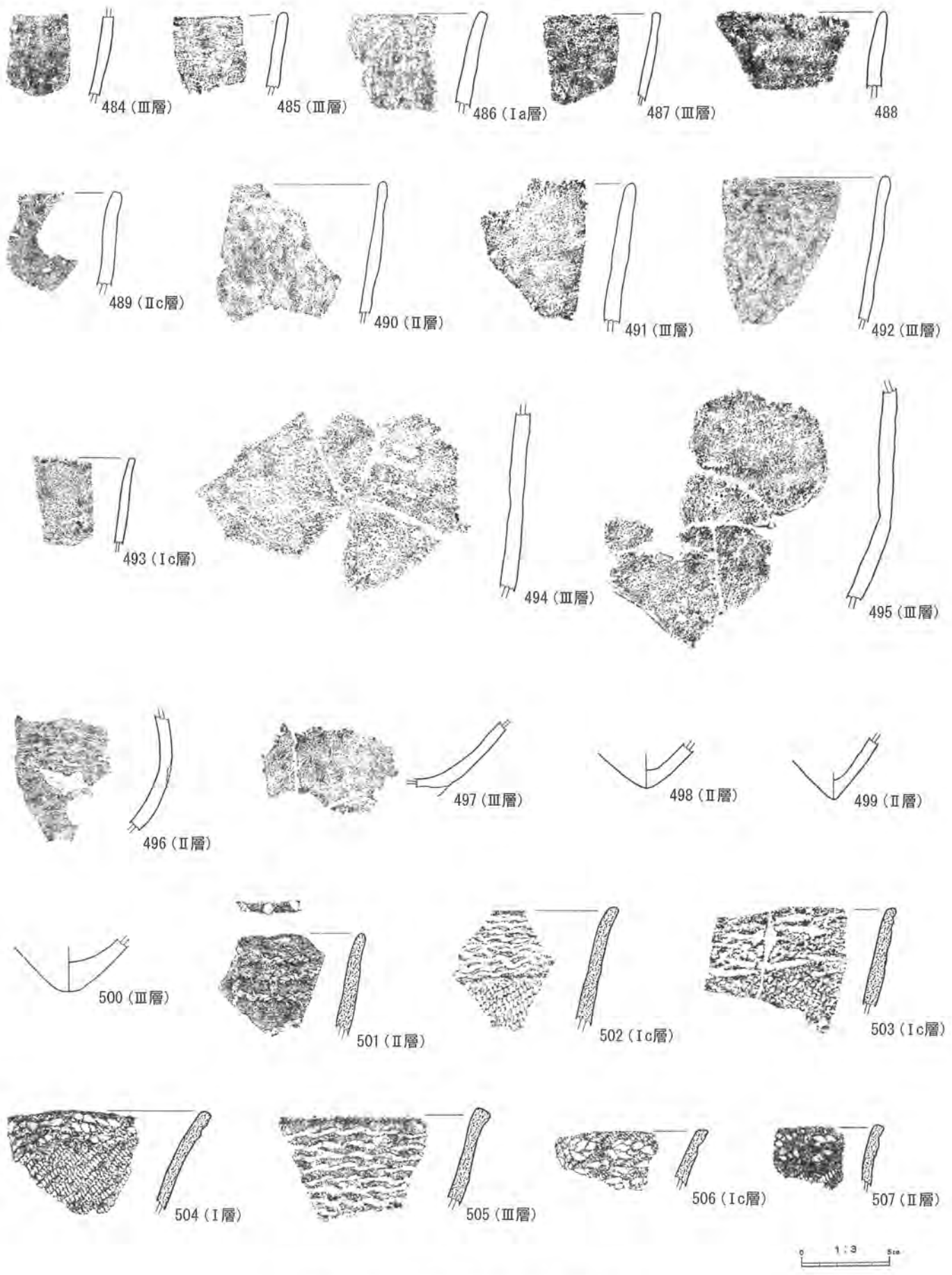
287~292は初頭の土器である。288は波状口縁で波頂部に突起を施し、胴部は縄文を地文とし2条の平行沈線を曲線状に施している。289は口縁部で窓枠状の沈線を施している。290~292は胴部で、楕円状の沈線を施している。293~363は前葉の十腰内1式の一群である。精製土器は口縁部に帯縄文や枠状のモチーフによる沈線文を施し、胴部には磨り消し縄文により曲線状、クランク状のモチーフを作出している。また、少数であるが、口縁部に刺突や()状の短沈線を施すものも見られる。粗製土器は口縁部を無文もしくは上端に縄文を施し、頸部には1条の原体圧痕を施すものが多い。

弥生土器 (第55図363~399、第68図557~593)、時期不明の底部 (第70図594~599)

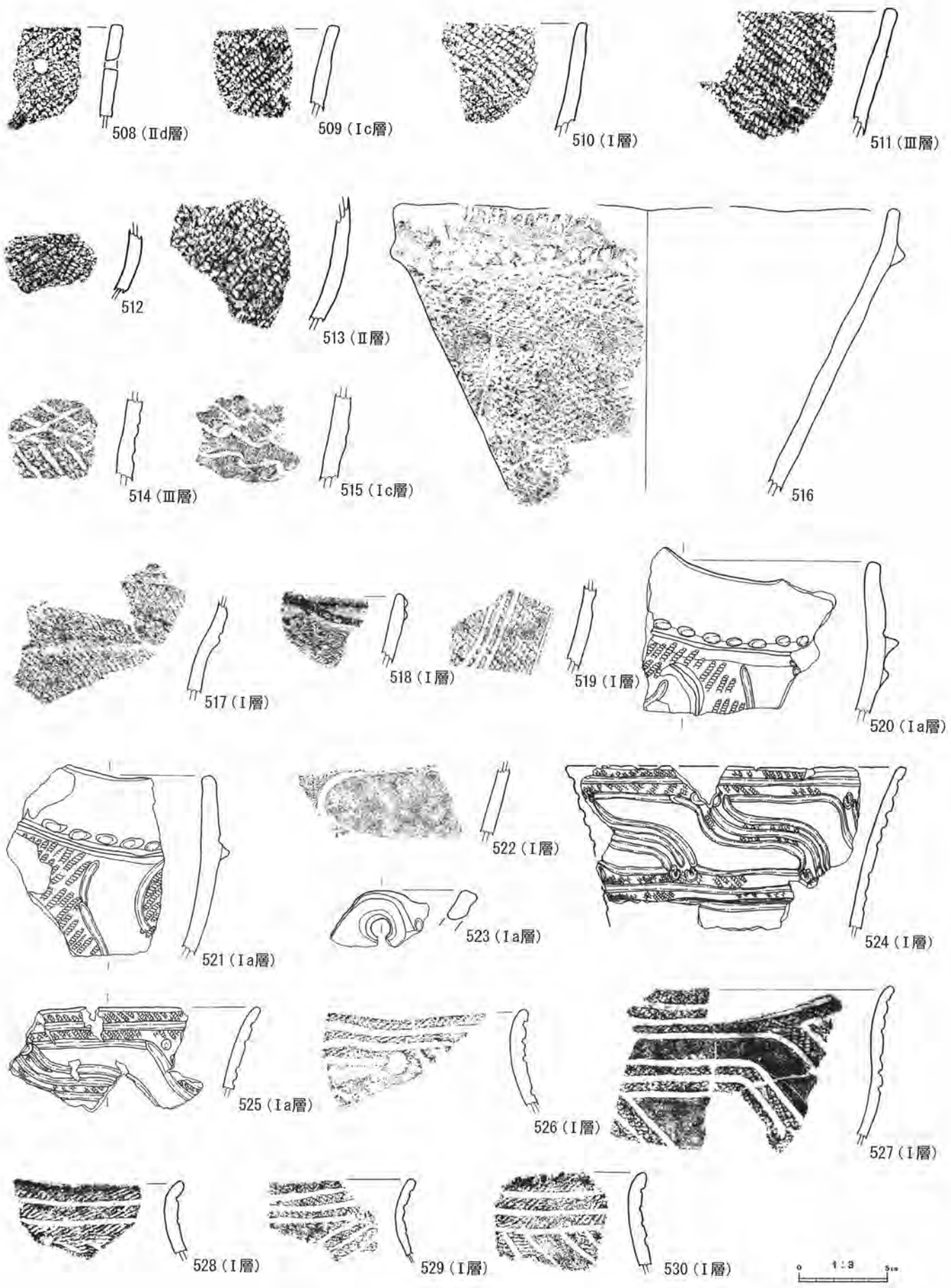
後期の赤穴式が出土している。器種は甕と壺で、縦走る縄文を地文とし沈線間に交互刺突文を施すものと縦走縄文のみのもとのとに大きく分かれる。

須恵器 (第55図400)、土師器 (第70図600、601)

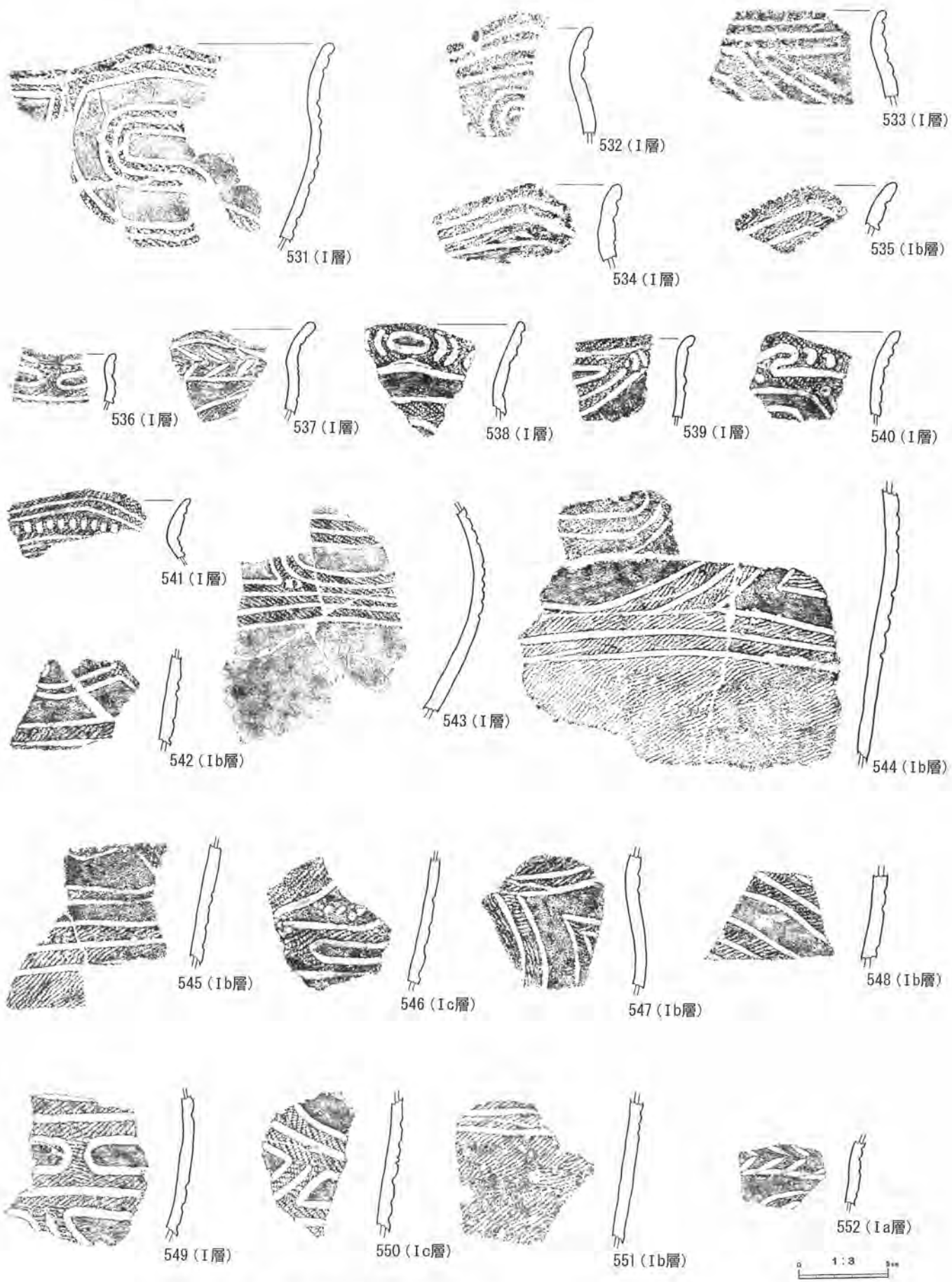
400は6世紀代の須恵器、坏身の口縁部~胴部の破片である。焼成は良好で胎土は1mmの白色粒子を含む他、微小な砂粒が認められるが、緻密である。色調は灰色(7.5Y4/1)である。復元によ



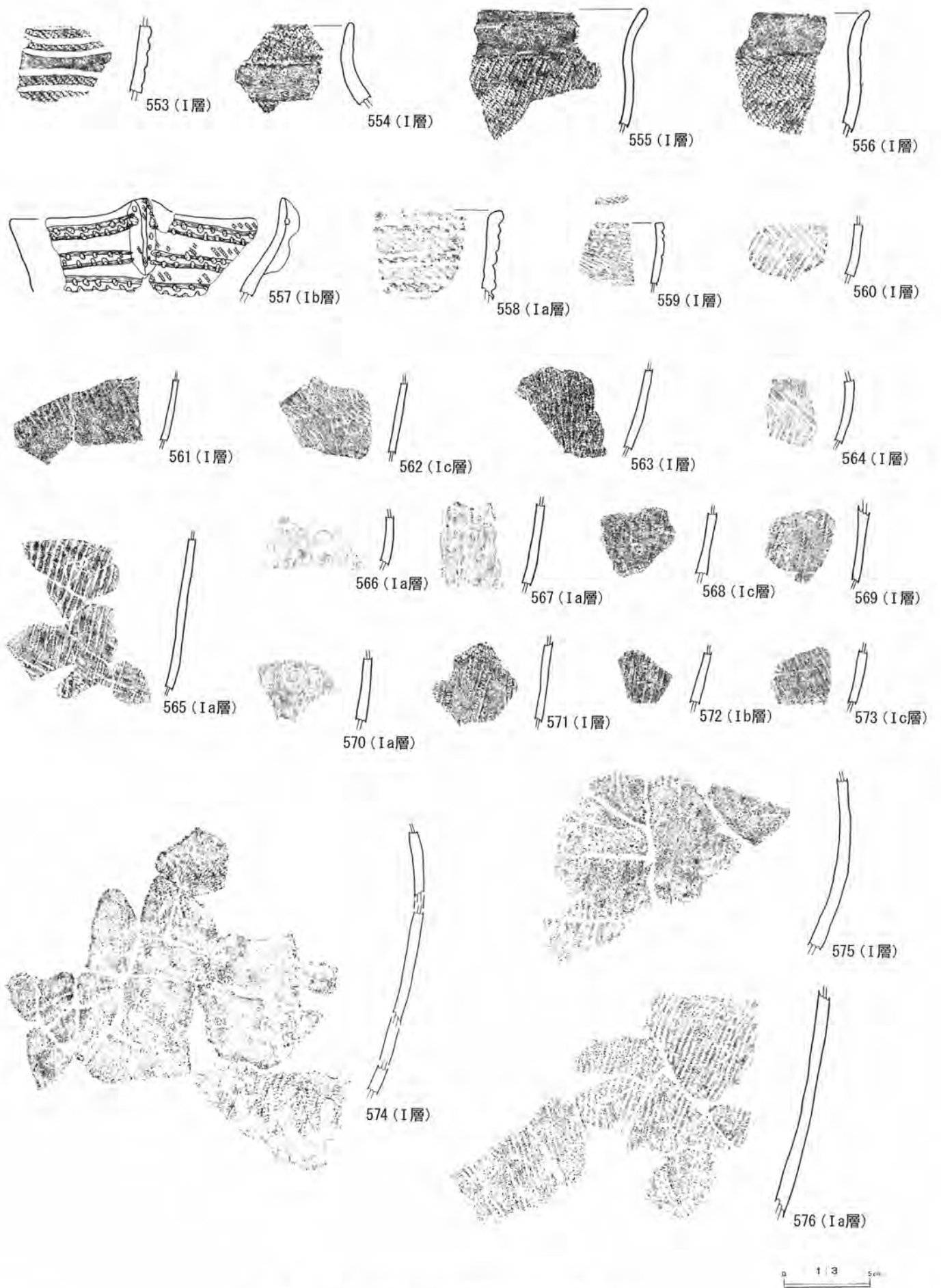
第 65 図 3 次調査区遺構外出土土器 (1)



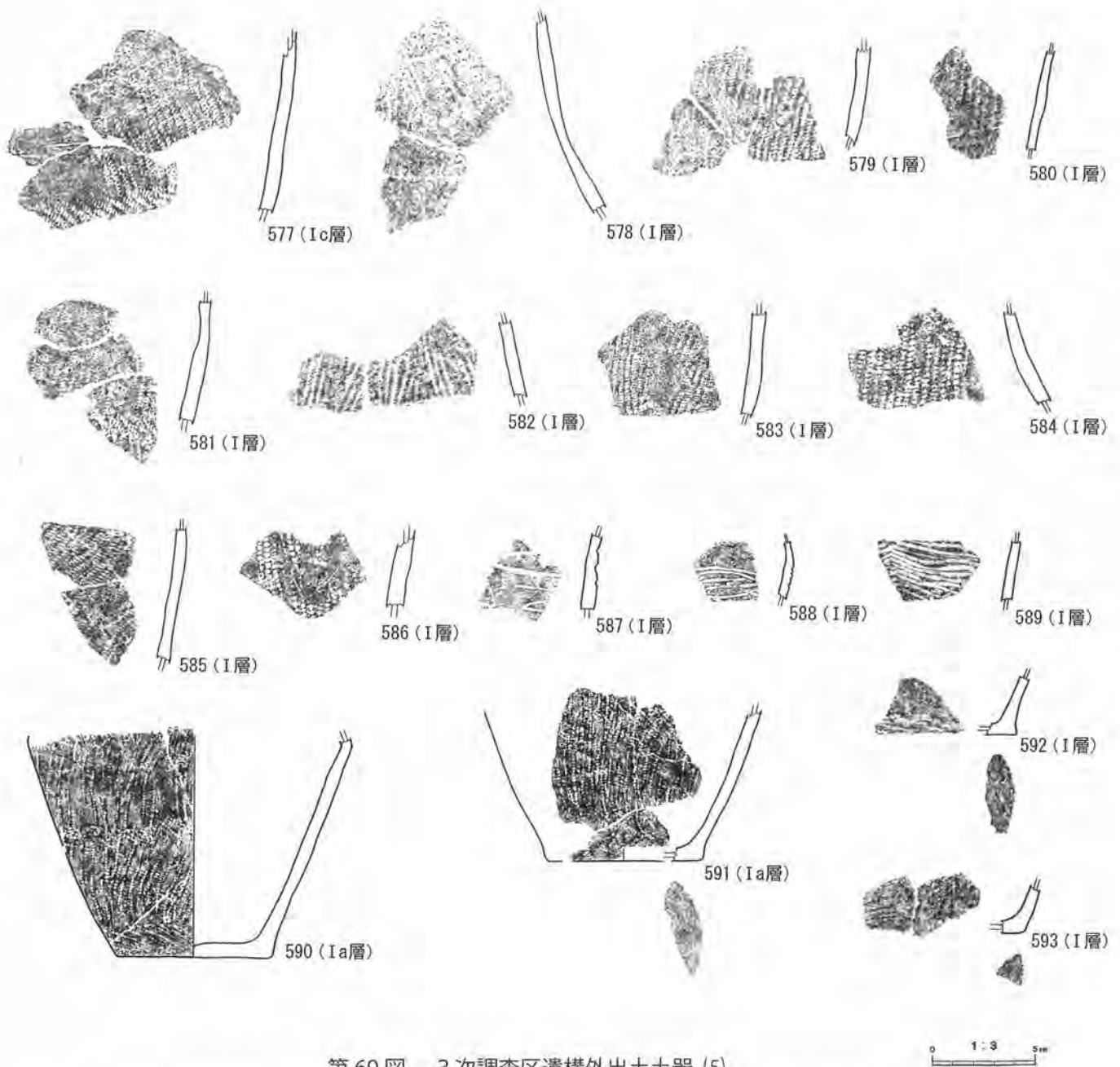
第 66 図 3 次調査区遺構外出土土器 (2)



第 67 図 3 次調査区遺構外出土土器 (3)



第 68 図 3 次調査区遺構外出土土器 (4)



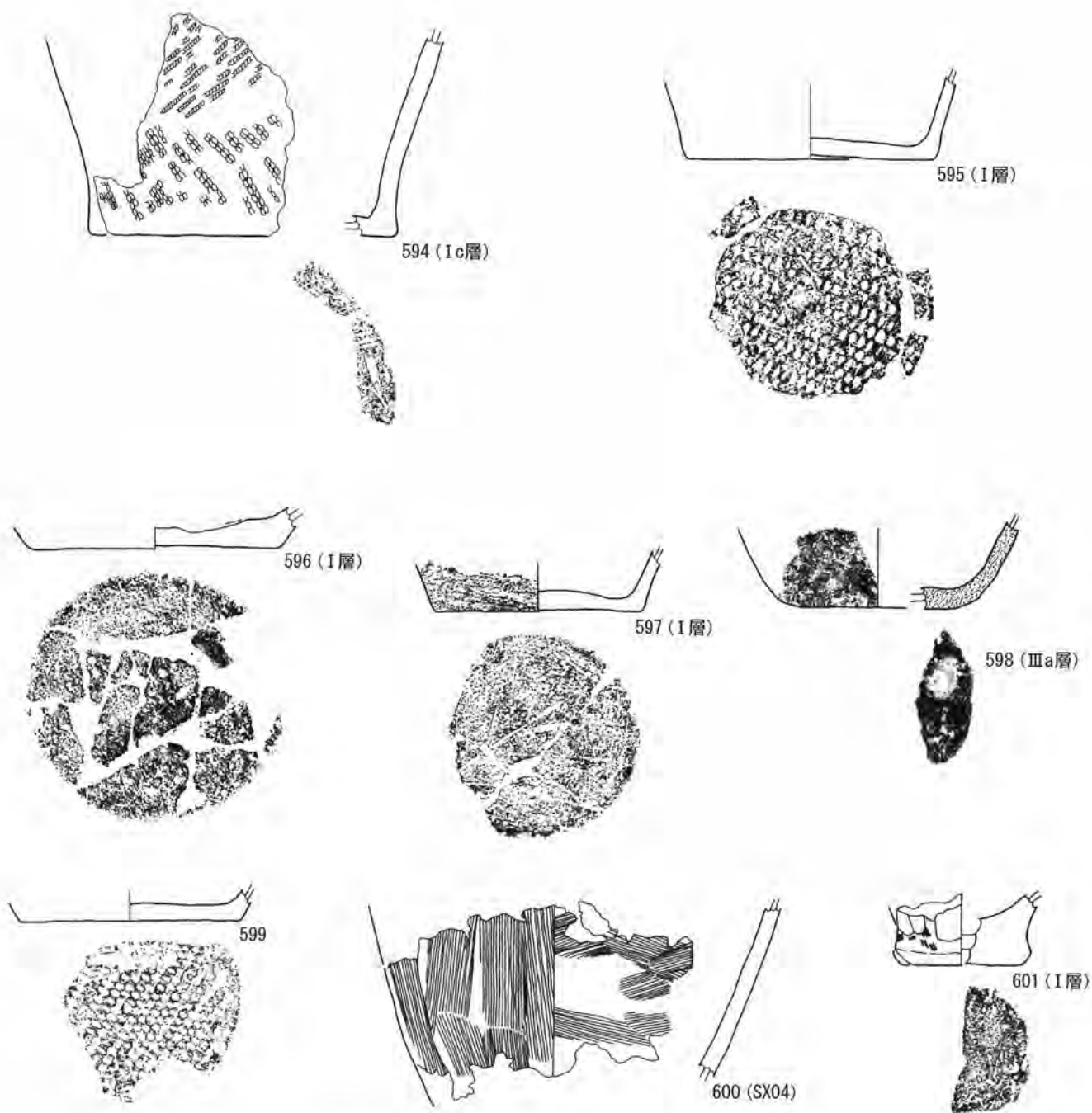
第 69 図 3 次調査区遺構外出土土器 (5)

る口径は 9 cm 弱である。外面頸部から内面にかけてヨコナデが施されている。受け部は外に開き、内面は立ち上がりの痕跡が確認され、1 条の沈線が巡っている。胴部には最大径の辺りで 2 条の突出が明瞭に観察され、底部に向かって急に窄まっている。全体の器形が不明であるが、形状から 6 世紀頃、中村浩編年の II 期 (中村 2001)、田辺昭三編年の 2 期 (田辺 1981) の範疇に入ると考えられる。この他、同一個体と思われる小破片が 1 点、蓋と思われる破片が 2 点出土している (写真 63)。

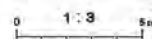
600 は土師器の甕で胴部下半にあたる。内外面にハケメを施している。601 は小型土器である。

石器 (第 56 図 401 ~ 第 63 図 480、第 71 図 602 ~ 第 73 図 631)

401 ~ 407、602 ~ 605 は石鏃である。凹基 (401 ~ 403、406、407、602 ~ 604)、凸基 (405)、有柄 (404、605) に分かれる。408 ~ 415、606 ~ 610 は石匙で、横形のものと同縦形のものがある。416 ~ 439、441 ~ 444、611 ~ 614 は剥片を利用した削器もしくは搔器である。剥片石器の中では最も多く出土している。形は様々で、刃部は側縁部、先端部、周縁に形成している。440、615 は石槍である。440 は両面に加工



第70図 1次・3次調査区遺構外出土土器

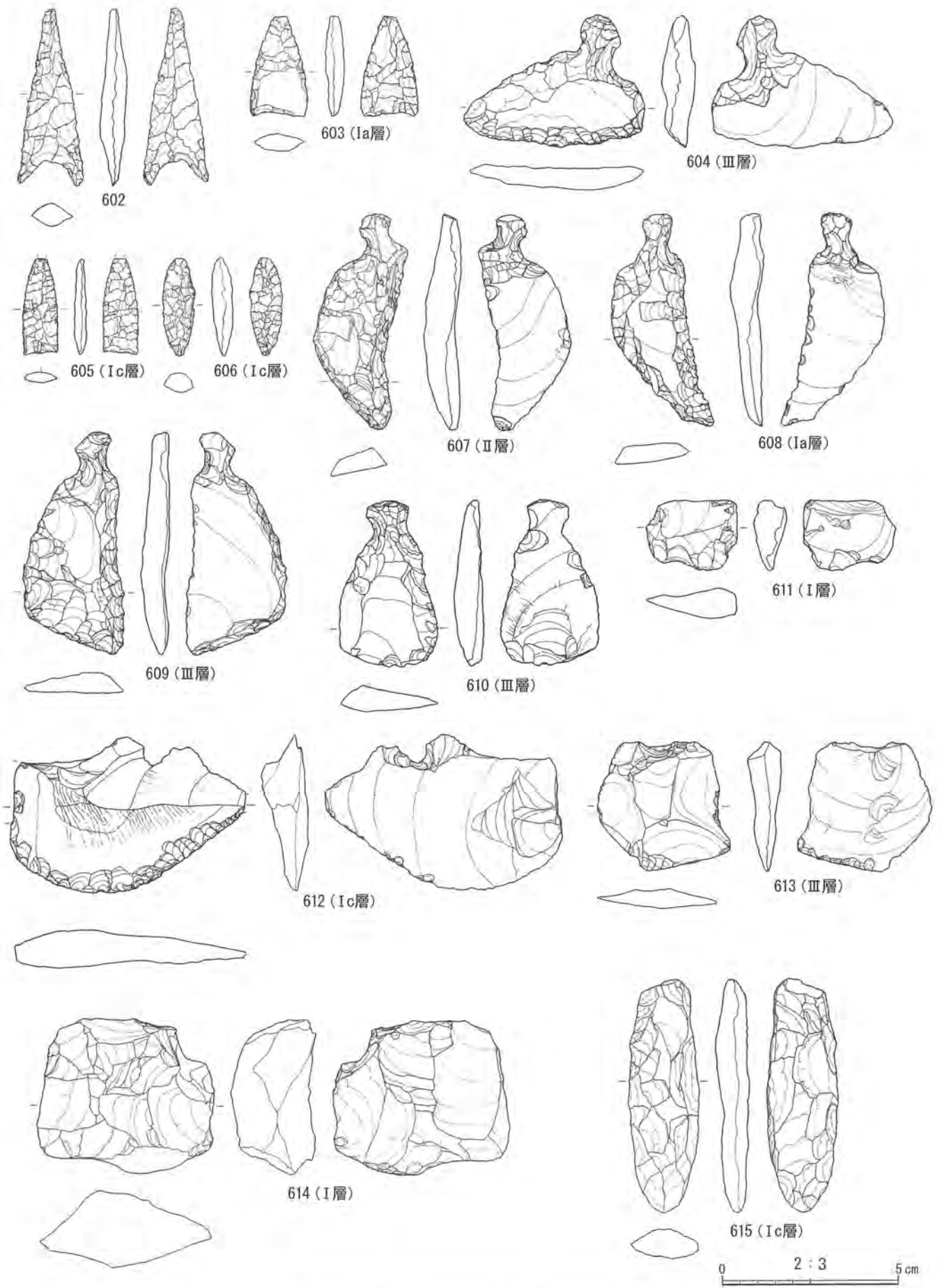


で先端部に細部調整を施している。

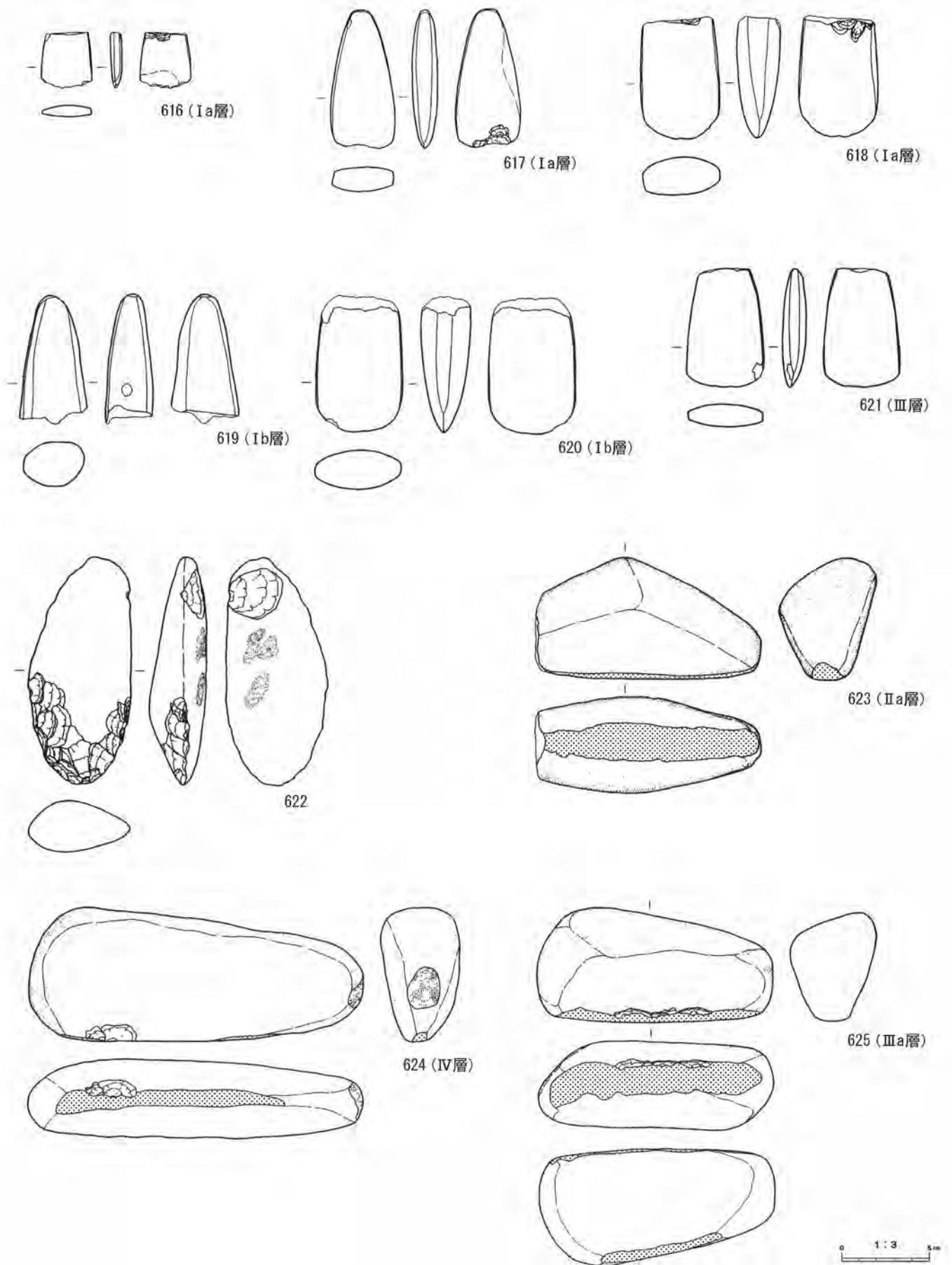
445～451、616～621は磨製石斧である。452、622は打製石斧である。453は礫器である。454～471、623～631は磨石である。石器の中では最も多く出土している。473～476は敲石である。477～480は凹み石である。

土製品 (第64図481～483)

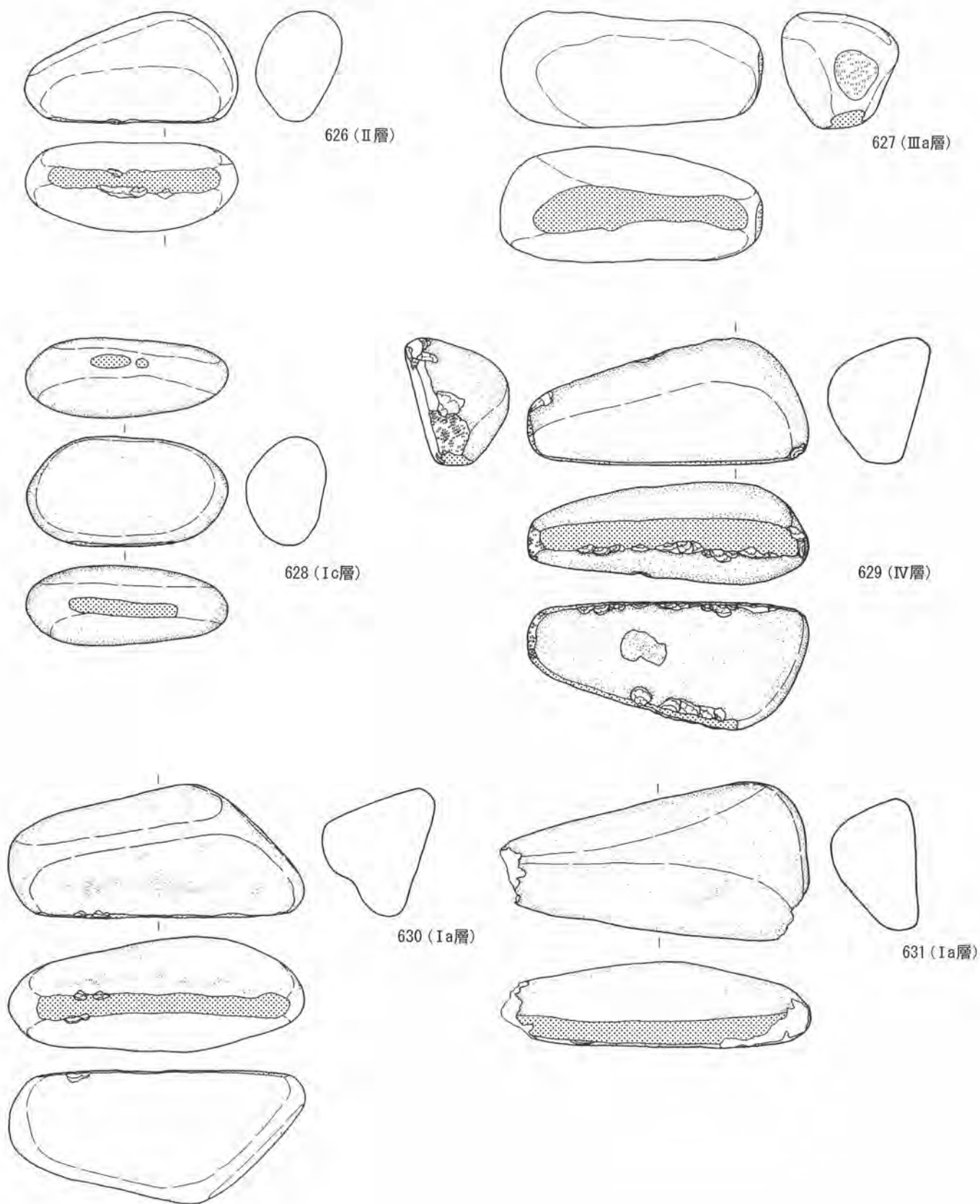
481はミニチュア土器である。482は土製円盤である。長軸7.5cm、短軸7.1cmを測る。時期不明である。483は突起状の土製品で土偶の腕と考えられるが、特徴に乏しくその他の器種の可能性がある。



第 71 図 3 次調査区遺構外出土石器 (1)



第72図 3次調査区遺構外出土石器(2)



0 1:3 5cm

第 73 図 3 次調査区遺構外出土石器 (3)

(3) 調査のまとめ

発掘調査により縄文時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、ピットを検出し、縄文土器、石器、土製品、弥生土器、土師器、須恵器、鉄製品が出土した。以下、各時代について検討していきたい。

・縄文時代

遺構は竪穴住居跡及び竪穴跡が3棟の他、土坑、焼土遺構を検出している。竪穴住居跡は平面が円形、小判形、不整円形で掘り込みが浅く炉を伴わない。床面は平坦で柱穴は浅く確認されないものもある。時期については床面一括の土器を伴わないため判断材料に乏しいが、1号竪穴住居跡(SI-01)と2号竪穴住居跡(SI-02)は埋土より早期の押型文土器が出土していることから縄文時代早期前葉と考えられる。市内では縄文時代早期の竪穴住居跡が検出された例がなく、報告された遺跡の中ではこれが初めての検出であり、しかも早期前葉であれば現在までのところ市内最古の所産となる。土坑は9基検出し、陥し穴が3基(SK-01、02、06)、貯蔵穴が3基(SK-03、04、07)検出されている。陥し穴は沢沿いの低地に、フラスコ形土坑が標高の比較的高い斜面上に検出されており、それぞれ群を成して検出されることがあることから、調査区外に同様の遺構が広がっている可能性が考えられる。焼土遺構については時期不明であるが、炉を伴わない竪穴住居跡が検出されていることから、中には竪穴住居跡と併存する屋外炉として使用されていた可能性が考えられる。

縄文土器は今回の調査で最も多く出土している。時期については断続的であるが草創期から後期までの遺物が出土した。草創期については爪形文を施す口縁部から胴部までの破片が1点出土した。特徴としては口唇部が平縁ではなく凹凸で、三日月状の爪形文が口縁部に施されている。文様は前述のとおりであるが、2段の「ハ」の字の爪形文と直下の2列の横向きの爪形文により口縁部文様帯を形成している。草創期の土器編年は「隆起線文土器→爪形文土器→多縄文系土器」とされており、出土した土器は草創期に位置付けることが出来る。類例については沿岸部ではこれが初出かと考えられる。県内では盛岡市の大新町遺跡で出土しているが、相違点として大新町遺跡の爪形文土器は平縁、爪形文が口縁部から底部まで多段に施されている点をあげることができる。当遺跡から出土した口縁部文様帯に爪形文を施す土器と全面に爪形文を施すものが時期的な変化によるものか、地域差によるものかについては判断材料に乏しく、保留せざるを得ない。

早期では初頭の口縁部に連続して刺突文を施す刺突文土器、無文土器、前葉の押型文土器、中葉の貝殻沈線文土器、後葉の条痕文土器、末葉の表裏縄文の土器が出土している。刺突文と無文土器は市内では初めての出土と考えられる。この組み合わせは滝沢市大釜館遺跡で出土している。1号竪穴住居跡(SI-01)と2号竪穴住居跡(SI-02)の埋土から出土した押型文土器も市内では初出で、口唇部には刻み目が施され、胴部にV字状の文様が表出されていることからいわゆる日計式である。貝殻沈線文土器は幾何学状のモチーフが表出されていることから吹切沢式で、市内では近隣の鎌ヶ崎館山遺跡、津軽石地区の荷竹日向IV遺跡で出土している。条痕文土器は内面に条痕を施すものと施さないものがあり、時期差があるものと思われる。また、細隆線文の破片が1点出土しており(第41図85)、関東地方の野島式、東北地方南部の槻木I式に併行するものと考えられる。末葉の表裏縄文は胎土に繊維を多量に含む特徴があり、赤御堂式と考えられる。

前期では初頭の上川名II式、あるいは口縁部に横位の燃糸文を施すもの、前葉の口縁部に不整燃糸文を施す大木2a式に位置付けられるもの、S字状連鎖沈文を施す大木2b式に位置付けられるもの、後葉の大木5式の土器が主に出土している。第44図132は口縁部文様帯が沈線と刺突文からなり上川名II式と考えられる。市内では千鶏遺跡で渦巻状の原体圧痕が施されるもの(千鶏I式)

が多いが、口縁部文様帯が沈線文、刺突文からなるものは稀である。口縁部に横位の燃糸文を施すもの（第44図133、134）は東北部の系統と考えられる。大木2a式と2b式は前期の土器の中で最も多く出土している。当該期の土器は市内では明確な遺構は報告されていないが、崎山貝塚南貝塚の包含層中から密に出土している。

中期では主に中葉の大木8a式、8b式が出土している。口縁部が内湾するキャリパー形の器形で、口縁部文様帯の変遷は他との出土例と調和的である。

後期では前葉の十腰内I式土器がまとめて出土している。精製土器は幅の狭い口縁部文様帯に縄文を地文とし、2～3条の平行沈線を巡らすものと杵状の沈線と「()」状の短沈線を施すものに分かれる。胴部文様帯は胴部上半までと幅が広く、モチーフはバラエティーに富み、曲線状、クランク状などの磨消縄文を施している。市内では数量は多くないものの、沿岸部の鎌ヶ崎館山遺跡、大付遺跡で出土している。

石器は削器と磨石の出土が多い。削器は石鏃や石匙とは異なり不定形で、剥片の腹面側縁部に細部調整を施したものや周縁すべてを細部調整しているものからなる。磨石は多くは断面が三角形のものと楕円形のものに分かれ、断面三角形のものは一側縁が平滑な使用面で、先端部に叩打痕が確認されるものがある。断面が楕円形のものには長軸の一側縁あるいは両側縁に平滑な使用面が確認される。

・弥生時代

遺構は検出されていないが、弥生土器が堆積土の上位I層で出土している。前述したとおり交互刺突文、縦走あるいは羽状に交差させた縄文からなるものが出土し、文様の特徴から後期の天王山式、赤穴式と呼ばれる土器である。市内では崎山地区の大付遺跡で当該期の土坑が検出されているが、当遺跡のように包含層中から出土する例が多く、竪穴住居跡は確認されていない。集落跡が確認された岩泉町にある豊岡V遺跡では標高130mの高位段丘上に立地し、10棟の竪穴住居跡が検出されている。このことから当調査区周辺の丘陵地に当該期の集落跡が存在すると想定される。

・古墳時代（6世紀）

I層中から須恵器の蓋坏の破片が4点出土した。出土した坏身（第55図400）は立ち上がりの部分が欠損しているが、痕跡が明瞭に観察される。時代は形態的特徴や色調、胎土から6世紀代の年代が与えられる。市内では空白期間であったが当該期の資料が初めて出土した。また、県内においても稀有な出土例である。搬入品であり、古墳の副葬品が想定されることから、周辺に当該期の古墳の存在が想定される。

・古代（平安時代）

竪穴住居跡が3棟検出された。出土遺物の土師器、あかやき土器、須恵器の形態かつロクロ使用とロクロ未使用のものが併存する特徴から9世紀前葉～中葉の所産である。このため3棟はほぼ同時期に構築されたものと思われる。竪穴住居跡の規模は2m～4m四方で、小・中規模である。規則的な柱穴は伴わず、カマドは北か東にあり、石で構築され、煙道は長軸1.5m前後を測る。4号竪穴住居跡、5号竪穴住居跡では床面中央部にあかやき土器の坏が出土している。当該期における市内での検出例は報告されていない。

出土遺物は土師器、須恵器、あかやき土器、砥石、鉄製品、琥珀の剥片である。土師器、須恵器、あかやき土器の坏については口径が14cm前後、底径が6cm前後～7cmに集約され、上述のとおりロ

クロ使用とロクロ未使用のものがある。ロクロ使用のものは無調整と再調整が施されているものが併存している。特記事項として5号竪穴住居跡の床面中央部から「寺」と判読できる墨書土器が出土した。墨書土器は6.5cmを測る底面全体に大きく墨書きされている。県内での出土例から最古の可能性があり、当地区は黒森山の麓にあることから、9世紀に黒森山と関わりがある寺院などの遺構が近傍に存在する可能性もある。

・総括

東日本大震災大津波による甚大な被害から5年、緊急の整備が完了した日の出町の災害公営住宅建設地において、縄文時代～平安時代までの遺構・遺物が確認された。出土した遺物の中には縄文時代草創期の爪形文土器、早期の無文土器、押型文土器や搬入品である6世紀の須恵器があり、期せずして当市の空白期間を埋める資料を得る成果となった。また、「寺」と判読できる墨書土器は県内でも最古級の資料として貴重な出土例であり、これについても非常に大きな成果であった。

今回の調査では丘陵部で2基の貯蔵穴が検出されているものの、その他の遺構と出土遺物は、丘陵を開析している沢に堆積した包含層から確認されており、縄文時代から沢沿いの低地が連綿と人々が生活の場としていたことが分かった。いずれにしても多様な時代の出土遺物の割にそれに伴う遺構が少ないことから、沢のさらに上流部や調査区の南側などの周辺に集落があったものと考えられる。特に県内でも稀有な縄文時代草創期、古墳時代の遺構が確認される可能性があることから、周辺の開発の際には慎重に取り扱う必要がある。

最後に本書の執筆にあたっては調査の主担当である派遣職員から引き継がれた基礎データ、所見をもとに作成したものであることを付記する。

参考文献

- 宮古市教育委員会 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
宮古市教育委員会 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』
宮古市教育委員会 1987 『寒風・早稲栃IV遺跡調査報告書』
宮古市教育委員会 1989 『千鶏遺跡－昭和62年度発掘調査報告書－』
宮古市教育委員会 1990 『鍬ヶ崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』
宮古市教育委員会 1990 『熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』
宮古市教育委員会 1995 『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』
宮古市教育委員会 2008 『荷竹日向IV遺跡－市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『日の出町I遺跡』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『佐原II遺跡』
田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店
岩手県立博物館 1982 『岩手の土器－県内出土資料の集成－』
中村 浩 2001 『和泉陶邑窯 出土須恵器の型式編年』 芙蓉書房出版
盛岡遺跡の学び館 2009 『盛岡の縄文時代草創期～早期の土器文化』

写真図版

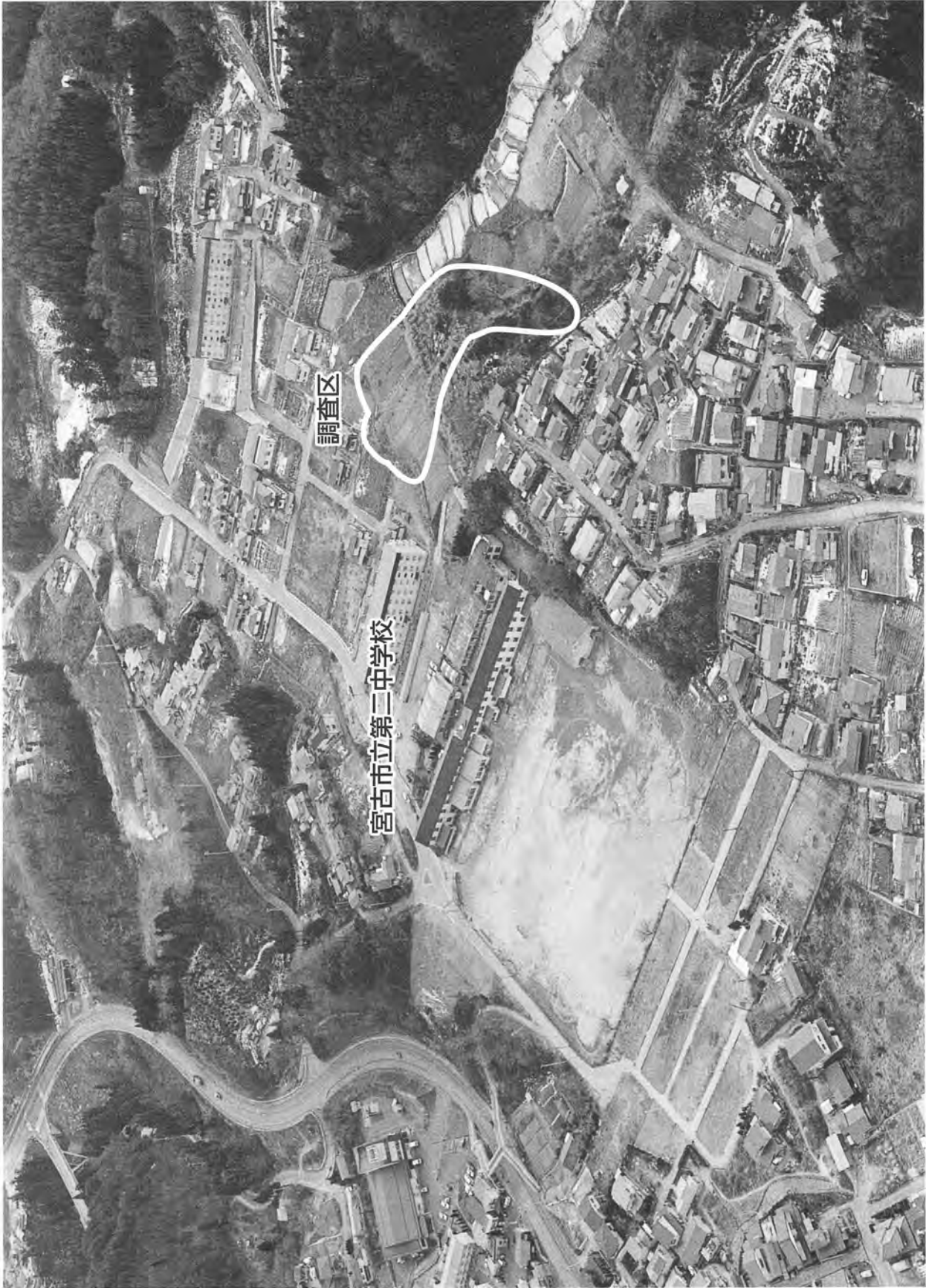


写真1 日の出地区航空写真(昭和58年撮影)



写真2 1次調査区全景(1)



写真3 1次調査区全景(2)



写真4 3次調査区南部近景(1)



写真5 3次調査区南部近景(2)



写真6 1号竪穴住居跡完掘(1)



写真7 1号竪穴住居跡全景(2)



写真8 1号竪穴住居跡土層断面(1)



写真9 1号竪穴住居跡土層断面(2)

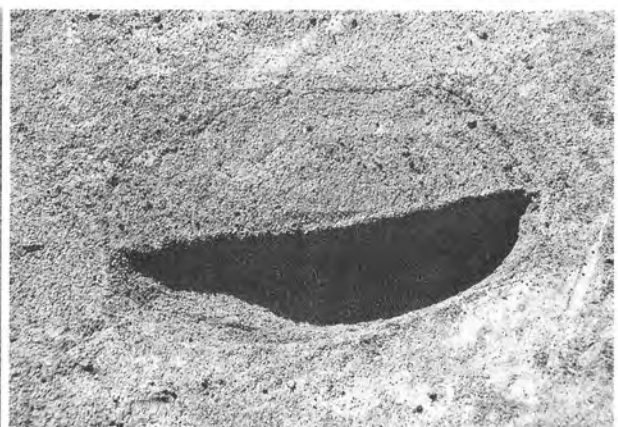


写真10 1号竪穴住居跡内ピット土層断面



写真11 2号竖穴跡完掘



写真12 2号竖穴跡土層断面

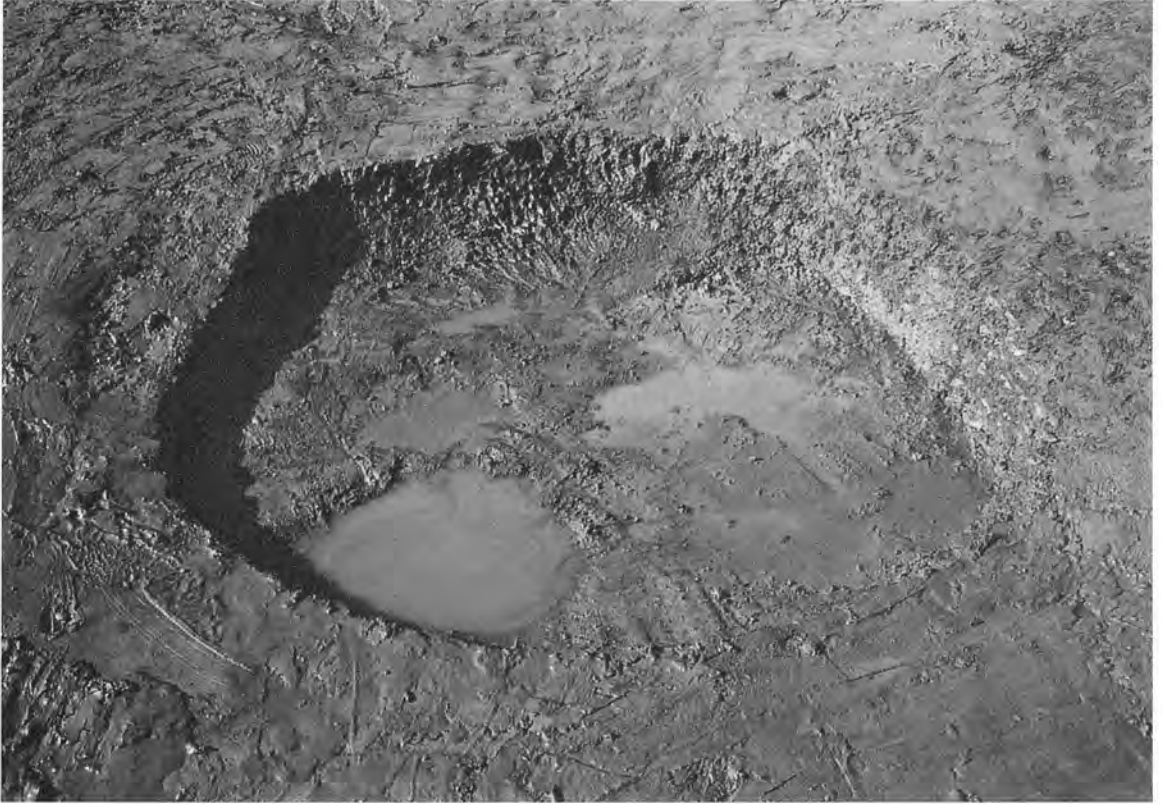


写真13 3号竖穴跡完掘



写真14 3号竖穴跡土层断面



写真15 4号竖穴住居跡完掘



写真16 4号竖穴住居跡土層断面



写真17 4号竖穴住居跡カマド完掘



写真18 4号竖穴住居跡煙道土層断面



写真19 4号竖穴住居跡床面遺物出土状況



写真20 5号竪穴住居跡完掘

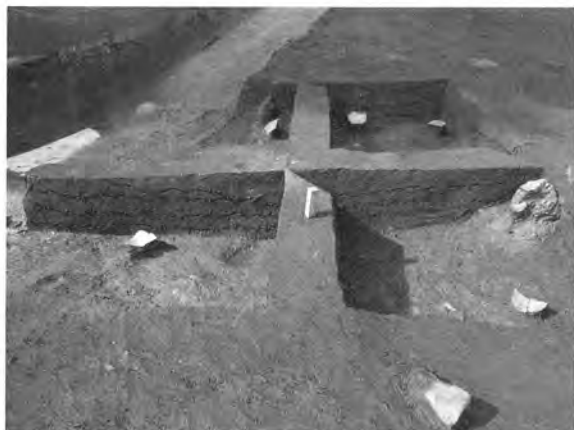


写真21 5号竪穴住居跡土層断面



写真22 5号竪穴住居跡東カマド煙道土層断面



写真23 5号竪穴住居跡北カマド煙道土層断面



写真24 5号竪穴住居跡北カマド完掘



写真25 6号竪穴住居跡完掘(1)



写真26 6号竪穴住居跡完掘(2)



写真27 6号竪穴住居跡カマド完掘



写真28 6号竪穴住居跡カマド袖土層断面



写真29 6号竪穴住居跡カマド袖土層断面



写真30 1号・2号土坑完掘



写真31 3号・4号土坑完掘



写真32 3号土坑土層断面



写真33 4号土坑土層断面



写真34 5号土坑完掘



写真35 6号土坑完掘



写真36 7号土坑完掘



写真37 ピット114完掘



写真38 2号焼土完掘



写真39 3号・4号焼土完掘



写真40 3号焼土土層断面



写真41 4号焼土土層断面

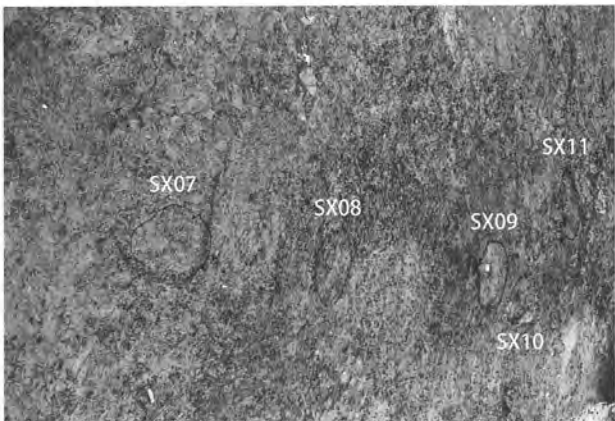


写真42 7~11号焼土検出面



写真43 18号焼土検出面



写真44 19号焼土検出面



写真45 1次調査区南西部ピット完掘(1)



写真46 1次調査区南西部ピット完掘(2)



写真47 1次調査区土層断面



写真48 3次調査区土層断面



写真49 1次調査区遺物出土状況(1)



写真50 1次調査区遺物出土状況(2)



写真51 作業状況



写真52 2次調査区調査完了状況



写真53 4次調査区調査完了状況



第33図2



第33図1



第33図3

写真 54 出土遺物 (1)



第33図6 墨書



第33図9



第33図7



第33図6

写真 55 出土遺物 (2)



第35図15



第35図16

写真 56 出土遺物 (3)

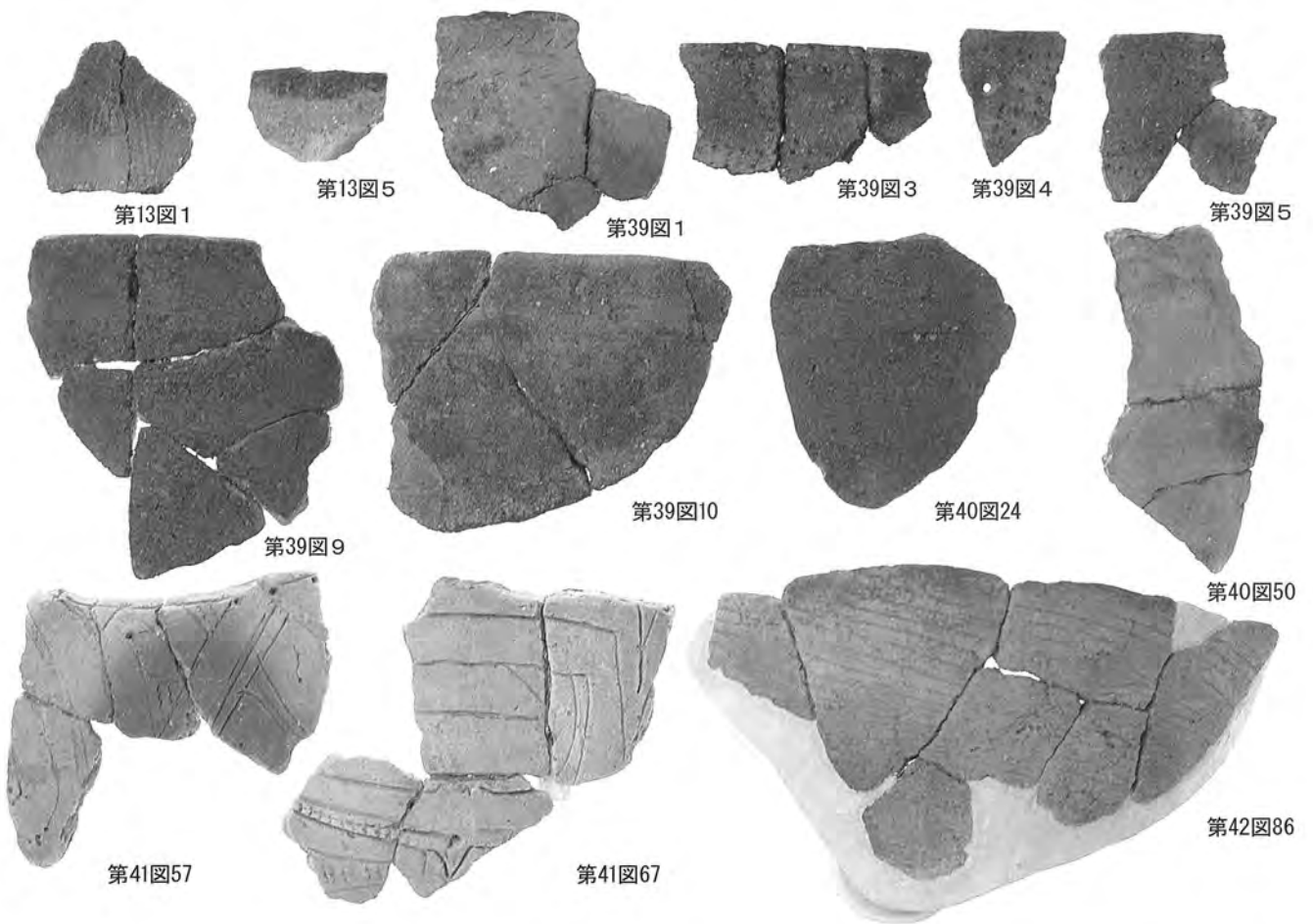


写真 57 出土遺物 (4)



第44图132



第44图137



第44图138



第44图139



第45图155



第45图162

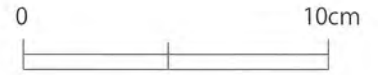
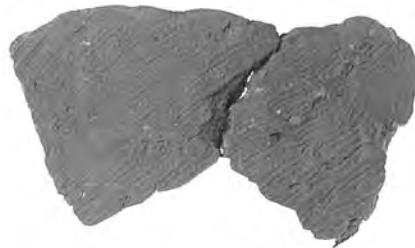


写真 58 出土遺物 (5)



第45图168



第46图184



第46图190



第47图192



第47图197



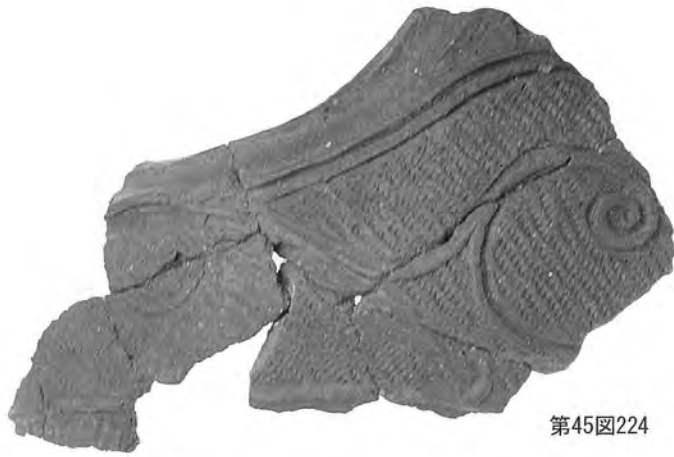
第48图208



第48图209



写真 59 出土遺物 (6)



第45図224



第50図253



第49図226



第50図258

写真 60 出土遺物 (7)



第36図17



第37図21



第52図288



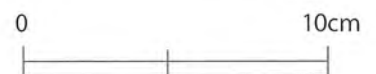
第52図300



第52図303



写真 61 出土遺物 (8)





第53図329



第66図524



第67図531



第54図347



第67図543



第67図544

写真 62 出土遺物 (9)



第55図363



第55図364



第55図373



第68図558



第55図392



第55図395



6世紀 須恵器



第55図400



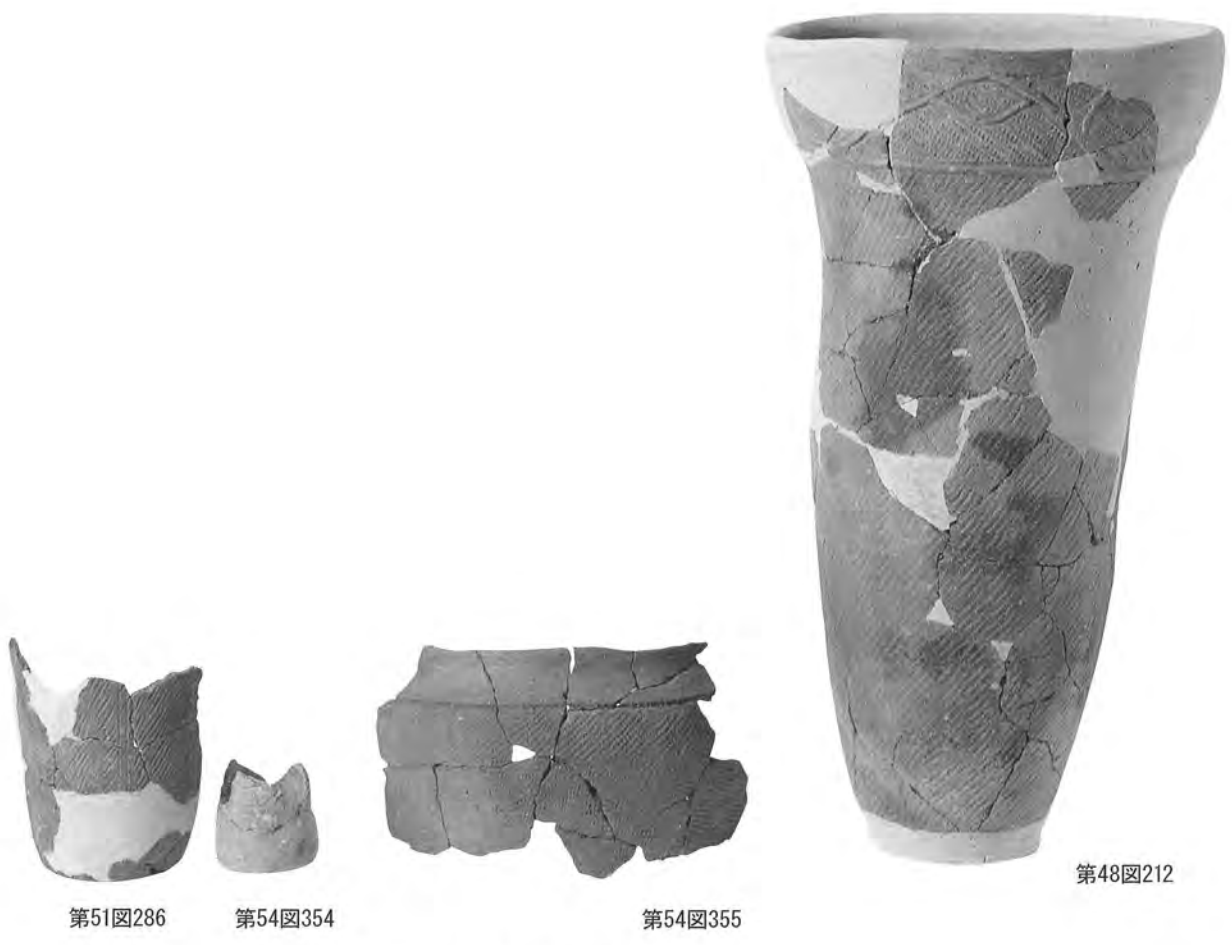
第64図483



第64図482



写真 63 出土遺物 (10)



第51図286

第54図354

第54図355

第48図212

写真 64 出土遺物 (11)

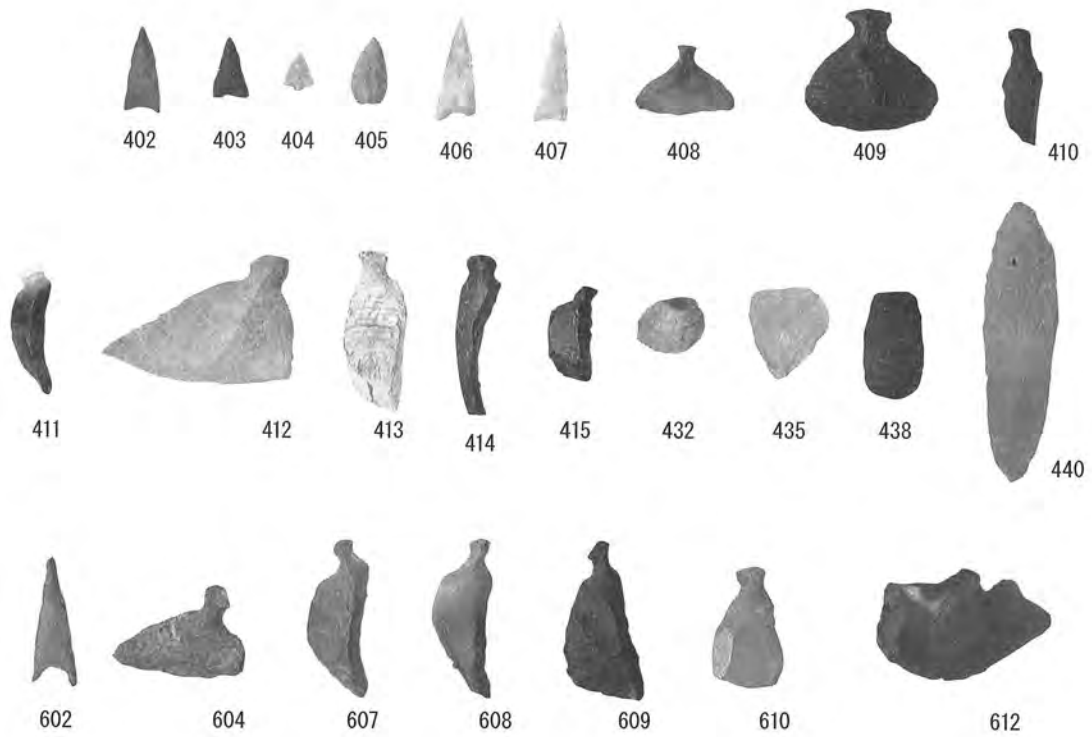


写真 65 出土遺物 (12)



第59図445

第59図447

第59図451

第60図457



第60図458

第60図461

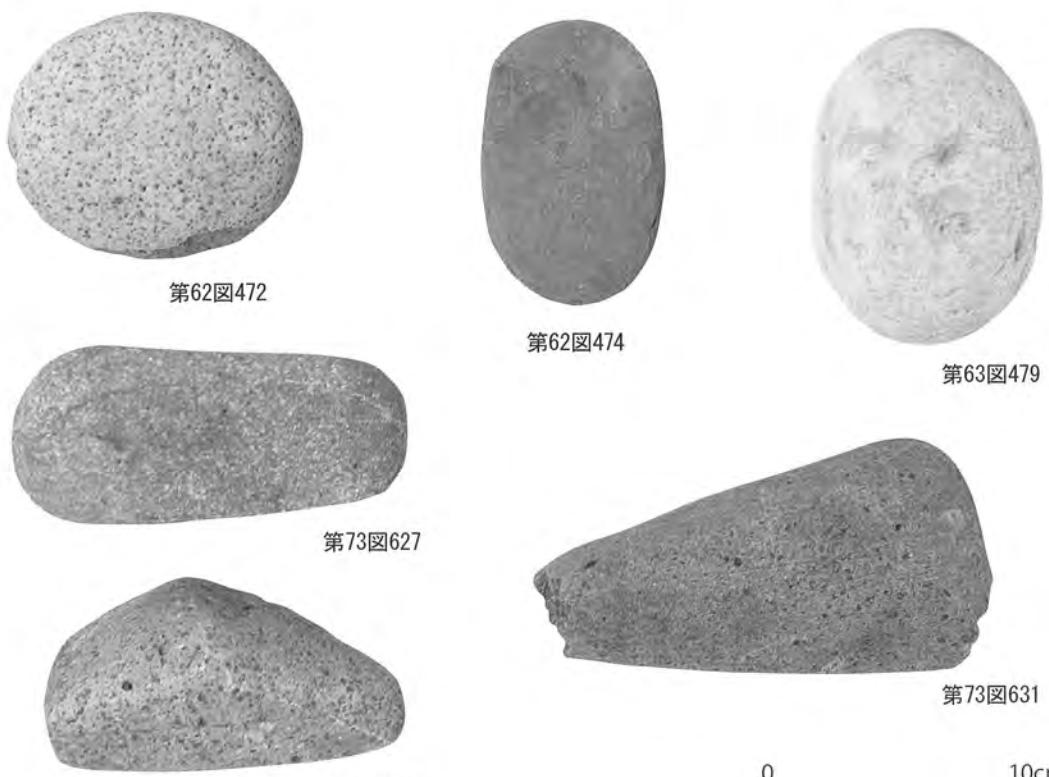
第60図462

第61図466

第61図467



写真 66 出土遺物 (13)



第62図472

第62図474

第63図479

第73図627

第72図623

第73図631



写真 67 出土遺物 (14)

報告書抄録

ふりがな	ひのでちょう2いせき							
書名	日の出町Ⅱ遺跡							
副書名	災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	97							
編著者名	江口 邦泰							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会文化課							
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1							
発行年月日	平成30年3月30日（2018年）							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ひのでちょう2いせき 日の出町Ⅱ遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 日の出町	3202	LG75-0284	39° 39' 6"	141° 57' 14"	250704～ 260110	1,949㎡	災害公営住宅整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
日の出町Ⅱ遺跡	集落跡	縄文、弥生、古墳、 古代		竪穴住居跡4棟 竪穴跡2棟 土坑9基 焼土遺構19基 ピット131基		縄文土器 弥生土器 土師器 あかやき土器 須恵器 石器 土製品		縄文時代草創期の土器が出土した。 6世紀代の須恵器が出土した。

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	年度	番号	年度		
1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	57	2002	『山口館跡—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	58	2002	『小沢VI大上遺跡—市内遺跡発掘調査報告書2—』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』	59	2003	『大又沢VI遺跡—東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書—』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』	60	2003	『上根井沢I遺跡、沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書3—』
5	1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』	61	2003	『早稲橋VI遺跡第6次調査—市内遺跡発掘調査報告書4—』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』	62	2003	『下在家I遺跡—平成14年度発掘調査報告書—』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	63	2004	『大程II遺跡、平浜遺跡—市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書—』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』	64	2005	『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』
9	1986	『宮古市遺跡分布図—昭和60年度版—』	65	2006	『高浜VI地神遺跡—高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書—』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	66	2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲橋II遺跡第7次調査—市内遺跡発掘調査報告書5—』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』	67	2006	『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込I遺跡—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』
12	1987	『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』	68	2006	『木戸井内IV遺跡—宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』
13	1987	『崎山遺跡群I—昭和60年度発掘調査概報—』	69	2006	『菅ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書6—』
14	1988	『青猿I・下在家II・千徳城遺跡群(堀合館)—昭和62年度発掘調査報告書—』	70	2007	『山口館跡—市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
15	1988	『崎山遺跡群II—昭和62年度発掘調査概報—』	71	2007	『近内館跡—宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書—』
16	1989	『千鶴遺跡—昭和62年度発掘調査報告書—』	72	2007	『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査—市内遺跡発掘調査報告書7—』
17	1989	『トロノ木I遺跡—第1~7次発掘調査報告書—』	73	2007	『弘川館跡第2次調査—宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』
18	1989	『崎山遺跡群III—昭和63年度発掘調査概報—』	74	2008	『荷竹日向IV遺跡—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—』
19	1989	『高根遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
20	1989	『狐崎VI遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第IV期内容確認調査概報(骨角器篇)』
21	1989	『崎山トロノ木IV遺跡—昭和63年度調査報告書—』	77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書6』
22	1990	『狐崎遺跡—平成元年度発掘調査報告書—』	78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書7』
23	1990	『崎山遺跡群IV—平成元年度発掘調査概報—』	79	2012	『重茂館遺跡群-第2次発掘調査報告書-』
24	1990	『磯鷄館山遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	80	2012	『八木沢駒込I遺跡・八木沢駒込II遺跡-市道磯鷄金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
25	1990	『鎌ヶ崎館山貝塚—平成元年度発掘調査報告書—』	81	2014	『蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込I遺跡・山口駒込II遺跡-市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
26	1991	『崎山遺跡群V—平成2年度発掘調査概報—』	82	2014	『赤畑東遺跡—山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書—』
27	1991	『青猿I・千徳城遺跡群—平成元年・2年度発掘調査報告書—』	83	2015	『千徳城遺跡群—一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書—』
28	1990	『熊野町遺跡—昭和63年度発掘調査報告書—』	84	2015	『黒森町I遺跡—宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書—』
29	1991	『弘川I遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』	85	2015	『菅ノ沢遺跡・榎館I遺跡-市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
30	1992	『金浜I遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』	86	2016	『千徳城遺跡群-アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
31	1992	『重茂館遺跡群—第1次調査報告書—』	87	2016	『重茂館遺跡群-重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-(第3次調査)』
32	1992	『黒森町I遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』	88	2016	『重茂館遺跡群-重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-(第4次調査)』
33	1992	『高根遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』	89	2016	『重茂館遺跡群-重茂漁業協同組合重茂給油所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-(第5次調査)』
34	1992	『豊沢遺跡—平成2年度発掘調査報告書—』	90	2016	『下大谷地VI 大谷地I遺跡-市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
35	1992	『大付遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』	91	2016	『千鶴III遺跡-千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係発掘調査報告書-』
36	1992	『細越I遺跡・芋野VI遺跡—農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』	92	2016	『金浜館跡-市道磯鷄金浜線(金浜工区)道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
37	1992	『崎山遺跡群VI—平成3年度発掘調査概報—』	93	2016	『乙部II遺跡—田老地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
38	1993	『萩沢VI遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』	94	2017	『高浜II今ヶ洞遺跡—災害公営住宅整備事業(高浜)関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
39	1993	『早稲橋VI遺跡—第1次・第2次発掘調査報告書—』	95	2017	『刈屋清水野遺跡 下刈屋I遺跡—市道刈屋和井内線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
40	1993	『崎山遺跡群VII—平成4年度発掘調査概報—』	96	2017	『沼里館跡—都市防災総合推進事業(公園整備)関係発掘調査報告書—』
41	1994	『崎山遺跡群VIII—平成5年度発掘調査概報—』	97	2017	『日の出町II遺跡—災害公営住宅整備事業(日の出町)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
42	1995	『赤前I 牛子沢遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』			
43	1995	『磯鷄館山遺跡発掘調査報告書』			
44	1995	『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』			
45	1995	『笹沢I・加村・仲組III・堺ノ神遺跡—市道浦の沢線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
46	1995	『花原市遺跡—平成4年度発掘調査報告書—』			
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報I 早稲橋VI遺跡・崎山貝塚』			
48	1996	『大付遺跡—平成5年・6年度発掘調査報告書—』			
49	1997	『花原市遺跡—平成8年度発掘調査報告書—』			
50	1997	『白石遺跡—第6次発掘調査報告書—』			
51	1998	『赤畑・天神山・山口館—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』			
52	1998	『藤州遺跡—平成9年度発掘調査報告書—』			
53	1999	『赤前III・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI釜屋ヶ沢・小堀内III遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
54	1999	『千鶴IV遺跡—水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			
55	1999	『崎山貝塚—第12次・13次内容確認調査概報』			
56	2000	『木戸井内VI・木戸井内III・上村III遺跡—特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』			

宮古市埋蔵文化財調査報告書 97

ひ の で ちょう 2 い せ き
日の出町Ⅱ遺跡

—災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 30 年 3 月 30 日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒 028-2101 宮古市茂市第 2 地割 112 番地 1
TEL. 0193-72-2111

編集 宮古市教育委員会事務局 文化課
〒 027-0097 宮古市崎山第 1 地割 16 番地 1
TEL. 0193-65-7526

印刷 株式会社文化印刷
〒 027-0037 岩手県宮古市松山 5 地割 13 番地 6
TEL. 0193-62-4578
